

3 新中央政府樹立に向けた動静

462

昭和14年6月23日

在北京堀内大使館参事官より
有田外務大臣宛(電報)

吳佩孚を中心とする中央政府樹立説台頭の原

因について

付記 昭和十四年六月十八日

吳佩孚と大迫少将との会見記録

北京 6月23日後発

本省 6月23日夜着

第七四二號(部外極秘)

一、中央政府樹立ニ關シ最近吳佩孚中心説擡頭シ支那側一部ニテハ種々臆測ヲ逞ウシツアル如ク往電第七四一號王克敏ノ消極態度モ右ヲ反映セルニアラスヤトモ見ラルル處汪工作ノ片鱗カ傳ヘラレ居タル際突如右吳中心説力起リ來レル原因トシテハ

(一) 本月初メ津崎厚生省政務次官カ吳ニ會見シ日本ハ朝野一致シテ吳カ出山シ時局收拾ヲ擔當セラルルヲ熱望シ

居レル旨語り

(二) 去ル十八日大迫少將カ吳トノ會見ニ於テ「日本政府ハ一致シテ吳將軍カ出馬シテ時局ヲ收拾セラルルコトヲ御委セスルニ決定シ一方汪精衛氏モ亦起ツテ將軍ト一致合策和平工作ニ乗出サレシコトハ日支兩國ノ爲日支事件解決上慶賀ニ堪ヘス」ト述ヘタルニ對シ吳カ之ニ贊意ヲ表スルト共ニ大總統的口吻ヲ以テ臨時維新兩政府ノ接收等ニ言及セル爲本會談ノ内容自然列席者ヨリ外聞ニ漏レタル結果

ノ二點ナリト認メラル

二、右會談ニ列席セル岡野ハ原田ニ對シ大迫少將ハ吳七汪三ノ氣分ヲ以テ吳ニ應對セル爲吳ノ尊大心ニ拍車ヲ掛ケタルモノノ如ク自分(岡野)ノ承知セル汪七吳三ノ日本ノ方針トハ背馳シ居リ從テ今後吳ノ氣持ヲ三ニ引下クルハ容易ノ業ニアラス困ツタ次第ナリト内話セル趣ナリ
上海へ轉電セリ

(付記)

昭和十四年六月十八日吳佩孚大迫少將會見記錄

著席左ノ通

大迫	出	吳佩孚	大迫
神田	林		岡野
張	張燕卿		
張	張英華		
		陳仲孚	符定一
		陳廷傑	

大迫 閣下ニ御別レシテ二ヶ月東京方面ノ工作ニ依リ敝國
内閣諸公竝關係筋トモ充分ノ了解ヲ遂ケタル結果皆吳將
軍ノ出山シテ時局ヲ收拾セラルコトニ御委セスルニ決
定セリ一方汪精衛先生又起チテ吳將軍ト一致合作和平工
作ニ乘リ出サレシコトハ日支兩國々交是正ノタメ且日支
戰事ヲ解決スル上ニ於テ慶賀スヘキコトテ此ノ點將軍ノ
御諒察ヲ乞フ

吳 閣下ノ申サレル處ニ依レハ貴國朝野ノ好意ハ實ニ感謝
スル次第ニテ和平ヲ共謀スルコトモ余ノ最モ希望スル所

(欄外記入一)

ニテ殊ニ汪先生ト合作シテ中日ノ紛糾ヲ解決シ時局ヲ收
拾スルコトハ余ノ最モ贊同スル所ナリ

大 此ノ際吳將軍ニ請フテ代表數名ヲ指派シテ豫備工作ヲ
ナシ交渉ヲ進行スルニ資シタシ右ハ將軍力在野ナル丈ケ
必要ナルコトナリ

吳 余ハ目下在野ノ身ナレハ命令ヲ行使スルコト不可能ニ
テ未タ代表者ヲ指派シテ交渉スルニ便ナラス御了解ヲ乞
フ若シ臨時維新兩政府ヲシテ先ツ引繼ノ名冊ヲ造具シ送
付シ來ルナラハ余ハ之ヲ接收シタル後余ニ始メテ主權カ
生スル次第ナルヲ以テ彼等ヲシテ專ラ余ノ命令ニ聽カシ
ムルヲ得ヘク即チ余ノ指示スル所ノ負責ノ人員ト交渉ノ
任ヲ負擔シ事ニ任セシムルナリ

「余ハ出山後ハ中國ノ元首ナルヲ以テ當ニ貴國ノ天皇ト
平等ノ地位ニ在ルモノナレハ余ノ任命スル國務總理ハ當
ニ貴國ノ内閣總理ト平等ノ地位ニ在リ余ノ任命スル各部
總長ハ當ニ貴國ノ各省大臣ト平等ニ在ルモノナレハ當ニ
正式交渉ヲ進行スヘキナリ(右言ヒ終ルト共ニ吳ハ元首
ノ地位ニ非サレハ出山セスト大見得ヲ切ルカ如キ態度ヲ
示セリ)」

(欄外記入二)

大 吳將軍ノ示サレタル所ハ御尤ナルカ但シ余ノ希望スルトコロハ即チ此ノ正式交渉ノ前ニ將軍ヨリ數人ヲ指名シテ周旋商酌ニ便シ臨時維新兩政府ヨリ名冊ヲ造送セシメ接收ノ方法ヲ進行セシメントスルナリ

吳 斯ノ如キハ茲ニ列席ノ諸位カ皆之ヲ擔當スヘキテアルカラ必要アレハ大迫少將ニ於テ指名サレテ差支ナシ又余ノ云フ所ハ臨時維新兩政府ヲ接收シテモ其ノ現在ノ人員及日系人員ハ暫ク當ニ一律任用スヘク余ノ部下モ亦人員ヲ増加参加セシムルニアリ「將來余カ出山ノ際ハ現在ノ人員カ或ハ十倍以上ニ超過スルヤモ知レス」

岡野 大迫將軍ノ御意思ノアルトコロ尙吳將軍ニ充分御了解合點ニ達セヌトコロカアル模様ナレハ余ハ兩三日中此ノ會見記ヲ筆記シテ詳細説明ノ任ニ當ルヘシ

吳 岡野氏ノ言葉ハ極メテ好シ余ノタメ詳細説明セラレタシ

本會談ノ結果岡野ハ吳側ヨリノ會見記錄ヲ取寄セ自己ノ記錄ト突合セタル結果本記錄ヲ作成セリ

尙岡野ヨリ代表指派ノ件ニ付吳大間ニ誤解アリタルヲ以テ吳ニ對シ大迫氏ノ意ヲ體シ代表云々ハ正式政府成立後ノ謂

ニアラスシテ不取敢進行上吳ノ配下ヲ指名セラレンコトヲ説明セル趣ニテ亦「一切ヲ御委セスル」ノ意ハ正式政府成立シテ前途ノ見込ミカ大體付イタ上ノコトナルコトニ付然ルヘク説明セル由

右會談ノ印象トシテ岡野ノ原田ニ對スル極祕内話ニ依レハ大迫少將ノ氣持ハ自分ノ聽キ及ヘル東京ノ方針タル時局收拾策トシテノ吳三汪七ノ方法ニ出テスシテ吳七汪三ノ氣持ヲ以テ應對シタル結果前記ノ如キ會談ノ結果トナレルモノニテ吳ノ元首氣分ヲ三ニ迄引下クルニハ今後容易ナラサル工作ヲ要スル次第ナル趣ナリ

(了)

(欄外記入二)

注意

「」ハ翌日吳側ヨリ會見記ヨリ削除方申出來レリ

(欄外記入二)

「」削除

~~~~~

463

昭和14年6月26日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 汪兆銘との会談で新中央政府樹立に対する支

#### 持を王克敏表明について

付記 昭和十四年六月二十五・二十七日

汪兆銘と王克敏との会談内容

天津 6月26日後発

本省 6月26日夜着

第四〇五號(極秘、館長符號扱)

本官發上海宛電報

第三九號

森島參事官へ清水ヨリ

竹内ハ二十四日天津ニ到着二十五日王克敏ノ來訪ヲ受ケ時  
餘ニ亘リ會談ヲ遂ケタル處王ハ竹内ノ中央政府樹立ニ對シ  
絶對ニ支持スル態度ヲ表示シ極メテ良好ナル結果ヲ收メタ  
ルカ其ノ際王ハ竹内ニ對シ梁鴻志ハ聯合委員會ヲ中心トシ  
テ中央政府ヲ樹立スヘシトノ意見ヲ有スル趣ナルヲ以テ充  
分警戒スヘキ旨竝ニ吳佩孚ハ自己ノ地位獲得ニノミ汲々タ  
ル有様ナルヲ以テ到底合作ノ望ナキ旨附ケ加ヘテ説明セル

趣ナリ

大臣、北京へ轉電セリ

#### (付記)

王克敏、竹内會談ニ關スル件

一、第一次會談

二十四日太田書記官ハ雨宮大佐ト共ニ赴津ノ上師團長官  
舍ニ於テ、影佐大佐、一田中佐等ト會見、王克敏、竹内  
會談ノ時間、内容等ニ付キ打合ヲ了シタルカ王克敏ハ右  
打合ノ通り六月二十五日午前八時廿分西郊飛行場發(中  
國側、王克敏、張處長、加藤祕書——連絡部側、喜多長  
官、太田書記官)九時伊太利租界ニ於テ竹内ト二人限り  
ニテ十時半頃迄會談ヲ續ケタリ  
右會談後、王克敏ハ喜多長官ノ待合セ居タル師團長官邸  
ニ來リ租界問題ニ關シ師團長ニ敬意ヲ表シタル後十一時  
十分師團長官邸發溫市長公館ニ赴キ(柴山特務機關長モ  
同行)天津租界問題、天津市政府財政問題等ニ關シ市長  
及柴山機關長ト意見ヲ交換シタル後、一時天津飛行場發、  
二時過臨時政府ニ無事歸還セリ

歸還後王克敏カ竹内トノ會談ノ内容ニ關シ長官ニ語ル所  
大要左ノ通り。

(一) 竹内君トハ從來ヨリ親キ間柄ナルヲ以テ、會談ハ極メ  
テ氣持良ク進行シタリ、竹内君ハ先ツ久闊ヲ敍シタル  
上、東京ニ赴ク前一應御伺ヒスル積リナリシモ用事ノ  
爲果サマリシハ遺憾ナリト述ヘタルヲ以テ自分(王)ハ  
大體(1)今日迄ノ經過、(2)今後ノ計畫、(3)自分(王)ニ對  
スル竹内君ノ希望ノ三點ニ付キ差支ナキ範圍テ御話ヲ  
伺ヒ度旨述ヘタリ

(二) 右ニ對シ竹内君ハ「實ハ蔣介石ハ蘇聯ヲ重大視シ英、  
佛ハ單ニ補助的ニ利用シ居ルニ過キス、右蔣介石ノ容  
共態度ニ對シテハ、自分ハ何回トナク忠告シタルモ見  
込ナカリシヲ以テ豫テ重慶脫出ヲ計畫シ居タル處遇々  
龍雲派遣ノ龔君カ重慶ニ來タレルヲ以テ右龔君ノ搭乘  
券ヲ貰受ケ龍雲ノ下ニ脱出セル譯ナリ」ト述ヘ更ニ

(三) 「自分(竹内)ハ日支問題ノ解決ニ關シ

(1) 有力且獨立自主ノ中央政府ヲ組織スル爲、蔣介石ヲ  
相手トシテ時局ヲ收拾スル事

(2) 既成政權ヲ中心ニ時局ヲ收拾スル事

(3) 國民黨ヲ再組織シ國民黨以外ノ各種ノ黨派モ加ヘ共  
同シテ中央政府ノ樹立ヲ相談スル事

ノ三個ノ解決方法ヲ考ヘ(1)ト(2)ノ場合ハ自分ハ野ニ在  
リテ援助スヘク(3)ノ場合ハ自ラ出馬スルモ可ナリトノ  
趣旨ヲ近衛總理宛手紙ニ認メ二月頃高宗武ニ託シテ東  
京ニ送ル積リナリシカ曾仲鳴ノ狙撃事件等ノ事アリテ  
果サス、此三點ニ關シテハ後ニ影佐大佐ニ話シタル處  
東京ニテ相談スヘシト言ハレタリ

四月初メニ影佐、河内ニ來リ自分ノ身邊危險ナリシヲ  
以テ先ツ河内ヲ脱出スヘキ事ヲ勸誘サレタルヲ以テ小  
船ニテ佛領印度支那ヲ脱出シ、途中船ヲ乗換ヘテ五月  
初メ上海ニ到着セリ、上海ニテハ大迫少將其他ト會見  
セルカ何レモ余リ關係ノナキ人々ナレハ日本側ノ意向  
ヲ打診スル爲、東京ニ赴ク事トシ全ク自分ノ發意ニテ  
上京セル次第ナリ、尙梁鴻志ニハ趙尊猷ニ託シテ手紙  
ヲ出シ置ケリ」

(四) 「東京ニテハ五相ノ外、近衛前總理、松岡洋右、其他  
少數ノ人ト會見セリ、最初近衛總理ハ媒酌人ノ資格ニ  
テ自分(竹内)ヲ政府ノ人々ニ紹介シ、又平沼總理カラ

ハ「強キ獨立政府ヲ作ル事ハ贊成ナルモ蔣介石ハ困  
ル」ト言ハレタリ

詳シキ話ハ板垣陸相ヨリアリタルカ其際陸相カラ民族  
意識ノ事ヲ述ヘラレタルヲ以テ、自分ハ「最近支那ニ  
ハ民族意識カ勃興シ來レルヲ以テ、日本側ハ是ヲ破壊  
セントシ居レリ、而ルニ蘇聯ハ是ヲ利用シ居レリ」ト  
述ヘ置ケリ。

北京行ノ事ハ直接陸相ヨリ話アリタル譯ニハ非サルモ  
間接ニ陸軍側ヨリ申越セル話ニテ吳佩孚及ヒ聯合委員  
會トノ關係モアリ來津セル譯ナリ

大藏大臣ハ自分(竹内)ニ對シ——支那ハ日本ノ經濟力  
ヲ過少ニ判斷シ居レリ——ト言ハレタリ(海軍大臣  
トノ會見内容ニ付テモ竹内ヨリ話アリタルモ思ヒ出セ  
スト王ハ語レリ)

尙竹内君ハ近衛總理ノ話ハ極メテ眞面目ナリト言ハレ  
タルモ内容ニ付テハ語ラス、又東京ノ話ノ結果ハ大體  
前記(3)ノ方法、即チ國民黨ヲ再組織シ、重慶ニ居ル  
人々ヲ引張ツテ來テ各方面ノ人々ト中央政府樹立ノ事  
ヲ相談スル方法ヲ採用スル事トナレリト竹内君ハ語レ

(欄外記入一)

リ

(五) 竹内君ノ話ヲ綜合スルニ

(1) 獨立自由ナル中央政府ヲ組織セン事ヲ希望スルモ自

分(竹内)ノミノ手テヤル考ハ無シ

(2) 中國ノ事ハ皆ト相談ノ上決定スル

(3) 重慶ノ要人引拔キ工作ヲ皆テヤル

(4) 國民政府ヲ回復シテ大總統ハ林森ニ御願シ(註、此  
點ハ支那側カ提出セル「時局收拾ニ關スル具體的辦  
法」ト相違ス)國旗ハ從前ノ通りトスル事等ヲ述ヘ

タル後竹内君ハ「東京ニテ意見交換セル結果ハ我々  
ノ希望實現カ必シモ不可能ニ非ス」ト言ハレ又平沼  
總理ニ對シ「今日、日支力和平ヲ云々スルニ當リテ  
ハ誠意ヲ以テ當ラサルヘカラス、御客ノ方ハ品物ヲ  
見セロト主張シ又商人ノ方ハ値段ヲ決メテカラト言  
フヤウニテハ和平ハ困難ナリ」ト語り置ケリト言ハ  
レタリ

尙自分(王克敏)ヨリ「私ニ何カ聽ク事ナキヤ」ト質  
問シタルニ竹内君ハ吳工作ノ事ニ付テ聞キタシト言  
ハレタルニ就キ簡單ニ御話シタルニ竹内君ハ「吳ハ

余リ問題ニナラス、吳ハ大總統ヲ希望スルモ自分ノ考ハ林森ナレハ問題ニナラヌ」ト云ハレタリ。

(六) 次ニ自分(王克敏)ヨリ重慶、殊ニ軍隊トノ連絡狀況ニ付キ質問シタルニ竹内君ハ「龍雲ノ二個師團ハ目下江西ニアルヲ以テ困ルモ龍雲ハ確ニ準備中ナリ、重慶ニアル國民黨ノ者トハ従前連絡ヲ保持シ居タルモ、現在尙彼等カ果シテ如何ナル氣持ヲ有スルヤ最近ノ事ハ分ラス」ト答ヘラレタリ。

竹内君ヨリ臨時、維新兩政府ノ事ニ付テ質問アリタルヲ以テ自分(王克敏)ハ「臨時政府ニ付テハ問題ナシ、維新政府ノ事ニ關シテハ三月梁鴻志ト會見セルモ最近ハ面會セサルヲ以テ詳細ハ知ラサルモ多少困難ニ非スヤト考フル」旨答フルト共ニ、「貴下ハ吳ノ事ハ問題ニナラヌト言ハルルモ吳ノ問題ヲ無視スルハ不可ナリ、或ハ問題ニナルカモ知ラヌ」ト述ヘ更ニ「板桓陸相ヨリ吳ノ事ニ關シ何カ話アリタルヤ」ト質問シタルニ竹内ハ「何モナシ」ト答ヘラレ最后ニ「明二十六日軍司令官ト會見ノ爲北京ニ赴クヤモ知レス、其際ハ吳佩孚トモ會見スル筈ナリ又貴下(王克敏)トユツクリ會談ノ

機會アル可シトノコトモ承知シ居ル」旨ヲ述ヘラレタリ。

尙竹内君ハ「日本ハ自分トハ別ニ蔣介石ト交渉ヲ初メル様ナ處ハナキヤ」ト質問セルヲ以テ、自分(王)ハ「左様ナ事ハナシ」ト答ヘタルニ竹内君ハ一應諒解セルモノノ如キモ此ノ點多少心配シ居ラルルカ如ク見受ケラレタルニ就テハ極祕裡ニ長官ヨリ影佐大佐ニ御傳ヘ置キヲ願ヒタシ。次ニ自分(王)ヨリ「蔣介石ハ貴下ノ工作ニ對シ嫌カル事ナルヘシ」ト質問セルニ竹内君ハ「勿論然ラン」ト答ヘ會仲鳴暗殺當時ノ模様ヲ詳細ニ語レリ

冒頭(一)(3)即自分(王)ニ對スル竹内君ノ希望ノ點ニ關シテハ時間ノ關係上遂ニ論議スルニ至ラス、何レ明日(二十六日)會見ノ際會談スル積ナリ、尙竹内君ノ言葉ハ何レモ意味慎重ナルノミナラス、同君ハ物事ヲ良ク考ヘテカラ話ス人ニシテ場合ニ依ツテハ半分タケヲ話シ後ハ他人ニ考ヘサセルト言フ遣方ナルヲ以テ今日自分(王)ノ報告カ果シテ充分竹内君ノ意向ヲ傳ヘ居ルヤ否ヤハ自信ナキ次第ナルカ何レニセヨ、竹内君ハ多少

瘠セタルモ非常ニ元氣ニ見受ケラレタリ。

## 二、第二次會談

竹内ハ吳佩孚ト會見ノ爲、廿六日朝進德社ニ來ル事トナリ居タルモ吳側ノ關係ニテ遂ニ面會ノ運ニ至ラス、依ツテ豫定ヲ一日延期シ二十七日朝來京、進德社ニ於テ九時半ヨリ約一時間軍司令官ト會見シ(會見内容ハ省略ス)更ニ二十時四十五分ヨリ十二時卅分迄同所ニ於テ王克敏ト會談シタル後、午餐ヲ共ニシ二時頃進德社發飛行機ニテ天津ニ歸還セリ。

右會談後王克敏力會談ノ内容ナリトシ喜多長官ニ報告セラル要旨左ノ如シ

王 貴下力出馬セラルレハ如何ナル方面ヨリ何ノ位ノ力ヲ集メ得ルヤ

竹内 國民黨代表大會開催ノ曉ニハ約三百人ヲ集メ得ル自信アリ、現在重慶ニアル國民黨同志ノ一部モ必ス出席スヘシ、軍隊ハ現在ノ五分ノ二乃至五分ノ三ヲ獲得シ得ヘク廣東軍、張發奎軍、薛岳軍等モ來ルヘシ此如ク同志ヲ獲得スル方法トシテハ中央政府樹立前ニ我々ノ態度ヲ明ニスル方カ可ナリト認メラルル處

貴見如何

王 御話ノ如キ行動ヲ開始スル爲ニハ中心カ必要ナレハ事前ニ充分連絡ヲ取りタル上中央政府ヲ作ラル事カ必要ナラン

竹内 國民黨代表大會ヲ北京ニ召集スルハ如何

王 上海ヲ適當ト認ムルモ若シ危險ナラハ北京、天津何レニテモ差支ナカルヘシ

竹内 中央政府樹立工作ハ先ツ國民黨代表大會ノ開催、支那側軍隊トノ接渉、各黨派トノ打合ノ順序ニテ取運ヒタキ處此種會合ニハ貴下ニ於カレテモ是非出席セラレタシ

王 是非出席ノ上御相談相手トナルヘシ、尤モ自分ハ中央政府部内ニハ加入セサル考ニ就キ豫メ御含ミ置キ願タシ、尙吳佩孚トハ種々ゴタゴタアリテ未タ會見セラレサルモ巧ク纏マレハ是程結構ナル事ハナク一人ニテモ余計敵ヲ作ル事ハ不得策ナリ

竹内 國民黨代表大會開催前宣言ヲ出ス考ナルカ其宣言ニハ大體今日迄既成政權ノ標榜シ來レル防共ノ精神ハ我々同志ノ考ト全然同様ナルニ就キ是ニ基キ工作ス



トノ趣旨ヲ記載スル積ナリ

蒙疆ハ此宣言中ニハ名ヲ連ネシムル考ナルカ是カ中央  
政府ニ参加ノ問題ハ中央政府樹立後参加セシムル  
事トスル意向ナリ

王 國民政府ノ恢復、青天白日旗等ノ事ニ付テハ今日ヨ  
リ余リ御話ニナラヌ事然ルヘシ

竹内 良ク承知シ居レリ、尙北支トノ連絡ノ爲ニ高宗武ヲ  
派遣致シタシ

王 從來ノ蔣介石側トノ連絡狀況如何

竹内 上海ノ金融界ノ者ハ自分ヲ支持シ居リ現ニ東京行ノ  
旅費モ多額ニハ非サルモ此等ノ者ヨリ出資アリタリ、

宋子文ハ孔祥熙ニハ非常ニ反對シ居リ、又蔣介石ト  
ノ關係モ良好ナラサルカ自分トハ合作セス、何應欽  
ハ大體合作ノ意向ヲ有スルカ如キモ如何ニシテ重慶  
ヲ脱出スルカカ問題ナリ、陳立夫トノ連絡ハアルモ、  
是又脱出力困難ナリ、尙今後貴下トノ間ニ暗號ヲ作  
リ意志ノ疏通ヲ計リタシ

王 暗號ノ點ニ付テハ影佐大佐ト良ク相談シテ戴キタシ  
尙結論トシテ王克敏ハ長官ニ對シ竹内君ハ軍司令官トノ

會談ノ結果二十五日會談ノ際ヨリモ非常ニ元氣ニ認メラ  
レ、自分モ亦各方面ノ竹内ニ對スル支援カ順次比較的二  
效果ヲ現ハシテ來ルヤウ觀測スト述ヘ居タルカ王克敏モ  
亦二回ノ會見ニ依リ竹内ニ對シ好感ヲ増シ本工作ニ相當  
乘氣トナリ來タレルヤウ觀察セラレタリ。

(欄外記入二)

(確メタキ點)林森ノ件ニ付テハ陸軍ニテ如何ニ考フルヤ

(欄外記入二)

此ノ點ハ竹内カ影佐ニ語レル處ト相違ス(清水ヨリノ電報アル  
筈)

編 注 「此ノ點ハ二十七日ノ會見ニテ軍司令官ヨリハツキリ

シタ説明ヲナセリ」との書き込みあり。

~~~~~

昭和14年6月26日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

新中央政府樹立問題に対する梁鴻志の見解に
ついて

上海 6月26日後発
本省 6月26日夜着

第一七四七號（館長符號扱）

森島參事官ヨリ

本官廿四日來滬中ノ梁鴻志ヲ往訪懇談シタルカ其ノ内中央政府ノ過程ニ於テ最モ難關ト目セラルル點ハ如何トテ其ノ所見ヲ求メタル處梁ハ（イ）中央政府ノ人事ニ付テハ自分ニ於テ彼此ト異論ヲ申立ツル考毛頭ナシ唯（ロ）治安問題ト（ハ）中央政府對第三國關係ヲ如何ニ處理スルカ最モ重大ナル問題ナリト述ヘタルノミニシテ特ニ何等拘ハリタルカ如キ模様ヲ認メス唯日本内部ノ意見一致セルヤ否ヤニ多大ノ關心ヲ示シ居タルヲ以テ本官ヨリ臨時、維新政府ノ成立ノ當時ト全然事情ヲ異ニシ日本側ニテハ完全ニ意見ノ一致ヲ見居レル次第ヲ述ヘ特ニ右ノ點ヲ強ク「インプレス」スルニ努メ置キタリ御參考迄

北京、天津、漢口、南京、廣東、香港ニ轉電セリ



465

昭和14年 6月27日

在天津田代總領事より
有田外務大臣宛（電報）

吳佩孚の時局認識がわが方既定の方針に合致しない状況に鑑み積極的な汪・吳合作の斡旋打切りを決定について

付記一 昭和十四年七月十九日、陸軍省部決定

「吳工作新指導要領」

二 昭和十四年八月十八日、須賀（彦次郎）大佐作成

合作問題に関する汪兆銘と吳派要人との会談要旨

天津 6月27日後発
本省 6月27日夜着

第四一一號（極秘、館長符號扱）

（外記入）
本官發上海宛電報
第四一號

森島參事官へ清水ヨリ

竹内ハ二十七日北京ニ赴キ杉山司令官ヲ訪問挨拶ヲ交シタル後約一時間ニ亘リ會談ヲ爲シ更ニ王克敏トモ會見種々意見ヲ交換シ即日歸津セリ吳佩孚トノ會見ハ吳力軍司令部側ノ指定セル會見地點ニ來ルコトヲ肯セス吳ノ私邸ニテ竹内

ヲ引見スヘキコトヲ固執シタル爲更メテ竹内ヲシテ吳ノ私邸ヲ訪問セシムル代リ吳モ答禮ノ爲竹内ヲ往訪スヘキコトヲ要求シタル處之亦吳ノ拒絕スル所トナリ遂ニ會見ヲ中止スルノ已ムナキニ至レリ之ヨリ先二十五日陳中孚カ吳ノ竹内宛書翰ヲ携ヘ竹内ニ面會セル際吳ハ和平救國會總裁、和平救國軍總司令及和平救國軍政府主政トシテ出馬シタキ考ナリト披露セル事實アリ其ノ他吳本人及周圍ノ者ノ揚言シ居ル所ヲ綜合スルニ依然トシテ吳カ主席ノ地位ニ立チテ全國ヲ號令スルモノナリト獨リ極メヲ爲シ居ル模様ニテ其ノ時局ニ對スル認識甚タシク缺クルモノアルコト明カトナリタル爲軍司令部側竝ニ竹内工作者等協議ノ上斯ル情勢ノ下ニ於テ強イテ兩者ノ合作ヲ促進スルトキハ我方既定ノ方針ニ副ハサルカ如キ事態ヲ惹起スル惧アルヲ以テ日本側トシテハ之ニテ一應斡旋ヲ打切り今後ハ積極的ニ兩者ノ合作ヲ慫慂スルコトヲ避ケ専ラ支那側ノ成行ニ任スルコト然ルヘシトノ結論ニ達シ會見中止ノ儘引揚クルコトニ決定セル次第ナリ

大臣、北京へ轉電セリ

(欄外記入)

前途容易ナラズ

(付記一)

吳工作新指導要領

昭和四、七、九

省部決定

一、指導方針

汪吳合作ニ關シテハ依然既定方針ノ如ク努力スルモ吳ニ對シテハ當分日本側ヨリ積極的ニ働キ掛クル事ナク主トシテ汪側ヨリノ連絡ニ依リ汪吳合作ノ氣運ヲ醸成セシムル如ク指導スルモノトス

二、雜軍懷柔工作

從來吳ノ名義ヲ以テセル雜軍懷柔工作ハ差シ當リ北支方面軍ヲシテ實施セシムルモノトス

三、指導機關

川本中佐ヲシテ主トシテ汪吳合作ニ關スル工作實施ニ當ラシメ且北中支軍ニ兼勤セシム

四、右ニ關聯シ北中支軍ニ對シ所要ノ任務ヲ與フ

五、經費

第二項ノ雜軍懷柔ニ必要ナル經費ハ吳工作所要ノ經費中ヨリ別途北支方面軍ニ配當スルモノトス

(付記二)

汪精衛、陳中孚、何世楨會談要旨(八月十八日)

陳中孚ノ報告ニ基キ須賀大佐作製

汪、吳、合作ヲ斡旋シツツアル吳派ノ陳中

孚及何世楨カ、吳氏ヲ説得スル爲、北上ス

ルニ先立ち汪氏ト折衝セシ會談ナリ、陳、

何共ニ國民黨中央執行委員ナリ

(註)

(汪)吳氏ハ大總統トカ政府主席トカ明カニ云ハサルモ、之ヲ希望スル意アリト聞ク處、余ノ考ハ次ノ如シ

時局收拾カ蔣介石若クハ他ノ者ニ依リ爲サル場合ニハ

余ハ野ニ在リテ協力スヘシ

若シ余ニ委任セラルルナラハ林森ヲ主席トス

國民政府組織法ニ依レハ主席ハ政務ノ責任ヲ負ハス、林

森ノ主席ハ差支ナシ、林森ヲ主席トスル理由ハ國民政府

ノ法統ヲ維持スル爲ニシテ、之ニ依リテ國民政府ハ屈服

セシニ非ス、光榮アル和平ナルコトヲ國民ニ示ス要アルカ故ナリ

(陳)林森ハ汪ノ國民黨除名ニ満足セス、汪ノ黨籍永久剝奪

ヲ主張セシ由ナレハ(汪)ノ脱出前林ハ汪ニ反對シ居ラス)

就任ヲ承認セサルノミナラス名義盜用ヲ摘發スルナラン

(汪)林ノ反對通電ハ豫想シ得サルニ非ス、假令反對シ來ル

ト雖モ、林ハ既ニ自由ヲ失ヒ居ルヲ以テ反對ハ其ノ意志

ニ非サルコトヲ宣傳スヘシ

(陳)林森來ラサル時ハ如何ニスヘキヤ

(汪)國民政府委員ノ誰カニ代行セシムヘシ

(陳)此度北上ノ際ハ吳氏ニ對シ主席問題ハ話ササル事トス

ヘキモ、問ハレシ時ハ政府組織ノ際、各黨派ニ依リ、合

議決定ノ事ト答フヘシ

(汪)宜シイ

(陳)天津ニテ會見ノ際、國民黨政府ノ下ニ軍事長官トシテ、

吳氏ハ參加シ吳レルヤ否ヤト、貴下ハ問ハレシカ國民黨

政府ノ下ニ吳氏ノ參加ハ困難ナラン、併シ貴下ハ一黨專

政ヲ廢除スルト聲明サレタカ一黨專政ニ非サレハ國民黨

政府ト云フヲ得サルニ非スヤ

(汪) 國民黨ヲ實質上主體(母體)トスル國民政府ヲ組織スル意ナリ

(陳及何) 今次ノ抗戰ハ非常ニ失敗セシ事ヲ天下ニ謝セスシテ、唯和平ニ名ヲ籍リテ又政權ヲ取ルモノナリト一般國民ニ思ハレナハ和平ノ前途遼遠ナリト思考セラル。何ニカ、ソレニ對シ國民及國民黨以外ノ黨派ニ對シテ慰撫スル方法ナキヤ又一黨專政廢止ノ説明ハ如何ニスルヤ、今次國民黨代表大會開會ノ上、發起ト指導ノ地位ヲ以テ各派ヲ參加セシムル事ヲ決定スルト云フカ、參加ト合作ハ稍々相違ス即チ吳氏ノ和平救國運動ハ時間的ニ優先權ヲ有スル點ニ於テ汪氏ノ國民黨ト同等ノ資格ヲ有ス從ツテ發起ト指導地位等ニ觸ルルコトナク聯合事ニ當ルトセハ合作ト云ヒ得ヘシ

(汪) 民國十三年以來ノ約法ニ關係アルヲ以テ、是非國民黨ヲ主流トシ各黨派ハ之ニ參加シテ中央政府ヲ樹立スルコトニシ度ク何カノ方法ニ依リ吳氏ヲ説服セラレタシ

(陳及何) 然ラハ今回臨時國民黨代表大會ニ於テ國民黨中央執行委員會ニ、各黨派ト聯合シテ國民黨政府ヲ組織スル權限ヲ授與シ以テ和平ノ實現ト憲政ノ開始ヲ謀リテハ如

何

(汪) 自ラ執筆シ「臨時代表大會授權中央執行委員會、聯合各黨派組織國民政府以謀和平之實現憲政之開始」ト記シ此ノ一條ヲ今次ノ會議ニ於テ宣明スルコトニ對シ、自分トシテハ贊成ス、尙同志ト研究ノ上取り極ムヘシ

(陳) 重慶ノ國民政府ハ國民黨員ニ非サレハ絕對ニ中央政治會議ニ參加出來サル制度ト爲シ居ルカ之ヲ如何ニスルヤ

(汪) 中央政治會議ニハ國民黨以外ノ分子モ之ニ參加ス

(陳) 一黨專政ヲ廢除スルト云フカ、今國民黨ノ外ニハ政黨ヲシキモノナシ、今後他黨ノ出現ニ對シテハ如何ニスルヤ

(汪) 共產黨以外如何ナル黨派ヲモ認ム、決シテ排撃スルコトナシ

(陳) 上海ニ於テハ早クヨリ和平救國會ノ運動ニ着手シ居リ、上海市黨部ノ下級黨部タル區黨部ノ如キモ十區中八區ハ參加ヲ申込ミ居レリ然レトモ貴方ニ於テ黨部獲得中ナリトノ報ヲ得シ以後ハ、摩擦ヲ生セサル爲、區黨部トシテノ組織ノ參加ハ許可セス個人ノ資格ニ依リ入會セシメ居レリ。個人關係ニヨリ各人ノ意志ハ容易ニ曲ケ得サルモ

ノナリ、目的ハ同一ナルヲ以テ洩レナク獲得シテ和平運動ヲ成功セシメサルヘカラス、然ルニ往々貴方ニ於テ誤解ヲ起シタル事實アリ、此ノ點部下一般ニ能ク指令セシメラレタシ、當方トシテハ從來褚民誼氏トハ屢々連絡シ居タルモ、連絡充分ナラス、褚氏ノ外二更ニ連絡係ヲ指定セラレンコトヲ希望ス

(汪)能ク了解セリ、褚氏ノ外二梅思平氏ヲ指定スヘシ

(陳)自分及何氏ハ國民黨員ニテアリ乍ラ吳氏ヲ推載スルハ怪シカラスト攻撃セラレアリ、我々トシテハ和平ヲ唱フル有力者ヲ推載スルモノニシテ、吳氏ハ天津在住ノ元老連二比シ「決シテ國ヲ賣ラス人格高シ」ナルヲ以テ我等ハ吳氏ヲ推スモノナリ、國民黨員力出馬セハ、國民黨員ナラサル者スラ推舉スル我等トシテハ勿論之ヲ推スモノナリ、自分ハ吳ノ代表ニ非ス、汪、吳合作ヲ斡旋スルモナレハ、貴下ノ代辦ヲモ努ムル事可能ナリ

(汪)陳及何ニ對シ、國民黨中央委員タル事ヲ勸ム

右ノ外胡漢民ノ創設セシ新國民黨員(李宗仁、陳濟棠、鄒魯等多數アリ)ノ獲得ニツキテモ陳ニ對シ依頼セシ由

又陳ノ北上ニ對シ(八月十九日上海發北上セリ)吳宛懇篤ナ

ル手紙ヲ托送セリ (終)

附 記

(清水外務書記官識)

一、前記會談録ハ陳中孚ヨリ須賀海軍大佐ニ報告セル所ニ基キ作製セルモノナルカ内容ニ不審ノ點アル爲メ十九日影佐少將汪ヲ訪問シ左ノ通質疑應答セリ

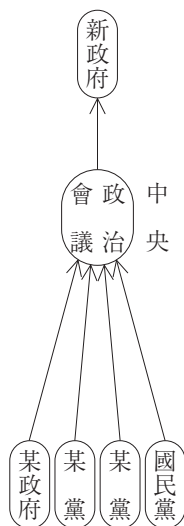
影、一昨日陳中孚、何世楨ト會見ノ際貴下ハ新中央政府ハ國民黨ニ依リ組織セラルル國民黨政府ナリト述ヘラレタル趣ナルカ果シテ然ルヤ 吾人ノ諒解スル所ニ依レハ新中央政府ハ實質上ノ事ハ別問題トシ建前ハ飽ク迄各黨各派聯合シテ組織セラレ所謂全民的基礎ノ上ニ立ツ政府ナリト信ス 從ツテ陳中孚トノ間ニ問答セラレタル法統ト黨統トノ關係ハ國民黨臨時全國代表大會ヲ開ク迄ハ法統即チ黨統ナルモ右代表大會ヲ開キ國民黨ノ指導精神ヲ改メ且ツ各黨各派ト聯合シテ政府ヲ組織スル旨宣明シタル後ハ茲ニ法統ハ新ラシキ出發點ヲ劃スルモノニシテ所謂新法統ニ依リ新政府力出現スルモノト思惟セラルルカ貴見如何 新政府力依然國民黨一黨專制ノモノナリトノ印象ヲ陳ニ與ヘ陳ヨリ之ヲ外部

ニ發表スルトキハ種々ノ誤解ヲ生シ不測ノ事故ヲ惹起スル惧アリ自分ハ恐ラク貴下ノ述ヘラレタル所ヲ陳カ聽キ違ヒタルモノト想像シ此ノ點陳ニ一應問ヒ質シ度ク思ヒ居リシモ同人ハ今朝既ニ上海ヲ發シ北上セルニ付特ニ貴下ニオ尋ネスル次第ナリ

汪、陳カ右ノ如ク語レリトセハ全ク自分ノ述ヘタル所ニ反シ遺憾ニ堪ヘス一昨日陳、何ト會談ノ際ハ先ツ陳ヨリ和平救國會成立當時ヨリノ活動ノ狀況竝ニ王克敏、梁鴻志等ニモ右救國會ニ名ヲ連ネ吳佩孚ヲ綏靖委員會委員長ニ推戴セルカ吳ハ之ヲ受ケサリシ顛末等ヲ説明シ且予カ吳ト聯合シテ新中央政府ヲ組織スルコト時局收拾ノ爲最モ望マシキ旨ヲ述ヘタリ 之二對シ先ツ自分ハ今次ノ事變ヲ收拾スル方案トシテ日本政府當局ニ對シ(一)蔣介石ト講和スル方法(二)全然國民黨國民政府ト關係ナキ者ヲ立テテ新政權ヲ樹立スル方法(三)國民黨國民政府内ノ憂國具眼ノ士カ其ノ誤レル政策ヲ是正シ國民黨國民政府ヲ更生セシメ時局ノ解決ニ當ル方法ノ三案ヲ提出シタル處結局第三案ヲ取ルニ決シ現在其ノ「ライン」ニテ工作ヲ進メ居ル譯ニテ自分ノ一個人ノ思付

ニテヤリ居ルニ非サル旨ヲ説明シ次テ國民黨臨時全國代表大會開催ノ件及其ノ後各黨各派ト聯合シテ政府ヲ組織スルノ具体案ヲ説明シタルナリ 陳中孚モ永ク國民黨員タリシ人物ナレハ民國十三年來ノ約法ニ政府產生ノ方法明記シアルヲ知ラサル筈ナシ

影、新政府組織ハ左ノ如キ形ニテ生ルルモノト思フカ如何(トテ圖ヲ示ス)



即チ國民黨ヨリ言ヘハ國民黨ノ黨統ヲ繼キテ中央政治會議ヲ開ク譯ナルカ其ノ他ノ各黨各派モ夫々大會ヲ開キ此ノ政治會議ニ參加スルコトニ依リ各黨各派聯合ノ形式ヲ取ルモノナリ

汪、全ク其ノ通ナリ 陳ノ意見ニテハ吳佩孚ハカ、ル仕組ノモノニハ參加セサルヘシ トノコトナリシカ自分ハ吳ト雖モ此ノ十數年來ノ國民政府ヲ否認セル譯ニハ非

影、能ク了解セリ

備考

以上

汪力陳ニ述ヘタル所ハ恐ラク多少行キ過キタル點アリ卒然トシテ前記會談録ヲ讀ムトキハ如何ニモ國民黨一手包辦ノ政府ヲ造ルカ如キ感アルハ否ムヘカラス然レトモ陳力汪ニ對シテ述ヘタル所モ亦行キ過キタル所アリシモノノ如ク例ヘハ吳佩孚ヲ政府ノ首

サルヘク況ンヤ更生セル國民黨ト共ニ新ラシキ國民政府ニ參加スルコトハ差支ナキニ非スヤト極力其ノ參加慾渥方ヲ陳ニ託セリ陳ノ意見ニテハ吳佩孚ト國民黨トノ聯合ニ依リ新政權ヲ樹立スヘシトノコトナルカ右ハ前記第三案ノ趣旨ニ反スルヲ以テ不可ナリト述ヘ置ケリ尙新中央政府カ一黨專制ニアラサルコトハ同人等ト會談ノ際斯クノ如ク筆記シタルモノヲ見セ(トテ次ノ如ク記セル紙片ヲ示ス「臨時代表大會授權中央執行委員會聯合會各黨各派組織國民政府以謀和平之實現憲政之開始」)國民黨臨時代表大會ノ際之ヲ宣明スルコトヲ同人等ニ告ケ置キタル次第ナリ

466

昭和14年7月1日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中央政府樹立問題に関する汪兆銘・梁鴻志会談について

付記 昭和十四年七月五日、影佐機関作成

「梁鴻志、汪第二次會談要領」

上海 7月1日後発
本省 7月1日夜着

第一八一六號(極秘、館長符號扱)

腦者ニ戴カントスルカ如キ印象ヲ與ヘタルヤモ計リ難ク其ノ上吳ノ地位ヲ少クモ汪ト同列又ハ其ノ以上ニ置キ新中央政府組織ノ一半ノ要素トスヘキコトヲ述ヘ他ノ臨時政府維新政府其ノ他ヲ全然眼中ニ置カサル様ノ印象ヲ汪ニ與ヘタルモノノ如ク從ツテ之ヲ論破スル必要上汪モ必要以上ニ所謂法統論ナトヲ持出シタルモノト察セラルル節アリ
依ツテ本會談録ヲ讀ム場合ニハ右ノ如キ背景ヲ熟知シ味讀スルコト肝要ナリト思考ス

~~~~~



森島參事官ヨリ

竹内ハ二十八日天津ヨリ歸來シ二十九日當地ニ於テ午前梁鴻志(陳群、任援道同席)午後溫宗堯ト會見シタルカ竹内ハ彼等ニ對シ先ツ時局收拾ニ乗出シタル經緯ト決心ヲ述ヘ極メテ懇切ニ協力ヲ求メタルニ對シ梁ハ中央政權樹立ノ場合蒙疆北支等ノ特殊性ヲ認ムル心算ナリヤ否ヤト相當執拗ニ質問ヲ繰返シ(梁ハ若シ北支方面ノ特殊性ヲ認ムルナラハ中支ニ於テモ維新政府ノ機構ヲ認ムルモ差支ナキニアラスヤトノ意向ヲ仄ス心算ナリシナルヘシト察セラル)之ニ對シ竹内ハ具體的方法ハ政治會議ニ於テ決定スルヲ可トスヘシトテ深入リスルヲ避ケ維新政府ノ存廢問題ニハ觸レスシテ終リ唯最後ニ竹内ヨリ如何ナル場合ニ於テモ維新政府ノ現職員ハ新政府ノ機構内ニ收容シ引續キ盡力ヲ願度キ心算ナリト告ケ此ノ點梁等ヲシテ稍安心セシメタル模様ナルカ尙兩者ノ意思完全ニ疏通セサルヤノ印象ヲ受ケタル趣ニシテ今後維新政府ノ内面指導ニハ相當努力スル必要アリト認メラル次テ溫ハ竹内ニ對シ内外情勢上中央政府樹立ハ一日モ忽ニスヘカラス而シテ貴下カ日本側ノ信賴ヲ受ケ居ル以上臨時、維新兩政府ノ向背如何ニ拘ラス斷乎所信ニ向ツテ

邁進セラルヘシ唯吳佩孚ト丈ケハ連絡シテ然ルヘシト語レル趣ナリ尙近ク南京ニ赴キ再ヒ梁等ト會見シ更ニ意見ノ交換ヲ遂クル豫定ナリ

北京、南京、香港ヘ轉電セリ

(付記)

昭和十四年七月五日

梁鴻志、汪第二次會談要領

影佐機關

梁鴻志、汪會談要領

昭和十四年七月五日 於南京聚星俱樂部

本記事ハ汪精衛ノ影佐大佐ニ報告スル所ニ依ル

一、梁ハ汪ノ出馬ヲ勸迎シ我々一統ヲ卒ヒテ時局收拾ヲ大成

セラレンコトヲ要望シ將來ノ政府組織ニ關シ再三質問セ

ルモ汪ハ一切具體問題ニ觸ルルコトヲ避ケタリ

二、梁ヨリ臨時、維新兩政府ノ名義ヲ取消スヤトノ質問アリ

右ハ東京ニ於ケル會談ノ結果ヲ承知シ乍ラ質問セルヤ否

ヤ判ラサルモ之ニ對シ汪ハ「名義取消」ト謂ヘハ遑及的

效果ノ生スル虞アルヲ以テ「名稱廢止」ト言フ文字ヲ使

用シ度シトテ東京ニ於テ提出セル具體的辦法ノ日本側意見中ニアル所ヲ根據トシテ語り置ケリ

三、梁ヨリ維新政府ヲ新中央政府ニ「合併」又ハ「解組」

云々ト言フコトヲ話題ニ上セ「合併」ハ不同意ナルモ「解組」ハ可ナリト述フル所アリシモ汪ハ考慮スヘシト答フ

四、梁ヨリ中央政府ノ名義ニ關スル質問アリシヲ以テ汪ハ「國民政府」ヲ希望スト答フ

五、梁ハ明瞭ニハ語ラサリシモ「國民政府」ト云フカ如キ永久的ノモノヨリモ「委員會」トシ暫定的ノモノニスル方ヲ希望スルカ如キ口吻ナリシヲ以テ汪ハ委員會トセハ林森カ必スシモ之ニ這入ラストモ合理的ニ行クナラント當ラス觸ラスノ答ヲナス 梁ハ林森ハ同郷人ニシテ日人ニハ好感ヲ有スト語レリ

六、梁ハ臨時、維新兩政府ノ名稱廢止セハ各部ノ名稱ヲモ廢スルヤト問フ

汪ハ決定的ノ事ハ才答ヘシ難シ更メテ御相談スヘシト答フ

七、梁ヨリ維新政府ハ目下財政、外交兩部長ハ缺員ナルカ之

ヲ充實スル要アリヤト質問セルモ汪ハ之ニ答ヘス

八、汪精衛ハ梁ノ諸質問ヨリ判斷シ新中央政府ハ維新政府ヲ母體トシ各部長ハ現陣容ヲ維持シ自ラハ行政院長タラントスル希望ヲ有スルモノト察セラルト影佐ニ語レリ

九、更ニ汪ヨリ先般第一次會見ノ節陳群力維新政府ハ蔣介石ニ反對シ居ラスト語レルカ其意味不明ナリトテ其説明ヲ梁ニ求ム

梁ハ維新政府組織ノ際人ヲ蔣介石ニ派遣シ維新政府ヲ組織スルハ時局收拾ニ寄與セントスルニ在リ將來將力南京ニ復歸スル事態生セル場合ニハ喜ンテ之ニ應スルモ可ナリト述ヘシメタル次第ヲ語レリ

汪ハ御苦心ノ存スル所ハ承知シアリト述ヘ將來蔣反對ノ立場ニ立タサルヘカラサル汪ノ所懷ヲ語ル

一〇、汪ノ本會談ニ依リ受ケタル印象ハ第一次會談ニ比シ良好ナルモノノ如シ

## 附記

### 會食後

溫宗堯ハ自分ノ事ハ問題ニ非サルヲ以テ毫モ考慮セラルル

ノ要ナシト汪ニ耳語ス

又陳群ハ「自分ハ維新政府成立ノ際青天白日旗ノ採用ヲ原田少將ニ主張セルモ其容ルル所トナラス 今日維新政府カ政策ノ遂行ニ困難ヲ感シアルハ青天白日旗ヲ掲揚シ得サルコトカ重要ナル一原因ヲ爲スト思料ス 今次汪氏カ中央政府ヲ樹立セラレントスルニ際シ青天白日旗ノ採用ヲ强硬ニ主張セラレ度シ」ト語レリ

~~~~~

467

昭和14年7月3日

在上海森島大使館參事官——会談
汪兆銘

対英ソ関係および華僑対策等に関する森島參

事官と汪兆銘との会談要旨

昭和十四年七月三日

汪、森島參事官會談録

影佐機關

汪、森島參事官會談要旨

昭和十四年七月三日

自午後四時
至午後五時半

於汪寓居

(田尻總領事同席)

汪 過日天津ニ赴クニ當リ上海ニ於テ伊太利大使トノ連絡

等種々幹旋ヲ蒙リ感謝ニ堪ヘス御蔭ニテ同方面ノ旅行モ順調ニ終レリ

森

當時伊太利大使ハ非常ナル好意ヲ示シ眼ノ前ニテ天津總領事ニ對スル紹介狀ヲ認メ同時ニ天津ニ電報ヲ發セル程ナリ大使ハ其後數日ニシテ避暑ノ爲メ北戴河ニ赴キタルカ貴方トノ連絡ノ爲ト稱シ特ニ支那語ノ通譯官ヲ上海ニ留メ置ク旨申述ヘ居タリ

汪

自分等天津到着後北戴河滯在中ノ伊太利大使ハ其ノ代理トシテ特ニ大使官付武官ヲ遣シ來リ又天津總領事モ種々便宜ヲ與ヘラレタリ

天津ノ租界問題ハ其後變化ナキヤ

森

今回東京ニ於テ天津租界問題ニ關スル日英會談行ハルルコトナレリ

汪

今回ノ會談ニ於テウマク解決シ得ラルル見込ナリヤ
今日ノ事態ニ立到リテハ最早ヤ局地ノミノ解決ニテハ事態ヲ改善シ得ス日本側トシテモ今回ハ「テロ」犯人引渡シ等治安維持ノ爲メ必要ナル事項ノミナラス英國カ新事態ヲ認識シ日本側竝ニ新政權ト協力スル態度ヲ執ル様其ノ政策ヲ根本的ニ改メンコトヲ要望シ居ル次

第ナリ

最近支那ニ於ケル英國人側ノ動向ヲ見ルニ例ヘハ上海ノ英國商人ノ如キハ日英關係ノ對立ニ依ル英國商權ノ衰退ニ焦慮シ本國政府ニ善處方要望シ居ルトノ情報アリ又英國總領事モ一々「カー」大使ニ請訓スル様ニテハ現地ノ懸案交渉ハウマク行カストコホシ居タルコトモアリ利害ニ敏キ英國人トシテ何時迄モ援蔣政策ヲ續ケ損失ヲ受クルカ如キ愚ヲ繰り返スコトナカルヘシト察セラル

汪

抗日蔣政權ヲ援助シ居ルハ現在主トシテ「ソ」聯ト英國ナルカ英國カ飽ク迄蔣ヲ援助スヘシトハ思レス英國ノ援蔣政策ノ内幕ヲ知ル上ニ於テ參考トナルヘキニ付昨年自分カ政府ヲ離ルル前「カー」大使ト會談セル當時ノ狀況ヲ御話スヘシ昨年十一月蔣ハ長沙ニ居リ（長沙燒失前ノコトナリ）自分ハ重慶ニ在リテ各別ニ「カー」大使ト會談シタルカ其際「カー」ハ自分ニ向ヒ日本側ハ蔣ノ下野ヲ要求シ居ル模様ナル處此際蔣カ下野スルモ貴下カ之二代リ政府ノ内容及組織ヲ其儘トシテ存續セシムルナラハ支那トシテモ何等影響スルトコロ

ナカルヘシト述ヘタルコトアリ之ニ對シ自分ハ今次ノ事變ヲ勃發セシメタルハ國民政府數年來ノ誤レル方針ニ基クモノナルヲ以テ蔣ト自分ヲ入レ替ヘテ一時ヲ糊塗スルカ如キハ何等時局ノ解決トナラストテ突ハネタリ當時「カー」大使カ蔣ト會見ノ際示シタル態度ハ極メテ冷淡ナリシ由ニテ蔣モ「カー」ニ對シ若シ英國側ニテ充分支那ヲ援助セサル時ハ支那政府ハ別ニ考慮セサルヘカラスト半威嚇の二應酬シタル趣ナリ「カー」大使ハ自分ト會談ノ際右蔣ノ所謂「別ニ考慮ス」トハ如何ナル事ヲ意味スヌヤ判斷^{（ルカ）}ニ苦シム所ナリト述懐シ居リタリ當時重慶方面ノ要人達モ右「カー」大使ノ冷淡ナル態度ニ驚キ孔祥熙、王寵惠等ノ如キモ自分ニ對シ英國ノ此上ノ援助ハ到底望ミ難キ模様ナリト語り極メテ悲觀シ居リタル程ナリ然ルニ其後東京ニ於テ行レタル日英會談カ何等ノ結果ヲモ見スシテ終ルヤ英國ノ態度ハ再ヒ援蔣政策ニ立戻リヤカテ莫大ナル借款契約ヲ承認スルニ到レルコト御承知ノ通ナリ要スルニ當時ノ英國ハ日本側ト支那側トヲ兩天秤ニ掛ケ何レカ都合ノ良キ方ニ乗移ラントシ居リタルモノト察セラル

汪

今回ノ事變ヲ解決スル爲ニハ對英外交ハ極メテ重要ナ
ヲ切ルニ至ル可能性モアルヘシ

然ルニ「ソ」聯ト蔣トハ既ニ離ルヘカラサル關係ヲ有
シ本日香港ヨリ到着セル一同志ノ齎ラセル情報ニ依レ
ハ最近「ソ」聯ト重慶政府トノ間ニ莫大ナル軍需品供
給ニ關スル契約成立シ之ニ對シ支那側ハ西南諸省ノ鑛
産、農産物等ヲ代償トシテ「ソ」聯ニ輸送スル取極ヲ
爲シタル趣ナルスル實情ヲ指摘シテ英國ノ援蔣政策ヲ
思止マラシムルコトモ一方法ナルヘシト思考セラル

田

「ソ」聯ト蔣トノ關係深キコトヲ強調シテ英國ヲ反省
セシメントスルモ目下歐洲方面ニ於テ英國ハ頻リニ
「ソ」聯ノ援助ヲ得ント焦リ居ル際ナルヲ以テ極東ニ
於テ「ソ」聯ヲ袖ニスルコトハ躊躇スルトコロナルヘ

ルカ要ハ一方力ヲ以テ英國ヲ抑スト共ニ他方英國ヲ誘
ヒ結局彼ヲシテ新東亞ノ建設ヲ妨碍セシメサルヤウ巧
妙ナル手段ヲ構スル^(調)ニアリ尙其際注意スヘキハ米國ノ
態度ナリ米國ヲシテ英國ト一致シテ東洋ノ問題ニ干涉
セシムルコトナキ様注意セサルヘカラス

最近ノ米國ノ態度ヲ見ルニ我方カ餘リ非道ナ取扱ヲ爲
ササル限り好シテ英國ノ尻馬ニ乗ルカ如キコトナカル
ヘシ上海ニ於テモ外交團ノ會議等ニ於テ米國側ハ常ニ
日英ノ間ニ立チ幹旋役ニ廻ル傾向アリ最近モ共同租界
ノ警視副總監ニ日本人ヲ任命スヘシトノ要求ニ對シ英
國側ハ八十年來斯カル例ナシトテ之ヲ拒絕シタルカ米
國側ハ其ノ間ヲ取持チ妥協案ヲ提出シ英國側ヲ納得セ
シメント努力シ居ル例モアリ又過日米國政府ニ於テハ
米國ノ教會等力屢々日本軍飛行機ノ爆撃ヲ蒙リタルニ
對シ其ノ度毎ニ我方ニ提出セル抗議ヲ一括シテ發表シ
タシト申出タルカ日本側ヨリ今頃斯カル發表ヲ爲ス時
ハ日本國民ニ刺激ヲ與ヘ兩國國交上面白カラサル影響
アルヘシトテ之カ見合セ方希望シタルニ對シ米國側ハ
之ヲ諒トシテ承諾セル例モアリ米國ノ意ノアル所ハ略

森

ホ察知スルニ難カラス

我方トシテモ謂レナク米國側ヲ刺激セサルヤウ充分注意シ居ル次第二テ英米ヲ離ス工作ハ不可能ニ非スト思考セラル

汪 斯ル狀勢ナラハ極メテ好都合ナリ

田 貴下カ新ニ中央政府ヲ樹立セラレ重慶政府ヲ崩壞セシムル爲メニハ外交關係ハ固ヨリ重大ナルカ華僑工作モ忽ニスヘカラス自分ハ香港ニ駐在シ居ル關係上之二用心ヲ有スル譯ナルカ現在貴下ニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ華僑方面ノ運動ヲ爲シ居ラルルヤ我々モ充分協力致度キ積リナリ

汪 華僑工作ノ必要ナルハ御話ノ通ナリ我々モ既ニ連絡者ヲ南洋「アメリカ」等ニ派遣シ居レルカ元來華僑ハ虛榮心強ク派手ナルコトヲ好ミ例ヘハ胡漢民、陳銘樞等カ廣東又ハ福建等ニ於テ反蔣獨立運動ヲ爲シタル際ノ如キ喜ンテ之ヲ應援シタル例アリ今回ノ事變ニハ蔣ノ抗日救國ノ宣傳ニ乗セラレ蔣ノ如何ニモ英雄ヲシキ言動ニ魅セラレ之ヲ援助シ居ル實情ナリ從テ華僑ヲ我方ニ導クニハ茲ニ敢然トシテ反蔣新中央政府ヲ組織シ殊

ニ彼等ノ出身地タル廣東、福建ニ新シキ政府ヲ造リ現實ニ行動シツツ宣傳ヲ行フ必要アリ

即チ彼等ハ單ナル空宣傳ニテハ動カサルヲ以テ今ノトコロ先ツ連絡ヲ付ケ工作ノ眞ノ發展ハ今後ニ待タサルヘカラス尤モ「アメリカ」方面ハ其ノ國民黨部ノ過半數ハ自分ノ命ニ服スル關係ニアルヲ以テ愈々華僑工作ヲ進ムル場合ニハ充分望ミアリ何レ國民黨代表大會開催ノ節ハ南洋「アメリカ」各地ヨリ十數名ノ代表者ヲ招ク豫定ナルヲ以テ其際具體的ノ辦法ヲ研究シ度キ考ナリ

田 現在華僑ヨリ重慶政府ニ對シ送り居ル寄附金ハ相當ノ額ニ達シ居ルヤ

汪 宣傳ノミ大キクシテ實際ノ金額ハ其レ程ニ非ス

森 本日ハ長時間御邪魔セリ今後用事アラハ遠慮ナク申出ラレ度シ

汪 感謝ニ堪ヘス

468

昭和14年7月4日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

新中央政府樹立を支持するわが方立場を森島
参事官より在中国仏国大使へ説示について

上海 7月4日後発
本省 7月4日夜着

第一八五五號

森島参事官ヨリ

四日佛國大使ト會談ノ際汪精衛問題ニ關シ質問アリタルヲ
以テ本官ヨリ汪ハ愈重慶側ヨリ獨立シタル新中央政府ヲ組
織スルコトニ決シタル處日本トシテハ右ニ全幅ノ支持ヲ與
フルコトニ決定シ居レリ斯テ重慶政府ハ一地方政權ニ墮ス
ヘク支那ハ恰モ西班牙ノ如ク汪蔣兩政權ニ分ルヘキ處佛國
トシテ結局「フランコ」政權ヲ承認シタルカ如ク汪ノ新政
府ヲ承認スルノ已ムナキニ至ルヘキヲ以テ今日早キニ臨ン
テ新事態ヲ認識シ從來ノ態度政策ニ變更ヲ加フルノ要アル
ヘシト述ヘタルニ同大使ハ今回重慶滯在中得タル印象ニ依
レハ同地ハ上下共長期抗戰ノ意氣極メテ旺盛ナルヤニ見受
ケラレタルカ新政府成立ノ上ハ獨伊兩國ハ承認スルニ至ル
ヘシト述ヘタルノミニテ話題ヲ轉シ殊更ニ本件論議ニ深入
スルヲ避ケタリ

北京へ轉電セリ

469 昭和14年7月5日 在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘との會談において現地のわが方陸海軍
司令官が汪に対する支持を表明について

上海 7月5日後発
本省 7月5日夜着

第一八六六號(極秘、館長符號扱)

森島参事官ヨリ

竹内ハ三日本官トノ會談ニ引續キ四日ハ海軍側及川司令長
官野村中將等ト會見シタルカ野村中將等ヨリ英米各國ノ動
向ニ付海軍側ノ觀察ヲ述ヘ中央政府樹立ノ急務ヲ説キ海軍
側トシテハ中央ハ現地トモ一致シテ竹内ノ政治工作ヲ支援
スヘキ旨ヲ告ケ竹内ヲ激勵スル所アリ五日ハ南京ニ赴キ山
田司令官ト會見竹内ヨリ重慶方面ノ情勢ヲ述ヘ和平救國ニ
出馬セル決心ヲ語レルニ對シ司令官ハ新中央政府樹立ノ必
要ナルヲ力説シ之カ爲ニハ充分ノ援助ヲ吝マサル旨ヲ述ヘ
最後ニ竹内ヨリ中央政府樹立工作ニ取掛ルニハ臨時維新兩

政府等既成政權ノ充分ナル了解ト支援トヲ必要トスル次第ヲ述ヘタルニ對シ司令官ハ北支ニ於テハ杉山司令官ニ於テ又中支ニ於テハ自分ニ於テ何レモ竹内工作ノ成功ヲ見ル様善處スヘク又維新政府側トモ能ク聯絡シ意思ヲ疏通セラルルニ於テハ必ス圓滿ナル結果ヲ齎シ得ルモノト信ストテ種々激勵スル所アリ終リテ直ニ梁鴻志ト會談シタルカ前回ノ會談ニ比シ兩者ノ意思疏通ニ一步ヲ進メタル趣ナリ
北京、香港、南京ヘ轉電セリ

470 昭和14年7月12日 有田外務大臣より
在英國重光大使、在米國堀内大使他宛

汪兆銘工作の経緯概要について

亞一機密合第八二四號

昭和十四年七月十二日

外務大臣 有田 八郎

在英國

特命全權大使 重光 葵殿

(以下宛先省略)

對汪精衛工作及支那新中央政權樹立工作ニ關スル件

客年春以來主トシテ參謀本部ニ於テ汪精衛一派ノ國民政府

離脱ニ依ル蔣政權切崩シ工作ヲ極秘裡ニ推進シ來リ右工作ノ一段階トシテ客年十二月十八日汪精衛ノ重慶脱出實現スルヤ同二十二日近衛總理大臣談ヲ發表シ之ニ呼應シ同三十日汪ノ第一次聲明發表セラレタル経緯アリ

其ノ後諸般ノ情勢ノ進展ニ依リ本件工作ハ漸次支那新中央政權樹立工作ノ形ヲ取ルニ至リ從テ我對支根本國策ノ一トシテ關係省部緊密ナル連繫ノ下ニ諸般ノ工作ヲ實施シ來レル處本年五月二十八日汪側ヨリ別紙第一「時局收拾ニ關スル具体的辦法」ノ内示アリ之ニ對シ本年六月六日五相會議ニ於テ別紙第二「新中央政府樹立方針」ヲ決定スルト共ニ其ノ後更ニ汪側ヨリ時局收拾ニ關スル具体的辦法ヲ提出セルニ對シ五相會議ノ意見ヲ決定シ(兩者ヲ合シタルモノ別紙第三ノ通)當時密ニ來朝シタル汪精衛ト折衝ノ結果大体意見ノ一致ヲ見ルニ至レリ

汪ハ其ノ際五相及近衛公爵ト意見ヲ交換シ更ニ臨時、維新兩政府首腦者トモ一定ノ了解ヲ遂ケタル上七月十日上海ニ於テ時局收拾ニ關スル第一聲ヲ舉クルニ至レル次第ナリ
本件工作ハ軍機ニ互ル點アリ其ノ内容ハ絕對極秘ニセラレ度キモ今後漸次具体的事實トシテ發現シ來ルヘキニ鑑ミ對

外應酬上ノ參考トシテ貴大使ノ御含迄ニ通報ス委細別紙ニ依リ御諒悉相成度

本信宛先 英、米、獨、佛、伊、蘇

編注一 省略。本書第287文書として採録。

二 省略。本書第461文書として採録。



471 昭和14年7月15日 在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

新中央政府樹立問題に関する王克敏と梁鴻志

との意見交換の模様について

上海 7月15日後発
本省 7月15日夜着

第一九七五號(極秘、館長符號扱)

青島發本官宛電報第五八號二關シ

森島參事官ヨリ

清水歸來後ノ報告左ノ通り

一、兩政府委員ハ同一「ホテル」ニ滞在セル爲顔ヲ合ハス機
會多ク其ノ際ハ茶話ノ程度ニテ時々中央政權問題ノ話ヲ

ナシタルカ其ノ内容ハ取立テテ言フ程ノコトナシ

二、王克敏ト梁鴻志ト二人丈ケノ席ニテ王ハ梁ニ對シ自分ハ
竹内ト昵懇ノ間柄ニテ如何ナルコトニテモ無遠慮ニ言ヒ
得ル立場ニアルヲ以テ中央政權樹立ニ關聯スル維新政府
ノ問題ニ付必要アラハ斡旋ノ勞ヲ執ルモ差支ナシト申出
テタリ(右ハ王ノ善意ニ出テタル話ト察セラルルカ梁ハ
必スシモ之ヲ善意ト解セサリシ模様ニテ其ノ後ニテ部下
ノ某ニ對シ維新政府力王ノ指圖ヲ受クル必要ナシト述懐
セル由)之ニ對シ梁ハ自分(梁)一個人ハ中央政府ノ樹立
ニ伴ヒ下野スレハ夫レテ差支ナキ譯ナルカ一年有餘苦勞
ヲ掛ケタル部下ノ後始末ニ付テハ自分ノ全責任ニ於テ解
決セサルヘカラスト述ヘタル趣ナリ(梁始メ維新政府幹
部ハ既ニ同政府解消ノ已ムヲ得サルヲ察知シ居ルモノノ
如ク現在彼等ノ關心ハ専ラ今後ノ身ノ振方ニアル模様ナ
リ)

三、梁カ清水ニ内話セル所ニ依レハ前記王ト話合シタル際事
茲ニ至リテハ中央政府樹立ノ時機ハ成ルヘク早キ方然ル
ヘシトノ意見ニ一致セル趣ナリ(時機ノ早キヲ希望スル
理由ハ王ハ吳佩孚周圍ノモノ等ノ策動ヲ惧レ居ル爲梁ハ

竹内ノ勢力カ壓倒的トナラサル以前ニ政府ヲ樹立スル方
維新政府ニ有利ナリト考ヘ居ルニアラスヤト察セラル

四、梁ノ心境ニ付梁周圍ノモノノ内話ヲ綜合スルニ梁ハ如何
ナル場合ニモ王克敏ト對等ノ地位ヲ占ムルコトヲ第一ニ
考慮シ居ルモノノ如ク例ヘハ將來王力華北政務委員會ノ
委員長トナル場合ニハ梁力中央政府ノ行政院長位ニナリ
タキ氣持ヲ有スルモノト察セラル
北京、南京ヘ轉電セリ

472 昭和14年7月25日 在広東岡崎総領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の広東訪問の目的について

付記一 矢野領事作成、作成日不明

汪兆銘の広東訪問理由等について

二 矢野領事作成、作成日不明

広東来訪後の汪兆銘の行動について

広東 7月25日後発
本省 7月25日夜着

第四四三號(極秘、部外秘、館長符號扱)

上海發閣下宛電報第二〇七三號ニ關シ

一行ハ二十四日午後二時到着セリ竹内今回ノ來廣ハ主トシ
テ廣東省内各軍隊ノ回收切崩工作ヲ進メントスルニ在ル處
當地軍司令部側ニテハ竹内ニ對シ單ニ右軍隊ノ引出工作ノ
ミナス當地地方政權ヲ樹立シ逐次之ヲ廣東全省ニ及ホス
等政治方面ニ於テモ積極的活動ヲ開始スル様要望シ之力達
成ノ爲ニハ出來得ル限り援助ヲ與フル方針ヲ執リ居ル模様
ナルニ付竹内ノ活動如何ニ依リテハ今後政治、軍事兩方面
ニ亘リ相當ナル進展ヲ見ルニアラスヤト察セラル

(付記一)

(昭和十四、八、十、接到)

第二 廣東ニ於ケル竹内工作概況

於廣東 矢野領事記

一、竹内ノ廣東ニ於ケル政治工作ヲ決意セル理由

竹内ハ東京會談ヲ終ルヤ直チニ北支中支ニ赴キ臨時維新
兩政府首腦部ト會見シ中央政府樹立ニ關シ意見ノ交換ヲ
行ヒタルニ北支ハ別トシ中支首腦部ノ口吻ヨリ窺フニ竹
内カ徒手空拳ヲ以テ日本軍ノ占據地帶ニ乘リ込ミ兩政府

ヲ足場トシテ起ツコトハ聊カ虫カ良過キルトノ不滿ヲ藏シ居リ又竹内ニ好意ヲ有スル方面ニ於テハ竹内カ少クモ中央軍ノ一部等ヲ切崩シ若クハ地方政權ヲ樹立シ之ヲ背景トシテ起ツニ非スンハ既成兩政府ニ對シテ發言權ヲ有シ難キニ非スヤトノ忠告ヲナセルモノアリ

竹内ハ是等ノ空氣ヲ察知シテ同志ノ一部ニハ多少ノ反對アリタルモ極メテ鞏固ナル決意ヲ以テ廣東ニ乘込ミ政治軍事工作ニ努力セルニ至レル次第ナリ

二、南支派遣軍側ノ意嚮

同軍ニ於テハ豫テヨリ廣東地方ヲ中心トスル南支政權ノ樹立ヲ熱望シ一田中佐ト余ト同道佐藤參謀副長ヲ七月十日往訪セル際ニ於テモ同副長ハ南支政權樹立ノ要ヲ説キ必要ナル凡ユル協力ヲ竹内ニ供與スヘキニ付同氏又ハ其ノ腹臣ノ者ヲシテ廣東ヲ中心トシテ南支政權ヲ樹テ之ヲ基礎トシテ中央政府樹立ニ乗出シ日支相携ヘテ東亞復興ノ業ニ乗出スヘキ旨ヲ力説シ居リ又特ニ香港(石野大佐)、汕頭(山本大佐)、臺灣軍參謀(鹽津參謀)、參謀本部(白井大佐)、和知機關(和知大佐、中井中佐)ヲ集合シ會議ヲ開キ竹内工作ニ關スル方針ヲ討議シタルカ其ノ決議中

重要點左ノ如シ

(一) 竹内ヲシテ廣東ヲ中心トシテ政權ヲ樹立スル様指導ス

(2) 、、ヲシテ竹内ノ傘下ニ又ハ竹内ト協力シ本件工作達成ヲナス様施策ス

(3) 右工作ハ竹内側之二當リ必要アルトキハ日本側之二協力ス

(二) 竹内側ニ於テ軍隊養成ニ地域ヲ要スル場合ハ軍ハ其ノ占據地域内ニ必要ナル地盤ヲ供與ス

(三) 本件工作達成ニ際シ必要アルトキハ軍ハ作戰ニ協力ス
(四) (1) 新政府樹立ヲ見ルトキハ廣東省市ノ治安維持ハ新政府ヲシテ之二當ラシム

(2) 軍占據地域内ノ行政ニ關シテハ軍ハ必要最少限度以外ハ新政府ヲシテ之ヲ行ハシム

(五) 福建省ニ於テモ竹内ノ傘下ニ入ルヘキ新政府ヲ樹立セシムル様施策ス之ニ際シ必要アルトキハ軍ハ廣東ノ大部分ヲ戰定後作戦ヲ進ム

(六) 白ハ竹内君ト協力セシムル様指導ス之ニ必要ナルニ於テハ軍ハ廣西ニ作戰ヲ進ム

(七) 本件工作ニ必要ナル竹内側工作員ヲ廣東ニ常駐セシム
(八) 右ハ中央ノ承認ヲ經テ實施ス

註。工作員ニ關シテハ竹内君ハ金章沈松ヲ豫定シ居ル
カ如シ沈ニ關シテハ軍側ニ於テ好マサルモノアルカ
如キモ大シタ根據アリトモ覺エス

三、竹内君ノ政治、軍事計劃

(一) 政治方面

廣東省政府樹立ヲ目標トシテ進ム

(1) 第一期。八月初旬ヨリ八月末迄ヲ連絡時期トシ所要
ノ工作員數名ヲ廣東ニ留メ香港其ノ他輿地ト連絡セ
シム

(2) 第二期。九月初旬國民黨全國代表大會後廣東ニ「政
務委員會」ヲ組織シ治安維持會ヲ之ニ隸屬セシメ保
安隊ノ組織等ニ當ラシムルト共ニ省政府樹立ノ準備
ニ當ラシム。豫定委員ハ九名トシ中三名ハ竹内君ノ
同志、二名ハ張發奎、鄧龍光ノ連絡者、他ノ四名ハ
華僑及廣東、香港ノ有力者ヨリ選ブモノトス
(3) 第三期。中央會議開催前ニ省政府ヲ樹立ス省長トシ
テノ第一候補ハ張發奎、第二候補ハ鄧龍光トス

(二) 軍事方面

軍隊トノ連絡ハ主力ヲ張發奎及鄧龍光ニ置キ其ノ他雜
軍ニ對シテモ同時ニ連絡ヲ計ル現在既ニ連絡完了セル
モノハ寶安、惠州、博羅ニ駐屯スル一團ト一個大隊ノ
モノニシテ其ノ首腦者ハ廖^(前)轟ナリ

本件ニ關シテハ七月二十七日竹内夫人來廣ニ依リ最近
張發奎ハ自ラ香港ニ至リ竹内夫人ニ面會シ密接ナル連
絡ヲ約シ又鄧龍光モ亦代表ヲ竹内夫人ニ派遣シ密接ナ
ル連絡ヲナシ相當事態ハ有望ニ展開シ竹内ノ言ニ依レ
ハ好都合ニ行ケハ四、五個師ノ軍隊ハ入手可能ナル趣
ナリ

(付記二)

第三 竹内君來廣後ノ行動

於廣東 矢野領事記

(一) 七月二十四日午後一時四十五分着
(二) 七月二十五日 午前九時ヨリ影佐、佐藤等ト會見挨拶交
換、軍司令官訪問
(三) 七月二十六日 矢野、清水ト會談

七月二十五日夕方中山(周隆庠)ヨリ電話ヲ以テ竹内君カ矢野ニ面談致シ度儀有之明二十六日午後四時ニ來訪方御足勞願度旨通報シ來リタルニ付之ヲ快諾約束ノ時間ニ竹内君ヲ訪往セルカ其ノ際清水君ヲモ同道セリ

(1)竹内君ヨリ日英會談ノ現狀如何ト質問アリ本官ヨリ東京ヲ遠ク離レタル當地ニ於テハ新聞記事ヲ通シ知識ヲ有スル程度ナルカ英國側ハ所謂三原則ナルモノヲ承認セル旨新聞紙ハ報道シ居レリト答ヘタルニ竹内君ハ支那紙ヲ取り上ケ英國側ハ三原則ヲ認メタル旨ハ承知シ居ルモ右三原則ハ日本軍占據地域ニ於テノミ認ムルモノニシテ非占據地域即チ重慶政府治下ノ地域ニ於テハ重慶側ヲ可然操リ兩者間ヲ巧ミニ泳キ決シテ援蔣政策ヲ放棄スルモノニ非サルモノト信スヘシ現ニ宋子文ハ目下倫敦ニ在リテ滇緬鐵道敷設契約ヲ締結シ英側、佛側及宋子文關係銀行ハ各々三百萬磅ヲ出資シ英佛側資本ノ代償トシテ鑛山開發權ヲ得タル事實ニ見ルモ明白ナリ從ツテ日本側ニ於テモ此點特ニ注意アリ度シト語レリ

仍テ本官ハ御注意忝ケナキモ東京ニ於テモ本件會談ニ

ハ慎重ナル態度ヲ持シ居リ英國側ノ術策ニ乗セラルルコト萬々無カルヘク又英國側モ此ノ際不徹底ナル解決案ニテハ到底天津其ノ他ニ於ケル懸案ノ解決ノ覺束ナキコトハ能ク熟知ノコトト信スト答ヘ置ケリ

(2)竹内君ハ次テ當地英國總領事ト會見スルコトニ關シ貴見如何、實ハ上海ニ於テハ英佛大使ヨリ會見方申込アリタルモノ之ヲ斷リタル次第ナリト語ル、仍テ本官ヨリ當地英國總領事ハ凡テ上海ニ於ケル大使ヨリノ指示ノ下ニ動クモノナレハ大使ニスラ逢ハサルニ當地總領事ト逢フコトハ極メテ無意味ナルノミナラス第三國ノ官憲ト逢フハ時期尙早ニテ新政府樹立ノ準備完了シ「スタート」ヲ切ツタ時ニ行ハレテモ遅クナシト答ヘ且本官ヨリ何等特別ノ目的アリテ英國總領事ト逢ハレントスルヤト反問セリ之ニ對シ竹内君ハ實ハ左ノ理由ニ基クモノナリト語レリ

廣東復興ハ當地ニ來リテ極メテ急務ナルコトヲ痛感セルカ之ニハ香港ニ避難シ居ル一般人廣東出身要人、ヲ廣東ニ復歸セシムルコト第一ナルカ之ニ對シテハ英國ハ妨害シ居レルニ付當地英國總領事ヲ通シ之カ

緩和方ヲ計ラントスルニアリ又自分ノ工作ヲ進ムル上ニ於テモ同志及連絡者ノ香港ト當地トノ來往ノ自由カ必要ナルニ英國側ハ之ヲ妨害シ居レリ仍テ之等ノ妨害ノ緩和ハ極メテ必要ナルニ付之ヲ緩和セシメントノ目的ナリ、又香港廣東間ノ交通ノ自由ハ廣東復興及工作進展上必要ナルカ珠江ノ閉鎖ハ日英何レニ於テナサレタルモノナリヤト反問セリ仍テ本官ヨリ右ハ日本側ニ於テ作戰上ノ必要上封鎖セルモノニテ作戰ノ必要カナクナル迄ハ珠江ヲ開放シ香港廣東間ノ自由ナル交通ヲ開クコトハ難シク而モ右ハ作戰關係ナレハ軍當局ニ於テ決定スヘキモノナレハ軍當局ニ話サレテハ如何ト述ヘタルニ竹内君ハ軍司令官ト明日會見スルカ其ノ際之ヲ話シテ可ナリヤト尋ネタルニ付簡單ニ話サルレハ可ナルヘシト答ヘ次テ元來軍側ニ於テモ一日モ早ク廣東ノ復興ノ成ルヲ希望シ居ルモ作戰上ノ必要アリテ珠江ヲ已ムナク閉鎖シ爲メニ復興遅レ居ル「ザレンマ」ニ陥リ居ル次第ナリト答ヘタリ

又竹内君ハ語ヲ續ケ本年二月頃自分カ河内ニ在ルト

キ香港政廳ニ對シ赴香スルニ付身邊保護方依頼セルニ香港政廳ヨリハ身邊ノ保護ハナスヘキモ政治的活動ハ一切停止サレ度キ旨ヲ條件トセルニ付遂ニ香港行ヲ斷念セル次第ナルカ實ハ他方郭駐英大使ヲ通シ英國政府ニモ同様申入レタルニ（郭ハ困リタルモ竹内君トノ從來ノ關係上取次キタリ）英國政府ヨリハ香港總督ニ對シ本件措置方訓令越シタルヲ以テ總督ハ在香港支那人有力者ノ意見ヲ求メタル處羅文錦ハ和平運動起リ重慶勢力減退ヲ理由トシテ不可ヲ唱ヘタルニ羅旭和ハ竹内ノ國民黨元老ニシテ而モ嘗テ國民黨ノ在野時代香港政廳ニ於テ之ヲ虐待セル爲メ廳テ國民黨カ政權ヲ握ルヤ大正十四、十五年ノ排英「ストライキ」ノ發生ヲ見タル苦キ經驗アリ仍テ竹内君ノ依頼ヲ容ルルコト得策ナル旨力説セルニ付總督ハ兩者ノ中間ヲトリ前記ノ如ク身邊ノ保護ハナスモ政治的活動ヲ封シタル次第ナル旨語レリ

(3) 金章問題

金章ト面會方香港石野武官ヨリ希望アリタルカ余ハ同君トハ幼年時代ヨリノ友人ニテ胡漢民モ同窓ニシテ共

(四) ^モ八月二十七日午前十時ヨリ軍司令官ト竹内會見

ニ日本ニ留學シ革命黨ニ入り同志トシテ働キタルコトアリ孫文先生ノ廣東ニ政府ヲ組織スルヤ我々ハ其ノ下ニ共ニ働キタルニ陳炯明ノ謀反ノ際金君ハ我々ニ叛キ炯明ニ加擔シタル爲メ後ニ孫先生復活ニ際シ自分ト離レ爾來十數年流浪シタルカ先年吳鐵城カ廣東省主席トナルヤ金君ノ復活ヲ許シ差支ヘナキヤト南京ニ伺ヲ立テタルニ付自分ハ之ヲ許シタルコトアリタルカ同君ハ日支戰爭不可ヲ吳鐵城ニ説キ容レラレサルヤ直チニ辭職セルコトアリ同志ノ一部ニハ同人カ吳鐵城ト通謀シ居ル旨(六萬圓ノ小切手ヲ吳ヨリ受領セル事實アリ)ヲ以テ反對スル者アルモ逢テ見テ共鳴スル所アラハ使用シテ可ナリト思フカ故ニ廣東ヘ來ルナラハ會見シテ差支ナキニ付何處ニ在リヤ日本側ニ於テ御調ヘ願度シト語ル本官仍テ之ヲ影佐ニ傳達スヘキ旨約束ス

又竹内君ハ今後ノ工作ノ爲メ現在ノ家屋ノ外ニ二三家屋ヲ準備シ自分ノ上海ヘ引揚ケタル後モ常時工作員及連絡員ヲ駐在セシメ度キニ付宜敷願フ旨ヲ述ヘタルニ付所要人數其ノ他希望ヲ具體的ニ申出ラレ度キ旨ヲ答ヘ置ケリ

竹内君ハ重慶脫出以來ノ經緯及決意ヲ語リ司令官ハ能フ限りノ援助ヲナスヘキ旨ヲ語リ詳細ハ參謀副長及大平ト相談セラレ度ト語ル

竹内君ノ談話要領左ノ如シ

蔣介石ノ將來

(1) 蔣介石ハ從來ノ行懸上又自己ノ一身上ノ利害關係ヨリスルモ到底改心スルノ意ナク飽迄抗日ヲ繼續スヘシ

(2) 中央軍ノ動向

中央軍中五分ノ二ハ蔣介石ト飽迄行動ヲ共ニスヘキモ五分ノ三八和平派ナリ只和平ハシ度キモ未タ日本ノ眞意ヲ知ラス已ムナク抗戰ヲ續ケ居レリ

(3) 廣東軍ノ狀況

蔣ハ廣東軍ノ動向ニハ心痛シ居リ從ツテ之ヲ分散配置シ側ニ中央軍ヲ置キ監視スルト共ニ補充ハ中央軍ヲ以テ充當シ居レリ然レ共薛岳、鄧龍光、張發奎ハ自分ノ河内脫出後直チニ連絡ヲ開始シ鄧龍光ハ自ラ香港ニ至リ同志ト會見シ居リ薛、及張ハ各々代表ヲ香港ニ派遣シ來リ而モ之等ハ竹内君ノ宣傳物ヲ多數任地ニ携行シ宣傳ニ努メ居レリ

(4) 竹内君ノ希望

(イ) 自分ハ今後宣傳ト實行トヲ併セ行フ心算ナリ

(ロ) 現今珠江ノ交通ハ多大ノ制限ヲ受ケ居ル現狀ナル處
斯クテハ同志及支那人及其ノ代表等ノ往來極メテ
不便ナレハ何トカ特別ノ便宜ヲ計リ戴キ工作進捗上
御協力ヲ願ヒ度シ

(五) 七月二十七日午後四時竹内參謀副長トノ會見

本會談ニ於テ竹内君ハ「廣東ニ於ケル竹内工作概況」ノ
(三)ニ記述セル政治軍事計劃ニ付語りタリ

(六) 七月二十八日

本日ヨリ要談ノ有無ニ拘ラス參謀副長ハ毎日午後四時ヨ
リ竹内君ヲ往訪シ交誼ヲ深メ今後ノ工作ノ圓滑ナル進展
ニ資スルコトトセリ但シ日曜ハ除ク、本日ノ會談ニ於テ
竹内君ハ最近ノ廣東軍ノ動向ヲ語り張發奎ハ最近香港ニ
至リ竹内夫人ニ面談シ竹内ノ和平工作ニ贊意ヲ表シ竹内
君ノ傘下ニ走セ參スルコトヲ約シタル力ニ成功セハ四、
五個師ノ軍隊ハ寢返ルヘシ又鄧龍光モ連絡者ヲ香港ニ派
遣シ來リ竹内夫人ト連絡シ來レリ今後ノ軍事工作ノ重點
ハ張發奎、鄧龍光、李漢魂、吳奇偉ニ置クコトトナルヘ

シト語レリ

(七) 七月二十九日

上海晴氣中佐ハ梁鴻志、陳群等ノ新政府ニ於ケル人事問
題(陳群ノ內政部長其ノ他)ニ關シ周佛海ニ具體的ノ意思
表示ヲナシタル旨晴氣ヨリ打電アリ寺川ハ直チニ竹内君
ヲ往訪シタルカ竹内君ハ自分ノ上海歸來迄ハ一切右人事
問題ニハ決定ヲ與ヘ度ク無キ旨ヲ述ヘ寺川モ之ニ贊成シ
タリ晴氣中佐ハ如何ナル目的ニテ斯カル人事問題ヲ早計
ニ持出シタルヤ諒解ニ苦シム所ニシテ而モ凡テ斯カル事
ハ寺川ヲ通シテ行フヘキニ拘ラス之ヲナセルハ少々統制
ヲ案ス行動トイフヘキナラン

本日矢野ハ竹内君ニ寺川ト同行シ上海ニ先發スルニ付挨
拶ニ赴キ會談セルニ竹内君ハ廣東ノ荒廢ノ豫想外ニ非道
キコトヲ發見セル力ニ復興ニ關シ矢野ノ見透如何ト尋
ネタルニ付竹内君ノ腹臣ノ者ニ於テ廣東省政權カ樹立サ
レ治安ノ維持カ回復セハ復興モ容易ナルヘキニ付暫時ノ
辛抱ナラント答ヘ且軍側ニ於テモ能フ限り復興ニ關シ努
力中ナル旨ヲ述ヘ慰メ置キタリ又竹内君ハ別ルルニ臨ミ
當地軍事工作ハ豫想外ニ進捗スルヤニ二見エツツアル旨ヲ

語り且元來成功セサルモ元々ナリトノ氣持ニテ來廣セル
ニ此ノ分ナラハ満足スヘキ結果ヲ得ルモノノ如シト述ヘ
タリ

473

昭和14年7月31日

在広東岡崎総領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の軍事・政治工作計画に対する南支派
遣軍の支持について

付記 昭和十四年八月十二日、作成者不明

「集團ト武内側トノ協議事項」

広東 7月31日後発

本省 7月31日夜着

第四五九號(極秘、館長符號扱)

本官發上海宛電報

第七五號

森島參事官へ清水ヨリ

竹内ハ當地着以來香港方面ヨリモ多數ノ同志ヲ招キ當地軍
側トモ打合ノ上當地方ニ於ケル工作計畫ヲ立テツツアルカ
今日迄ノ話合ニテハ大體左ノ通り豫定シ居レリ

一、軍事工作

廣東軍特ニ張發奎及鄧龍光系ノ軍隊ト聯絡シ之カ誘致ヲ
計ルコト(兩者ノ聯絡ハ引續キ行ハレツツアルモ聯絡者
ノ往復ニ相當日子ヲ要スル爲順調ニ進ミタル場合ニ於テ
モ是等軍隊ノ旗擧ハ早クトモ九月トナル見込尙竹内ノ觀
察ニテハ張發奎軍隊最モ有望ナルヘシトノコトナリ)

二、政治工作

廣東省政府樹立ヲ目標トシ第一期八月末迄ヲ聯絡期間ト
シ此ノ間數名ノ工作員ヲ廣東ニ常駐セシメ各方面トノ聯
絡ニ當ラシム第二期九月初旬ヨリ中央政治會議開催ニ至
ル間ヲ準備期間トシ廣東政務委員會ヲ組織シ治安維持會
等ヲ指導シ保安隊ノ組織、警察ノ擴充等ヲ行ヒツツ省政
府樹立ノ準備ニ當ル(政務委員會組織ノ時期ハ國民黨全
國代表大會直後トシ委員ハ竹内ノ同志、張發奎、鄧龍光
等ノ代表者、華僑有力者及廣東、香港方面ノ有力者中ヨ
リ選定スル豫定ナリ)第三期中央政治會議開催前ニ省政
府ヲ樹立シ省長ヲ選任ス(竹内ノ腹案ニテハ張發奎又ハ
鄧龍光ヲ豫定シ居ルモノノ如シ)

三、南支派遣軍側ニ於テハ竹内ノ政治工作ニ極メテ好意ヲ有

シ豫テヨリ廣東ヲ中心トスル南支政權ヲ樹立シ之ヲ基礎トシ中央政府樹立ニ乗出スコトヲ熱望シ居リタル程ナルヲ以テ前記竹内ノ政治、軍事工作ニ對シテハ全幅的ニ之ヲ支持スル方針ヲ採リ例ヘハ竹内ノ誘致セル軍隊ノ地盤トシテ占據地域ノ一部ヲ讓ルコト、新政府樹立ノ曉ハ廣東省市ノ治安維持其ノ他ノ行政ヲ出來得ル限り新政府ノ手ニ移スコト等ヲ考慮シ居レリ

大臣、香港、北京ヘ轉電セリ

(付記)

集團ト武内側トノ協議事項

昭和十四年八月 於廣東

(八月十二日午後四時作製)

軍ト武内側トハ左記事項ニ關シ協議ノ上相互ニ協力援助ト實行ノ促進ヲ約セリ

一、武内ハ一面中央政府樹立工作ヲ進ムルト共ニ南支政權樹立工作ニ邁進スルコト

之カ爲武内ハ廣東ニ於テ南支工作ニ必要ノ處置ヲ講シタル後同志ヲ廣東ニ止メテ其工作ヲ繼續セシメ自身ハ一旦

上海ニ歸ヘリ國民黨全國代表大會ヲ終リ必要ニ應シ更ニ來廣スルコト

二、南支政權ハ單ナル政治機關ノ組織ヲ主トセス實力派ヲシテ反共保境安民ヲ標榜シテ立タシメ之ト日本軍トノ間ニ局部的停戰及必要ナル協力支援ヲ行ヒ之ヲ南支五省ニ擴大シテ蔣ヲ下野セシムル等重慶政府ノ壞滅ヲ圖ルヲ施策ノ主眼トシ之ヲ容易ナラシムル爲南支政權樹立ヲ工作スルコト

三、南支政權成立セハ日本軍ノ占據地域ニ於ケル治安警備行政經濟ヲ日本軍ノ手ヨリ逐次該政權ニ移讓スルコト

四、實力派派返ヘリ工作ハ差當リ先ツ重點ヲ張發奎及鄧龍光ニ指向シ且李漢魂、吳奇偉、薛岳ニモ密ニ連絡スルコト

余漢謀ニ對シテハ其部下軍隊ノ切壞シヲ主トスルコト

陳濟棠、許崇智ハ當分立上ルノ決意乏シキヲ以テ陳濟棠ノ部下黃質文ヲ武内ト合作セシメ其舊部下軍隊ノ引拔キ工作ニ從事セシムルコト

李、白ニ對シテハ和知機關ノ施策ニ待ツモ武内ヨリモ直接連絡スルコト

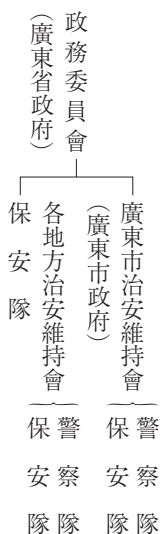
五、保安隊ノ建設ヲ圖ルコト

差當リ廖^(福カ)蔘ヲシテ博羅、惠州、寶安附近ニ散在セル武内系軍隊ヲ集成セシムルコト

其他廣東市附近ニモ建設ヲ劃策スルコト

六、南支政權樹立ノ準備工作トシテ廣東ニ政務委員會ヲ設置スルコト

政務委員會ト治安維持會其他トノ關係ハ左ノ如ク構想スルコト



寢返ヘリ軍隊ハ國防軍トシテ中央政府直轄トス

政務委員會ハ武内ノ同志、張發奎並ニ鄧龍光ノ各連絡者、黃質文、張永福、金章及廣東治安維持會長等ヲ以テ構成シ武内ノ同志ノ一人ヲ長トスル如ク豫定スルコト

七、第一線軍隊カ全ク外界ヨリノ情報ヨリ封セラレ蔣介石側ノ一方的宣傳ノミヲ受クル實情ニ鑑ミ此等第一線軍隊ニ對スル有效ナル宣傳方策ヲ考案スルコト

ハ、廣東ニ軍官學校ヲ設ケ寢返ヘリ軍隊ノ將校ノ再教育及新ナル將校ノ養成ヲナスコト

九、東亞ノ新秩序ヲ建設スルハ結局青年ノ自覺ト運動ニ俟ツヘキヲ以テ先ツ日支兩國ノ青年ヲ教育スル機關ヲ廣東ニ設置スル如ク至急具體的研究ヲナスコト

一〇、今後財政經濟ノ極メテ重要ナルト中國人ハ一般ニ日本ニ搾取セラルルヤノ懸念ヲ有スルヲ以テ速ニ日支協同經濟計畫ヲ樹立スルヲ要ス

右ニ關シ至急具體的研究ヲナスコト

二、華僑工作ニ當リテハ廣東福建省等ノ出身華僑ヲシテ南支政權ヲ援助セシメ以テ南支那ノ復興經濟的開發及投資等ニ協力セシムル如ク指導スルコト

編注 本付記の冒頭に「昭十四、八、十六、岡崎總領事ヨリ」との書き込みあり。

~~~~~

474

昭和14年8月12日

在上海三浦總領事ヨリ  
有田外務大臣宛(電報)

汪派による国民党中心主義的主張が和平運動

全般におよぼす悪影響につき注意喚起

上海 8月12日後発

本省 8月12日夜着

第二二五九號(極秘、館長符號扱)

九日ノ中華日報ハ救黨、救國二要スル認識ナル社説ヲ掲ケ  
和平交渉ノ爲ニハ獨立自主ノ政府ヲ必要トスル處法。統及黨  
章ニ依レハ依然トシテ國民黨ヨリ產出シタル國民政府ノミ  
カ此ノ責任ヲ負ヒ得ルモノナリトテ差當リノ工作ニ國民黨  
員以外ノ一切ノ組織ヲ排撃シ時局ノ收拾ハ凡テ黨員ノ手ニ  
委ネヨト主張シ居リ(全文郵送)又十二日ノ同紙ハ更ニ和議  
ノ實現ト國民政府ノ再建ナル社評ニ於テ和議ノ主張ハ三民  
主義ヲ遵奉スル國民黨領導下ノ國民政府ヲ以テ主體トスヘ  
シト強調シ居ル處此ノ種主張ハ昨今汪派ノ工作カ動モスレ  
ハ更生國民黨中心主義ノ傾向ヲ帶ヒ來レルニ對シ其ノ和平  
運動ニ對シテハ共鳴シツツモ從來ノ國民黨ニハ必スシモ贊  
成シ居ラサリシ非黨員間ニ不快ノ感ヲ與ヘ居ルノ事實(本  
官發廣東宛電報第五四號ノ如キ其一例ナリ)ニモ鑑ミ國  
民黨及其ノ他各黨、各派勢力ノ時局收拾ニ於ケル關係ヲ簡  
明スル必要竝ニ奧地國民黨吸收ノ策略ニ出テタルモノト觀

ラルル處何レニセヨ國民黨カ假令孫文時代ノ夫レニ還元ス  
ルトハ謂ヘ實際ニ於テ民衆ノ信用餘リナキ現狀ニ於テ汪派  
カ國民黨中心主義ヲ餘リ露骨ニ振廻スコトハ重慶側黨員吸  
收ノ策略トシテハ別ナルカ折角汪ノ和平運動ニ共鳴スル各  
方面團體及知識分子ノ參加ヲ尻込セシムル惧アリ眞ニ人心  
ヲ收攬スル所以ニアラス山田純三郎ノ如キモ十二日岩井ニ  
對シ此ノ調子ニテハ吳佩孚ノ參加ハ問題ニナラサルヘシト  
ノ感想ヲ洩ラシ居タル趣ナリ右汪派昨今ノ行方ハ先般汪上  
京ノ際ノ我方トノ了解ヲモ多少逸脱シ居ルヤノ感アリ之カ  
指導方法ニ付テハ十日空路歸朝ノ河村トモ篤ト協議ノ要ア  
ルヤニ存セラル

廣東、香港ヘ轉電セリ

475

昭和14年8月14日

在広東岡崎総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中国駐在の各国大公使との会見を汪兆銘希望  
について

広 東 8月14日前発  
本 省 8月14日夜着

第四八五號(極秘、館長符號扱)

田尻ヨリ

一、十一日會見ノ際汪精衛ハ香港ニ於ケル同志ノ保護及廣東  
トノ往復ノ便宜ヲ得ル爲自分ト香港總督トノ會見ヲ勸メ  
ル同志モアル處貴見如何トノ話ナルニ付日英及國際關係  
ヨリ觀テ未タ時機ニアラス其ノ必要モナク又其處迄心配  
スルニモ及ハサル旨ヲ懇切ニ説明シ同人モ納得シタルカ  
汪ハ上海ニ於ケル黨代表大會後ニハ英國始メ各國大使  
ト會見シタキ由申シ居リ右ハ外國ノ出方如何ニ依リテハ  
統一政府側トシテモ遣方アル旨ヲ外國ニ知ラシメ彼等ヲ  
牽制スル意味ヨリセハ或ハ結構ナルヘキモ果シテ其ノ必  
要アリヤ疑ハシク結局其ノ可否ハ其ノ時ノ情勢ニ依リ決  
定スヘキ問題ナルヘク上海ニ於テ絶エス外交上ノ指導ヲ  
爲シ遣ルコト肝要ト存ス

二、汪ハ當地ニテ大體満足スヘキ結果ヲ得タル譯ニテ極メテ  
元氣ナリ尙香港ニハ夫人居残り南支ニ於ケル政軍各重要  
事項ヲ主宰スルコトニ決セリ、汪ハ陳公博カ母親重態ノ  
爲差當リ積極的活動ヲ爲シ得サル由ヲ辯護シタルモ顧孟  
餘ハ廣東ニモ出懸ケス彼ノ話ニ觸レルヲ避ケ居レリ

三、右會談中參考トナルヘキ點左ノ如シ

(一)客年末蔣介石カ米國大統領ニ日支間ノ調停ヲ依頼スル  
親書ヲ送りタルニ對シ米ヨリハ極メテ鄭重ナルモ右ハ  
未タ時機ニアラサル旨ヲ回答シ來レルコトアリ(汪ハ  
英國大使ノ米ヲ利用スル橋渡案ハ右事實ヨリ「ヒン  
ト」ヲ得タルモノトナセリ)

(二)最近蔣介石ヨリ「スターリン」ニ對シ外蒙軍ノ完全ナ  
ル指揮ヲ手渡サレタキ旨申入レタルニ對シ詳細ハ面談  
シタキ旨同電アリタルカ蔣ハ未タ決心付カサル由

(三)蔣ニ於テ和平ニ贊成ナル旨宣傳シ以テ軍隊ノ汪側ヘノ  
寢返ヲ引止メントスル案アリ(汪ハ右ハ一利一害ニテ  
果シテ目的ヲ達シ得ルヤ或ハ蔣ノ威信ヲ失墜スルコト  
トナルヤ疑ハシト言ヘルカ最近孔祥熙談トシテ右様意  
味ノ發表アリタルハ御承知ノ通り)

上海、香港ハ轉電セリ

~~~~~

476

昭和14年8月16日

在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪派の活動に対する重慶政權側の反応につき報告

香港 8月16日後発
本省 8月16日夜着

第一〇九八號

汪派ノ活躍ハ未タ重慶方面ニ表面的影響ヲ及ホササルモ精神の打撃ハ甚大ナルカ如ク最近蔣介石ノ同胞ニ告クル書ノ發出、各地特派員ニ對スル對汪妨害工作ノ督勵激化等之ヲ裏書スルモノト見ラルル處各方面來電ヲ綜合スルニ

一、蔣ハ過般ノ最高會議ハ一部議題ニ關シ國共ノ意見對立ノ儘閉會シタルカ其ノ翌日直ニ陳誠、周恩來、馮玉祥等ヲ招集密議シ兎モ角モ兩黨間ノ了解ヲ遂ケ又十一日夜葉楚傖ノ招集セル對汪會議ニハ何應欽、陳樹人等ヲモ出席セシムル等極力表面團結ノ固キヲ見セ掛クルニ努力中ナリ
二、中共宣傳部ニ對シ至急機構ノ健全性ヲ計ルト共ニ汪ニ對スル攻撃、陰謀ノ暴露、輿論ノ肅正、和平論ノ撲滅方努力ヲ命令シ居ルニ拘ラス毫モ效果ヲ舉ケストテ黨總裁ノ資格ヲ以テ屢々嚴重詰責シ中常會ヨリモ十一日吳鐵城ヲ督勵ノ電報ヲ發出セシメタリ(GK)

三、上海ノ紳士階級カ一樣ニ汪ノ逆説ニ迷ハサレ之カ各地ニ及ホス影響甚大ナルヲ惧レ十一日蔣ハ悲痛ナル告書ヲ發

出セルカ一方朱家驊ヲシテ香港、澳門及廣東ニ近接シ人心一段ト邪説ニ混亂サレ居ルヘキヲ以テ一層ノ警戒ヲ要スル旨吳鐵城宛訓電セシメタリ(KC)

四、目下當地ニ在ル會養甫ハ蔣ノ内意ヲ受ケ過日廖仲愷夫人ヲシテ汪ノ廣東放送ニ反駁文ヲ發出セシメタルカ曾及三民主義青年團書記長高廷梓等ハ汪放送ノ及ホセル影響ヲ重大視シ居レリ但シ宋子文ハ十三日ノ聯席會議ノ席上汪カ如何ニ努力スルモ白、張ノ兩廣ニ關スル限り絕對ニ分化ヲ起サシメ得ス張發奎今日ノ態度ハ汪ニ對スル反抗心理ニ支配サレ居レリト述ヘタル由(GK及KC)

五、尙汪派要人監視中ノ特務員ハ戴笠ニ對シ陳公博ノ汪派附和ハ未タ確實性ナキモ其ノ義父何卓然カ汪ノ手當ヲ受ケ陳抱込ニ努力中ナルハ警戒ノ要アリトシ白崇禧ハ行營主任梁寒操ニ對シ以前汪ト親交アリシモ現在ノ態度ヨリ見レハ附和ノ憂ナシト夫々電報シ居レリ

上海、天津、廣東へ轉電アリタシ

477

昭和14年8月20日 影佐少將
汪兆銘 會談

新中央政府における維新政府要人の待遇問題
等に関する汪兆銘と影佐少将との会談記録

影佐、汪精衛會談

八月廿日 於汪宅 矢野、清水同席

一、影佐ヨリ原田少將ヲ通シ梁鴻志ヨリノ傳言トシテ左ノ四
點ヲ述ブ

(一) 梁ニ於テハ誠心誠意汪氏ノ和平救國運動ノ驥尾ニ附シ
テ之ニ協力ス

(二) 右ニ關シ屢々汪氏ト會談ノ機ヲ得度キモ自分ヨリ申出
ツルヲ遠慮シ居ル次第ナレバ汪氏ヨリ會見方招カレ度
シ

(三) 汪氏ヨリ維新政府ニ對スル要望ハ凡テ議政會議ニ於テ
之ヲ諮リ決定シ度シ

(四) 維新政府ヨリ中央政府入リヲ希望セラルル人物ニ關シ
テハ汪氏ヨリ某々ヲ中央政府ニ入ラシムル様トノ要求
ヲナサレ度ク維新政府側ヨリ希望乃至ハ要求スルコト
ハ避ケ度シ

二、原田少將ノ維新政府最高顧問トシテノ希望左ノ通り傳フ
(一) 維新政府ニ於テハ最近空位トナリ居ル官職アリ充員ヲ

要スル次第ナルガ聽テ汪氏ノ中央政府組織ニ際シ支障
アリテハトノ氣遣ヒヨリ右充員ヲ差控ヘ居ル次第ナル
ニ付其ノ苦心ヲ諒承セラレ度シ

(二) 梁鴻志等ノ汪氏訪問ニ際シテハ汪氏ニ於テモ答禮サル
ルコトヲ希望ス

右答禮ノ件ニ關シテハ汪氏ハ實ハ過日梁氏ノ來訪ニ關シ
答禮セントセルモ梁氏ニ於テ青島ニ赴カレ又自分モ廣東
ニ赴キタルニ付果シ得ザリシ次第ニシテ自分ニ於テモ其
ノ心算ニ在リト同意ス

三、影佐ヨリ内話トシテ梁鴻志ノ中央政權内ノ地位ニ關シ考
試院長ノ如キ第二流ノ地位ヲ提供サルレハ恐ラク梁ハ辭
退スヘキニ付其ノ際ハ華興商業銀行總裁ノ地位ヲ提供シ
解決シ得ルニ非スヤトノ意見ヲ原田少將ハ抱キ居ルモノ
ノ如シト語レリ

四、汪ハ維新政府要人ノ中央政府入リニ關シ汪氏ノ部下ニハ
過激ナル理想論アリテ維新政府ノ人物ノ如キ無能ナルモ
ノヲ中央政府ニ入ルルハ絕對ニ反對ナリトノ論ヲナスモ
ノアレドモ汪ハ常ニ之等理想派ニ對シ一ハ日本政府ノ維
新政府要人ニ對スル情義面子ヲ考フル要アリ他ニハ維新

政府要人ノ困難ナル事態ヲ從來處理シ來リタルコトヲ理解スヘキニシテ諸君ニシテモ實際ニ仕事ニ携ハルニ至ラハ同様思フ様ニ仕事ガ進捗スルモノニ非サルコトヲ覺悟シ置クヘシト訓示シ居レリト述ヘタリ

五、影佐ヨリ汪氏トシテモ今人事問題ニ公然言及シ得サル地位ニ在ランコトヲ述ブ即チ汪氏モ中央政治會議ニ依リ中央政府ヲ組織スル迄ハ個人ノ運動ナレハ此ノ際人事ヲ言及シ得ヘキニ非サルベキコト又國民黨ノミナラス各黨各派ヲ網羅シ中央政府ヲ組織スヘキニ其ノ以前ニ於テ人事ニ言及スルハ專斷ノ譏アルヘク且今ヨリ人事ヲ公然言及シ置クニ於テハ臆テ重慶方面等ヨリ有力ナル分子ガ來リ投スル機會ヲ少カラシムル惧アリト思考サルレバナリ汪氏ニ於テモ之ニ同意ニシテ明日原田少將トノ會見ニ際シテハ人事問題ニ關シ尋ネラレテモ言及ヲ避クルコトトスヘシト語レリ

六、汪氏ハ王克敏、梁鴻志兩氏ト中央政治會議前ニ會見シ置キ度キカ御斡旋願度カ如何ト尋ネタルニ付影佐ヨリ來月中旬兩政府聯合委員會開催アルニ付其ノ開催地ニテ會談セラルルモ一案ナルカ上海ヲ希望サルルヤト反問セルニ

何地ニテモ差支ナクト汪氏ハ語リ影佐ニ於テ右斡旋方引受ケタリ

七、影佐ヨリ聞ク處ニ據レハ中華日報記事ニ維新政府ヲ傀儡政府ナリト述ヘタルモノアル由ナル處斯クテハ既存政府ノ努力ヲ宣揚スル聲明出サルルトキ彼此撞着トナルヘク又輿論指導上モ宜シカラサルニ付御考慮アツテ可然ト存スト語リタルニ對シ汪氏ハ近時カカルコトナシト思考スルモヨク調ヘ貴言ニ副フ様スヘシト述ヘ影佐ヨリ既成政權ノ努力宣揚ノ聲明ハ何時頃ナサルル予定ナリヤト尋ネタルニ中央政治會議前ニナス予定ナリト答フ

八、汪氏ハ最近重慶側ハ王克敏ノ許ニ人ヲ派シ蔣ハ王克敏ニ對シテハ何トモ思ヒ居ラサルカ汪ハ日本ノ傀儡トナリテ和平運動ヲナシ居ルニ付之ハ飽迄撃滅スル所存ナルヲ以テ貴下ハ之ニ加擔セラレサル様セラレ度シト反問ノ策ニ出テタルガ王克敏ハ傀儡トノ譏リハ從來自分ニ向ケラレ居ルニ非スヤ且自分ハ汪ノ運動モ重慶ノ工作モ兩者共ニ妨害スル意ナシト答ヘ置キタル趣ナルカ右ハ王克敏ヨリ喜多中將ニ既ニ話スミナリト述ヘタリ影佐ヨリ右様ノ離間策ハ維新政府ニ對シテモ行ハレ居ルニ非スヤト尋ネタ

ルニ汪氏ニ於テモ或ハ然ラント語レリ

右重慶ヨリ派遣セル人物ヲ王ニ會見セシメタルハ燕京大學教授米國人「ステレトン」ナル趣ナリ(米人ノ名ハ汪ノ言ノ儘)本件北京電ト同一人ナラスヤト思フ

478

昭和14年8月23日

在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

沈松暗殺事件発生について

香港 8月23日前発

本省 8月23日後着

第一一三一號(至急)

沈松ハ二十二日午後八時十五分「キングス、セアター」裏ノ文。蘭俱樂部ヨリ歸宅ノ爲自動車ニ乗ラントスル際暴漢ニ襲ハレ手斧ニテ頭部ニケ所ヲ毆打セラレ即死セリ犯人ハ現金百餘弗、時計及手帖ヲ奪ヒ現場ニ新ラシキ手斧ニ挺ヲ打捨テ何レカニ逃走シ人数モ不明ノ由

廣東へ轉電セリ

上海へ轉電アリタシ

479

昭和14年8月23日

在香港田尻総領事より
有田外務大臣宛(電報)

香港において汪派に対するテロ事件頻発につ

き対抗措置が必要である旨意見具申

香港 8月23日後発

本省 8月23日夜着

第一一三五號

往電⁽¹⁾第一一三一號ニ關シ

一、過日沈松ハ廖仲愷夫人ヨリ五名ノ壯漢ヲ居宅ニ差向ケ來レルモ事無ク追拂ヒシ事アリ(ト)内話セルカ當方ヨリモ其ノ際最近高建[。]吾力戴笠宛沈ニ對シテハ未タ親交[?]ノ方法無シ(ト)報告セル情報アル旨ヲ告ケ一層警戒方勸告シ又二十一日夜同人カント[?]來訪ノ際三名ノ支那人尾ケ廻シ居ルヲ發見シタルヲ以テ更ニ慎重行動方促シ置キタル事アリ沈ハ常ニ死ヲ恐レテハ工作遂行不可能ト稱シ夫人ノ勸告モ却ケ連日安。蘭俱樂部(文蘭ハ誤)ニ出入各方面トノ接觸ニ當リ居リタリ

三、犯人ハ三名ト報道セラレルノミニテ背後關係不明ナルモ前記事情ヨリ推シ又沈ノ聯絡先ヲ書留メタル手帖ヲ奪取

セル點ヨリ見テ重慶側手先ナルハ疑ヲ容レス

三、二十三日朝夫人ヨリ至急後繼者ノ選出方陳璧君ニ手配濟ナレハ決定次第通知スヘキニ付懸念無キ様申越セリ

四、政廳ニ對シテハ「テロ」彈壓ニ關シ從來共屢々申入レタ

ル所ナルモ二十三日重ネテ香港ニ於テ行ハルル暴行事件

ハ極メテ稀ナルハ認ムルモ林伯生襲撃事件ト言ヒ今回ノ

事件ト言ヒ執レモ汪派ノ人物ニ對シテ惹起セラレ居リ且

汪派カ我方ト聯絡アルコトハ今ヤ公然ノ事實ニシテ從テ

我方トシテハ此ノ種事件ニ關シ重大ナル關心ヲ抱キ居リ

況ンヤ勢ノ趨ク所遂ニハ日本人ニモ及フ無キヤヲ惧ルル

次第ヲ説明シ吳鐵城高建吾ニ關スル情報ヲモ提供シ又南

華日報ニ對スル迫害ニモ關聯セシメテ強ク注意ヲ喚起シ

置キタルモ政廳側カ我方ノ満足スヘキ程度ニ警戒手段ヲ

講スヘシトハ思考セラレス依テ曾テ問題トナセシコトナ

ルモ此ノ際汪派トシテモ對抗的ニ暗殺團ヲ持ツコト肝要

ナルヘク之ニハ上海ヨリ一派ヲ分遣スルコト然ルヘシト

認メラル

五、英支國境閉鎖サレタル今日香港ハ奧地トノ聯絡舊ノ如ク便ナラス沈モ一應ノ聯絡成ル上ハ速ニ廣東ニ引揚クル意

嚮ナリシ一方前項ノ手段ヲ執ルトセハ汪派ノ安全ノ爲ニ

モ當地ハ不適當トナルヘキ處廣東ヲ本據トシ當地ハ其ノ

出店トシテ有效ナル軍政工作ヲ爲シ得ヘキヤ廣東及上海

ニ於テモ御研究ヲ請フ

廣東ヘ轉電セリ

上海ヘ轉電アリタシ



480 昭和14年8月24日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

沈崧暗殺後の香港における汪派工作の見通し について

上海 8月24日後発

本省 8月24日夜着

第二三八四號(極秘、館長符號扱)

本官發香港宛電報

第一二八號

PL暗殺ニ對シテハ竹内モ大イニ驚愕シ悲歎ニ暮レ居ルカ
重慶側ニ對シ愈憤激シ貴地方面ノ工作ハ本件ニ拘ラス既定
方針ニ基キ益々積極的ニ實行スヘク今後ハPLノ代リトシ

テ陳維書ヲ香港ノ聯絡者トスルコトニ決シ又香港ノ事態一時改善ノ見込ナキニ於テハ重要分子ヲ廣東又ハ澳門ニ移シ香港ニハ成ルヘク小規模ノ聯絡機關ヲ設クルニ止メ廣東又ハ澳門ヲ聯絡工作ノ中心ト致度キ希望ヲ述ヘタルカ河村及清水ヨリ已ムヲ得サル場合ニハ廣東ニ移ル外ナカルヘキモ澳門ハ最近藍衣社入込ミ居リ相當危険ナルヘク何レニスルモ和平工作ノ進展ニ伴ヒ香港、澳門、廣東方面ニ於テ特務工作ヲ實施スル必要アルヲ以テ丁、李一派ヨリ然ルヘキ者ヲ派シ之カ工作ニ當ラシムル等速ニ具體策ヲ樹立スルコト肝要ナル旨述ヘ置ケル趣ナリ尙竹内夫人ノ身邊ハ今後益々危険トナル惧アルヲ以テ香港ヲ離ルヘキ旨竹内ヨリ申送りタルモ同人ハ目下實力派トノ聯絡ニ最モ重大ナル時期ナルヲ以テ香港ヲ動ク能ハスト頑張り居ル趣ナリ
大臣、廣東ヘ轉電セリ

481

昭和14年8月24日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本軍の駐兵および関税改正問題等に関する

森島参事官と褚民誼との会談報告

第二三八五號
往電第二三二五號ニ關シ

森島ヨリ

二十三日約ニ依リ褚民誼ト再會見シタルニ

一、褚ヨリ佛國大使ヨリ至急會見方申越アリ本日往訪ノ筈ナリト内話アリタルヲ以テ上海發累次往電ノ經緯ヨリ判斷スルモ右ハ恐ラク佛租界法院問題ニ關スルモノト思考セラレタル爲本官ヨリ佛國案ノ内容、佛側ヨリ日本側竝ニ市長ニ對スル申入及右ニ對スル應酬振ヲ説明シタルニ褚モ右ハ尤モナリトシ自分ヨリハ佛案ハ日本側竝ニ汪精衛側ハ素ヨリ重慶側ト雖之ニ反對スヘキコト必然ナルヘキ旨回答スルコトトスヘキ旨語レリ

二、褚ハ今後ノ汪派工作ニ關聯シ特ニ日本政府ニ對シ希望シタキ點アリト前提シ撤兵問題ニ關シ七月七日平沼首相談トシテ新聞紙ノ傳フル所ニ依レハ同首相ハ日本ハ半永久的ニ駐兵スヘキ旨述ヘラレ居ルモ日本側ヨリ積極的ニ駐兵ヲ云爲セラルルハ國際關係上ノ摩擦ヲ起スノミナラス

上海 8月24日後發
本省 8月24日夜着

中國人心ニ及ホス影響モ面白カラス新中央政府トシテハ反共竝ニ重慶政府ニ對抗スル關係上日本ノ駐兵ヲ必要トスルコト言フ俟タサル所ナルヲ以テ中國ヨリ日本ノ駐兵ヲ依頼スルカ如キ形式ヲ採リ中國ノ懇望ニ應ジ駐兵スルモノノ如キ説明振テ執ララルコト得策ナルヘク又關稅ノ如キモ急イテ日本ノミニ有利ナル稅率改正ヲ行フコトナク此ノ際ハ中央政府成立後列國ニ急激ナル刺戟ヲ與ヘサル改正ヲ行フコト得策ナルヘク要スルニ前記ノ法院、關稅等ノ問題ハ中央政府樹立後ニ之ヲ解決シ汪精衛ニ花ヲ持タスコト精衛カ人心ヲ收攬シ又人材ヲ引付クル上ニ有利ナルヘク切ニ日本側ノ考慮ヲ得タシト述ヘタリ(本官ヨリ一九二七年ノ稅率採用ニ關スル經緯ヲ一應説明シ置キタリ)

三、⁽²⁾本官ヨリ前日英國大使ト會見ノ際同大使ヨリ(イ)王克敏カ新中央政府ニ加入スル見込アリヤ又加入スルモノトセハ大臣ノ椅子ヲ占ムルヤ(ロ)汪派ニ對スル維新政府ノ態度如何(ハ)吳佩孚ノ去就如何ニ付質問アリタルヲ以テ本官ヨリ(イ)克敏、兆銘ハ完全ニ意見一致シ居リ從テ克敏ノ新政府參加ハ確實ナルヘシ但シ大臣トシテ新政府ニ入ルヤ否ヤ

ハ將來支那側内部ノ協議ニ俟ツヘキモノナルモ私見ヲ以テセハ北方ノ要職ニ坐ルニアラスヤト思考セラルル旨(ロ)全然問題ナシ(ハ)吳カ兆銘ト會見セサリシハ事實ナルモ元來吳ハ一徹ノ男ニシテ支那式ノ訪問ニ關スル儀禮上ノ關係ヨリ吳、汪會見ノ機會ナカリシニ過キス併シ自分ノ了解スル所ニ依レハ吳ハ和平救國ノ爲ニハ進テ起ツ意嚮ヲ有シ居リ且必スシモ自ラ大總統タルコトヲ期シ居ル次第ニアラサルヲ以テ將來情勢ノ展開如何ニ依リ汪派ノ中央政權運動ニ合作スルノ可能性ナキニアラサルコトヲ説明シ置キタル旨述ヘタルニ褚ハ最近英大使ト會見ノ筈ニ付前記ノ諸點ニ付テハ詳細説明スルコトトスヘシト語レリ北京、南京、漢口、廣東、香港ヘ轉電セリ北京ヨリ天津ヘ轉報アリタシ

482

昭和14年8月26日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘による国民党全国代表大会の開催計画について

付記 昭和十四年八月二十四日付、矢野領事作成

「竹内工作最近ノ状況」

第二四一七號(極祕)

上海 8月26日後發
本省 8月26日夜着

汪精衛ハ中央政權樹立工作ノ第一歩トシテ近ク當地ニ於テ國民黨全國代表大會ヲ開キ重慶ニ於ケル組織ヲ否認スルト共ニ反共和平竝ニ一黨專制ノ主義^(編注)ノ下ニ新二黨。章。政綱及政策ヲ制定シ且宣言ヲ發スルコトナレリ目下同志幹部ヲシテ之ヲ準備ニ當ラシメツアルカ出席代表者ノ申込既ニ二百名ヲ越ヘ現ニ南支北支各地ヨリ到着セル者百數十名ニ達シ居レリ右大會ノ開催ニ付キテハ重慶屢次ノ妨害ヲ避ケル爲今日迄祕密裡ニ準備ヲ進メツアルタル次第ナルカ愈々大會ノ翌日ニハ汪自ラ支、日、外ノ順序ニテ新聞記者ト會見シ同大會ノ開催ノ經緯、意義及内容ヲ公表スル豫定ナリ(本件大會ニ關シテハ新聞發表迄極祕ニ附セラレタシ)在支各總領事、香港ヘ轉電セリ

編注 八月二十八日發訂正電報により、「一黨專制ノ主義」

は「一黨專制廢止ノ主義」に訂正された。

(付記)

竹内工作最近ノ状況

昭和十四年八月二十四日 矢野記

一、竹内工作ノ準備トシテ丁默邨ノ暗中運動進展中ナル處現今ニ於テハ最早重慶側ノ上海ニ於ケル根據地ヲ殆ト潰滅セシメ其ノ再建ハ不可能ニ非スヤト察セラルル程度ニ成功セル趣ナリ

二、仍テ周佛海等ハ既ニ本月中旬ヨリ滬西ノ竹内住居ニ移轉シシ^(マ)竹内氏モ近ク之ニ移轉シ九月一日ニハ全國代表大會(國民黨)ヲ該住居ニ於テ開催スル予定ナリ尤モ右大會ハ或ハ一日以前ニ開催サルルヤモ知レス

三、全國大會ニハ出席應諾ノ回答ハ四〇〇人ヨリアリタルモ之ヲ選擇シ200人位ニ減スルコトシ居ル趣ニテ大体官吏上リハ簡任級以上民間人ハ地方黨部委員以上ナリトノ趣ナリ財界方面ニ於テハ未タ有力者ヲ得ス殊ニ金融界方面ハ逡巡氣味ナルカ周作民ハ或ハ來リ投スルナラントモ思ハル錢永銘ニ於テハ寧口妨害シツツアリヤニ見受ケラルル趣ナリ

華僑方面ニ於テハ胡文虎ハ竹内工作ニ共鳴シ來レルモ陳嘉庚ニ於テハ依然強ガリ居リ盛シニ華僑ヲ煽動シ竹内工作ノ妨害ヲナシ居レルモ「シヤム」蘭印方面ノ華僑ニハ竹内ノ和平運動ニ對シテハ漸次理解ヲ増シ來レル趣ナリ元來華僑ハ過激ナル言辭ヲ好ミ自然蔣ノ強ガリニ魅力ヲ感ジ居ル趣ナリ

四、軍事方面ニ於テハ干學忠軍トハ其ノ代表上海ニ來リタルニ會談セル處中央政府樹立ヲ見レハ運動ヲ開始スルニ付夫レ迄ハ一箇所ニ集結シ事實停戰シテ待機ストノ話合トナリ居レル趣ナリ

又廣東省博羅寶安方面ノ廖^(前稱)率キル保安隊(前同)報告御參照)トハ完全ニ連絡濟ミニシテ南支派遣軍トモ連絡キタル趣ナリ

竹内氏ハ軍事工作ヲナスニ從ヒ何レモ中央政府ヲ樹立シタランニハ驥尾ニ附シテ出馬セントイフモノ有リ中央政府樹立ノ急務ナルヲ痛感シ居ル趣ナリ

五、興亞院楠本氏ニ於テ新聞會見ニ際シ屢々竹内工作ニ關シ悲觀の言辭ヲ弄シ又工作狀況ニ關シ洩スコトアル趣同盟大矢^(前稱)(河内ニ在リタル)ニ於テ目撃シタル旨同人ヨリ小官

ニ内話アリ之ヲ影佐ニ傳ヘ可然注意ヲ喚起シ置クコト必要ナルト共ニ興亞院其ノ他ニ於テ中央政府樹立前ニ既成事實ヲ作り置カントスル形勢アルヤニ察知セラルル處斯クテハ將來汪ニ對シ煮湯ヲ吞マシムルガ如キ惡果ヲ招來スルコトアルヘキニ付此ノ際影佐ニ於テ興亞院側ノ注意ヲ喚起シ置クコト如何ト示唆セルニ同氏モ之ニ贊意ヲ表シ二十三日午後一時挨拶旁々小官モ同道シ津田長官及楠本次長ニ個別的ニ會見セリ

(一)津田長官ニ於テハ新中央政府成立ノ上ハ興亞院關係ノ事務中ニ於テ新政府ニ承認セシムベキモノ等多アルヘキ處先方ニ對シ要求スルモ無理ナラント思ハルモノモアルニ付此ノ際再檢討シ支那側ガ快ク承認スル樣準備シ置ク必要アリ仍テ當院ニ於テハ其ノ事ニ關シ研究中ナリト述ヘタリ

(二)楠本次長ニ於テモ右同様語レル後當部ニ於テ今後新中央政府ニ對シテ認メシムベキ限度ニ關シ目下研究中ナリト述ヘ居リタリ

483

昭和14年8月27日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

国民党全国代表大会の開催時に提出予定の決

議案等について

付記 右大会の状況に関する梅思平談話

上海 8月27日午後

本省 8月27日夜着

第二四二三號(至急、極秘)

往電第二四一七號ニ關シ

國民黨全國代表大會開催ノ際ハ(一)反共和平日支合作及一黨專制廢止ヲ主張セル宣言ヲ發表スルト共ニ(二)左記各項ノ決議案ヲ提出スル豫定ナリ

一、國民黨政綱修正ニ關スル件

二、民國廿八年一月一日以後重慶ニ於ケル國民黨組織ハ職權行使ノ自由ヲ失ヒタルモノト認メ今後其ノ職務ヲ繼續スル爲

(A)總裁制ヲ廢シ新ニ中央執行委員會主席ヲ設クル件

(B)中央委員ヲ増員スル爲選舉ヲ行フ件(従前ノ中央委員ハ故ノ如シ)

(C)從來ノ中央委員ノ來滬ヲ督促スル件

(D)新ニ法定員數ヲ規定スル件

(E)重慶ニ於ケル國民黨組織ノ解散ヲ命スル件

三、反共ヲ以テ國民黨ノ基本的政綱トスル件

四、中央執行委員會主席ニ授權シテ委員ヲ指名シ且當該人士

ト連同シテ中央政治委員會ヲ組織セシムル件

五、中央執行委員會主席及中央政治委員會ニ委任シ日支國交ヲ恢復セシムル件

六、中央執行委員會主席及中央政治委員會ニ委任シ國民政府ノ改組及其ノ南京歸還ヲ決議セシムル件(本項ハ外部ニ發表セス)

七、成ルヘク速ニ國民大會ヲ召集シ憲政ヲ實施スルノ件

(新聞發表迄極秘ニ附セラレタシ)

在支各總領事、香港ヘ轉電セリ

(付記)

中國國民黨第六次全國代表大會ニ關スル大會

祕書長梅思平氏談

中國國民黨ハ本月二十八日上海ニ於テ第六次全國代表大會

ヲ開催シ三十日ヲ以テ閉會ヲ告ケタルカ大會ノ狀況ニ關シ
同會祕書長梅思平氏ノ記者ニ對シテ發表セル談話左ノ如シ
汪先生昨年十二月二十九日通電ヲ發表スルヤ全國ノ民衆及
各地黨部ハ之ニ響應シ各地黨員海外華僑及黨部竝ニ各地民
衆團體及特別黨部等紛々トシテ支持ノ電報ヲ寄セタルカ重
慶政府及黨部當局ハ既ニ共產黨ノ壓迫ニ依リ自由ニ其ノ職
權ヲ行使スルコト能ハサルヲ以テ黨員一致シテ汪副總裁ニ
對シ速ニ第六次全國代表大會ヲ召集シ國是ヲ協議センコト
ヲ請求シ各地黨員ヨリ推薦セル代表二百四十余名ノ參集ヲ
見タリ依ツテ八月二十八日開會式及豫備會議ヲ開キ先ツ汪
副總裁ヲ臨時主席ニ推シ大會ノ主席團ヲ選出シ大會祕書處
ノ人選ヲ追認シ第六次全國代表大會議事規則ヲ議決セル後
一同起立シテ二年以來ノ殉國將士同胞同志及和平運動ノ爲
ニ遭難セル同志ニ對シテ默禱ヲ捧ケ哀悼ノ意ヲ表シテ豫備
會議ヲ終レリ

二十九日午前第一次大會ヲ舉行シ主席團ヨリ周佛海氏ヲ主
席ニ推シ黨務整理案ヲ提案シ議決ヲ見タルカ其ノ要點左ノ
如シ

(一) 民國二十八年一月一日以降本黨中央執行委員會及監察委

員會ハ何レモ職權ヲ行使スルノ自由ヲ失ヒタルニ依リ凡
ユル一切ノ決議及命令ハ完全ニ無效トスルコト

(二) 中央黨務機關ハ改組スル迄一時之ヲ解散スルコト

(三) 各級地方黨部及特別黨部ハ改組スル迄一時其ノ活動ヲ停
止セシムルコト

(四) 國民黨總章ヲ修正シテ總裁制ヲ廢シ中央執行委員會主席
一人ヲ設ケ總章第四章所定ノ總理ノ職權ヲ代行セシムル
コト

(五) 第五期中央執行委員、同候補委員、中央監察委員及同候
補委員ハ本期大會ニ於テ重任ヲ認ムル外中央執行委員三
十八人、同候補委員二十人、中央監察委員二十六人、同
候補委員十六人ヲ新ニ選出スルコト

(六) 重慶其ノ他共產黨跋扈ノ各地ニ滞在シアル中央執行監察
委員及候補委員ニ對シ速ニ上海ニ參集シ國事ヲ協議スル
様電請スルコト

(七) 中央各委員參集以前ニ在リテハ中央ノ各種會議ハ實際上
行動ノ自由アリテ確實ニ參會シ得ル者ノ過半數ヲ以テ法
定人員數ト爲スコト

(八) 中央黨務機關各地方黨部及各特別黨部ハ中央執行委員會

ニ於テ責ヲ負ヒ改組シ速ニ工作ヲ恢復スルコト
次テ代表八十余人ノ提出セル左記ノ臨時動議二件ヲ上提決
議ヲ見タリ

(一) 汪副總裁ハ和平ヲ提唱シ凡ユル困難ヲ排シテ奮闘シ國家
ノ危急ヲ挽回シ國民ノ苦痛ヲ救済セルニ付敬意ヲ表スル
爲主席團及全体代表起立ノ上汪副總裁ニ向ツテ敬禮スル
コト

(二) 黨務整理案ノ決議ニ依リ汪兆銘同志ヲ中央執行委員會主
席ニ推薦スルコト

右臨時動議ハ滿場一致ヲ以テ通過セルカ當時全代表萬雷ノ
如キ拍手ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ

同日午後第二次大會ヲ開キ汪主席大會ノ主席トナリ左記ノ
如キ重要ナル提案ヲ附議シ其ノ決議ヲ見タリ

(一) 本黨政綱修正案

(二) 反共ヲ以テ本黨基本政策ト爲スノ案

(三) 中日關係ヲ根本的ニ調整シ速ニ國交ヲ恢復スルノ案

(四) 中央執行委員會主席ニ授權シ中央執行委員ヲ指名シテ黨
外ノ人士ト共同シ中央政治委員會ヲ組織セシムル案

(五) 速ニ國民大會ヲ召集シ憲政ヲ實施スル案

次テ三十日午前第三次大會ヲ開催シ中央執行委員ヲ選舉シ
且本期大會ノ宣言ヲ決議シ午後閉會式ヲ舉ケタルカ何レモ
汪主席會議ヲ主宰シ同午後四時無事閉會ヲ告ケタリ

今後國民黨ハ其ノ歴史的使命ニ基キ更始一新全國人民ヲ領
導シテ和平建國ノ運動ニ邁進シ本大會決定ノ方針ニ副ヒ
着々之カ實現ヲ圖リ以テ前途ノ光明ヲ開拓セムトスルモノ
ナリ。



484

昭和14年9月2日

在上海三浦総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

國際情勢の激変後も立場は不変との決意を表
明した汪兆銘通電の内容について

上海 9月2日後発

本省 9月2日夜着

第二四七八號

汪精衛ハ獨蘇不可侵條約締結ト國際情勢ノ激變竝ニ我内閣
ノ更迭ニ基キ兎角ノ風説アルニ對シ自己ノ立場ト決意ヲ表
明スル爲一日内外各同志宛通電ヲ發シタルカ右ニ依レハ國
際情勢如何ニ拘ラス六全大會ニ於ケル宣言及重要決議ヲ

着々實行ニ移シツツアルコトヲ力説シ獨蘇不可侵條約締結ニ依リ人民戰線派及共產系分子ノ主張セル侵略、不侵略兩戰線對立說ハ全然根據ヲ失ヒ其ノ所論ハ支離滅裂ナリト駁シ國內ニ於ケル反共ト國際的防共ハ同一物ニアラス況ヤ吾人ハ三民主義的中華民國ノ建設ヲ企圖スル以上共產思想ハ最モ排撃スル所ナリト論シ更ニ重慶方面ニ於ケル多數同志ノ苦衷ニ同情ヲ表スルト共ニ前戰各武裝同志力和平反共建國ノ主張ヲ揚クレハ其ノ現有兵力ト未タ失ハサル土地トヲ保持シ得ヘク又外ハ吾人ノ和平運動ト呼應シ内ハ獨裁勢力ト共產勢力ノ沒落ヲ促進スルニ於テハ其ノ力極メテ甚大ナリトテ重慶側同志ノ執ルヘキ方法ヲ明示シ且汪自身六月東京ニ赴キ平沼前首相ト會談シタル其ノ内容ヲ引用シ内閣ノ更迭アルモ日本ノ事變處理政策力確固不動ナルコトヲ強調シ志ヲ同シウスル各黨、各派、無黨、無派ノ一致團結ヲ促シ居レリ

北京、南京、漢口、厦門、廣東、河内、新嘉坡、「バタビヤ」馬尼刺へ轉電シ、香港へ暗送セリ

485

昭和14年9月4日

在上海三浦總領事より
阿部外務大臣宛(電報)

臨時・維新兩政府および各党派の参加による

中央政治委員会の組織を汪兆銘計画について

上海 9月4日後発

本省 9月4日夜着

第二四九六號(極秘)

汪精衛ハ國民黨全國代表大會終了セルヲ以テ愈々臨時維新兩政府及各黨派ニ呼ビ掛ケ中央政府ノ樹立工作ニ進ムヘク先ツ來ル十日頃當地ニ於テ國民黨中央執監委員ヲ開催シ同委員ニ中央政治委員會組織條令ヲ附議シ同條令ニ於テ國民黨以外ノ各黨派及社會的ニ名望アル者ヲ参加セシメ中央政治委員會ヲ組織スヘキ旨規定シ國民黨トシテノ中央政治委員會開催ノ法的根據ヲ作ル豫定ナリ右終リテ臨時維新兩政府等既成政權ニ對シ其ノ協力ヲ求ムル聲明ヲ發スル豫定ナリ(本件發表セサル様願度シ)

北京、各總領事、香港へ轉電セリ

486

昭和14年9月5日

在上海三浦総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

中央政治委員会条例案の取扱いにつき注例と

協議について

付記 昭和十四年九月五日

「汪精衛、梁鴻志會談要領」

上海 9月5日後発

本省 9月5日後着

第二五一一號(極秘、館長符號扱、大至急)

四日⁽¹⁾竹内側ヨリ明五日一中全會(中央執監全体會議)ヲ開催
シ國民黨ヨリ中央政治委員會ニ出席スヘキ者ヲ決定スル筈
ナルカ之ヲ爲ニハ中央政治委員會條令ヲ先決スル要アリト
ナシ同條令ヲモ一中全會ニ於テ決定スヘキ趣ヲ以テ條令草
案ヲ内示セリ

元來同條令ハ從來ノ法治的考察ヨリスレハ一應尤モナルモ
今次中央政治委員會ハ中央政府樹立ヲ準備スル臨時的性質
ヲ有シ且既成政權及各黨各派ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘキモ
ノナルヲ以テ從來ノ委員會條令ヲ以テ律シ得ヘキモノニア
ラストノ我方見解ヲ主張シ双方研究ノ結果左ノ如ク一應妥

協點ヲ發見セリ

二⁽²⁾明五日ノ一中全會ニ於テハ全ク骨抜キノ會議トナシ

(一)中央政治委員會組織條例ノ内容決定ニ關シテハ汪精衛

ニ一任ノコト

(二)本條例ハ汪精衛批准ヲ以テ決定シ同日發動ノコト

ノ二項ヲ決定スルコトトス

三、王克敏及梁鴻志等ニ對シ今次ノ中央政治會議ハ六月十六
日決定ノ「時局收拾ノ具體的辦法」第四ノ第二項ヲ協議
スヘキコト且國民黨、既成政權各黨各派ニ依リ構成スヘ
キコト等ノ了解ヲ求ム(梁トハ九月五日夜會見、克敏ト
ハ多分十七、八日頃)

三、恆久的ナル中央政治委員會條例ハ別ニ克敏、鴻志等ト協
議決定ス其ノ一案トシテ汪精衛作成ス

四、支那側ノ準備遲延セル爲開會前ニ御意見ヲ徴シ得サリシ
ハ恐縮ニ堪エス御異見アラハ週及シテ修正セシムヘキニ
付至急御回示アリタシ關係書類郵送ス
北京、南京、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

(付記)

汪精衛、梁鴻志會談要領

昭和十四年九月五日 自午后九時至同十時半

於上海梁鴻志宅

(汪精衛ノ影佐少將ニ語リタル所ニ依ル)

今次汪、梁會談ハ兩者共從前ニ比シ比較的詳細ニ亘リ意見ヲ開陳スル所アリタリ 其ノ要旨左ノ如シ

一、中央政治委員會開催ノ目的及方法ニ就テ

中央政治委員會開催ノ方法ニ關シテハ既ニ梁ハ充分ナル豫備智識ヲ有シ汪ノ提示セル中央政治委員會組織條例案ニ對シテモ梁ハ特ニ異存ヲ挿マス唯同案中ニ於ケル「中央委員ヲ指定ス」ナル字句ヲ少シク鄭重ニ「中央委員ヲ延請ス」ノ程度ニ改メテハ如何ト示唆シタルニ止マレリ中央政治委員會ニ於テ議スヘキ具体的内容ニ關シテハ之ヲ他日ニ譲リ其ノ席上ニテハ話サマリキ

二、臨時、維新兩政府ノ功績表明ニ關スル件

汪ヨリ過日發表セル第六次國民黨全國代表大會宣言ニ於テ臨時、維新兩政府ノ過去ノ功績ヲ讃ヘ且將來ノ協力ヲ要請スル點ニ觸レアラサリシヲ以テ適時汪派ニ於テ右趣旨ノ意志ヲ表明スヘキ「メツセーヂ」ヲ發出スルノ意圖

アルヲ明ニシ其ノ内容ニ付要點ヲ説明セシ處梁ハ異存ナキ旨言明セリ

三、人事問題ニ就テ

汪、中央政權樹立ニ伴フ人事問題ハ未タ決定シ居ラス又現在未タ決定ノ時機ニ非スト思考ス

將來王克敏、梁鴻志兩氏トモ相談ノ上決定致度處貴下ニ於テ何等カノ意見アラハ承知致度

梁、人事ニ關シテハ自分ニ關スル限り毫モ心配ノ要ナシ自分ハ祕書ニナレト言ハル、ナラハ祕書タルモ敢テ辭セス 貴下ノ胸中ハ自分ニハ充分諒解シ得ルモ貴下ノ周圍ニハ自分ニ對シ快カラス思フ人々モ有之ヤ 二聞キ居レリ

四、新中央政府ニ對スル日本側ノ態度ニ關シ

(註)汪曰ク 本件ハ梁モ極祕ヲ以テ語リタルモノト認ムルヲ以テ自分カ他言スルハ適當ナラサルモ貴下(影佐少將)ニ對シテハ同志トシテ特ニ貴下限りニ於テ報告スル次第ナリ

梁、自分カ嘗テ上京セル際日本ノ政府方面ハ種々ノ問題ヲ承諾スヘキ言質ヲ與ヘタルモ出先軍部ニ於テハ必

スシモ其ノ通實行セス日本ハ内ト外トノ意見カ一致
セス又軍部内ニ於テモ大佐以上ト同以下ニ於テハ意
見ノ隔リカアル様考ヘラル

從テ新中央政府ニ對スル日本ノ態度モ東京ノ要路カ
如何ナル考ヲ持チ居ルトモ之カ出先ニ於テ果シテ實
行シ得ルヤ否ヤニ就テハ確信ナシ

汪、自分ハ杉山大將、山田中將、及川長官及安藤中將ト
モ篤ト懇談ノ機會ヲ得タルモ孰レモ充分政府ノ方針
ヲ體得シ居ラル、様思ヘリ

梁、軍司令官位ハ克ク諒解シ居ラル、ナランモ實際問題
トシテ軍司令官ハ屢交代ス

變ラサルハ下僚ナリ

(註) 汪曰ク

日本ハ少壯將校カ實權ヲ把握シ上長ハ傀儡タルニ過
キストノ考ハ蔣介石、張群等モ同様ニ之ヲ有シタリ
自分(汪)ハ南京時代及漢口時代ヲ通シ蔣、張ノ斯ノ
種認識^(識カ)ニ對シ次ノ如ク考ヘ且應酬シ來レリ即「少壯
者カ意見ヲ主張スル氣力ヲ有シ且之ニ對シ意見開陳
ノ機會ヲ與フルコトハ畢竟政治ノ進歩ナリ 支那ノ

如キハ實質の少壯者カ居ラサル爲ニ自分ハ行政院長
ノ職ニ在リナカラ事務官ノ仕事迄モ行ハサルヲ得サ
ル實情ナリ

蔣介石亦自ラ定メ而シテ自ラ之ヲ實施シ敢テ少壯者
ノ意見ヲ聽カス又確信ヲ以テ意見ヲ上達スル少壯者
モ無シ

斯ノ如キハ蔣ヲシテ獨斷遂ニ今日ノ窮狀ニ陥ラシメ
タル最大原因ナルヘシ」ト右意見ヲ梁ニ對シテモ同
様説明シタルモ彼ハ余リ同意セサリシカ如シ

汪、然ラハ貴下ハ何故今日迄南京政府ノ首領タルノ地位
ヲ保持シ來レルヤ

梁、自分ハ南京ニ在リテ別ニ仕事ハ爲シ居ラス靜觀シア
ルニ過キス(トテ苦笑ス)

(註) 汪曰ク

右ハ決シテ梁カ自分(汪)ノ中央政府建設工作ヲ中傷
センカ爲ノ惡意ニ基クモノニ非サルコトハ其ノ悲痛
ナル面持ニテ明ニ看取シ得タリ 梁ノ觀測ニテハ中
央政府ハ建設スルモ將來大ナル活躍ハ望ミ得サルヘ
シトノ所見ナリ

汪、然ラハ貴下ノ意見ハ矢張り蔣介石ヲ引出ス方可ナリ
トノ意味ナリヤ

梁、貴下ハ日本カ孔祥熙等ヲ通シ蔣ト連絡シアルヲ知ラ
スヤ

汪、其レハ聞カサルニ非サルモ蔣ハ結局決心シ得ス 又
決心シ得サルカ故ニ遂ニ自分カ蹶起セサルヲ得サル
ニ至レルモノナリ

日本カ自分ヲ弄フカ如キ意圖ヲモ毛頭有セサルヘキ
ハ自分カ東京ニ行キ各方面ト意見ヲ交換セシ所ニ依
リ確信シ得ルモノニシテ右確信ノ下ニ本工作ヲ進メ
ツツアル次第ナリ

487

昭和14年9月5日 在上海三浦総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

中央党部の人事等に関する中央執監全体会議
決定について

上海 9月5日後発
本省 9月5日夜着

第二五二二號(館長符號扱)

往電第二五一一號ニ關シ

「六中全會ハ豫定ノ如ク本日午前約二時間半ニ亘リ開催セ
ラレ黨内部ノ組織及宣傳其ノ他ニ關シ協議決定ノ上散會
セリ

中央黨部機關竝ニ役員左ノ如シ
祕書長褚民誼、組織部長梅思平、宣傳部長陶季成、社會
部長丁默村、

三、中央政治委員會組織條例ニ關シテハ冒頭電報ノ通り汪精
衛ニ一任ノコトニ決定セリ

北京、南京、漢口、廣東、香港ヘ轉電セリ

488

昭和14年9月12日 在上海三浦総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

中央政治委員會の組織に向けて臨時・維新両
政府および各党派の結束を呼びかける汪兆銘
声明案について

上海 9月12日後発
本省 9月12日夜着

第二六二三號(極祕)

往電第二四九六號末段ニ關シ

汪ハ愈中央政府委員會組織ノ爲臨時維新其ノ他各黨派ニ向ツテ聯絡ヲ開始シタルカ來ル十七、八日頃大要「維新臨時各政府從來ノ苦心ヲ稱揚シ國民黨六全大會ニ於テ國民黨ハ全國有志ノ士ト聯合シ派別ヲ分タス協同シテ時局收拾ノ責任ヲ負擔スヘキ旨宣言シ尙自分ハ同大會ヨリ國內賢達ノ士ノ參加ヲ懇請シテ中央政府委員會ヲ組織スヘキ權限ヲ授ケラレ王、梁兩先生ト時局收拾ニ關シ協議シタル結果完全ナル援助ヲ得タルヲ以テ今後相共々ニ力ヲ盡シテ和平ノ實現ト憲政ノ實施トニ邁進シ得ヘキコトヲ欣快トス」ル趣旨ノ聲明ヲ發シ次回聯合委員會開催ノ機會ニ南京ニ於テ汪、梁ト會見シ最後ノ打合ヲ遂クル豫定ナリ

尙右聲明案(矢野領事ヨリ土田一課長宛郵報濟)ハ目下兩政府ニ内示中ニシテ兩政府ニ於テモ聯合委員會閉會後之ニ響應スル聲明ヲ發スル段取トナリ居レリ

在支各總領事、香港へ轉電セリ



489

昭和14年9月19日 閣議諒解

「支那中央政權樹立準備對策二關スル事務處理要領」

付記

昭和十四年九月五日着津田(靜枝)華中連絡部長官より柳川(平助)興亜院総務長官宛上海發電第四七八号

汪兆銘に対するわが方要求を明確化する必要につき意見具申

支那中央政權樹立準備對策二關スル事務處理要領

昭和十四年九月十六日

連絡委員會申合

昭和十四年九月十九日

閣議諒解

一、支那中央政權樹立準備諸對策ノ審議立案ハ連絡委員會ニ於テ之ヲ行フモノトス

二、支那中央政權樹立準備ニ關スル諸對策ニ付テハ先ツ興亜院、外務、大藏、陸軍及海軍四省ノ主任者ニ於テ協議ノ上其要綱案ヲ作成シ充分現地トモ連絡ヲ遂ケタル上之ヲ連絡委員會ニ提出スルモノトス

之カ爲興亜院、外、藏、陸、海四省主任者ハ各其ノ研究

ニナル原案其他參考資料ヲ相互ニ通報シ以テ要綱案ノ作成ヲ促進スルモノトス

三、連絡委員會ニ於テ前項要綱案ニ付キ審議決定シタル上ハ主管事項ニ付キ當該主官廳ニ於テ閣議請議等適當ノ措置ヲ講シ之ヲ實施ニ移スモノトス

(付記)

上海發電第四七八號

汪ガ中央政府樹立ノ爲諸準備ヲ完了シ愈々日本ト協議シテ期日ヲ決定スル運ビトナル場合日本トシテハ漫然政府樹立ヲ承認シ得ザルベク中支ニ於ケル既成事實繼承ノ問題其ノ他成立後日支關係調整上條約又ハ協定等ナスベキ事項ニ對シ豫メ確約又ハ諒解ヲ求メ置クコト緊要ト思考シ之ガ具体案ニ關シ目下研究中、然シテ本件處理ニ關シテハ相當ノ困難性ヲ豫想スル次第ニシテ現下ノ國際情勢ト之ガ今次時局ニ及ボス影響等ヲモ考慮ニ入レ帝國政府トシテハ此ノ際汪^(希案カ)側ニ起用スベキ最後の明確ナル限度竝ニ腹ヲ極メ置クコト必要ト信ズ

(欄外記入)

之ガ發展シテ(政務部長ガ原動力)十六日ノ連絡委員會申合トナレリ

490

昭和14年9月21日

在南京堀(公一)総領事より
阿部外務大臣宛(電報)

汪兆銘・王克敏・梁鴻志による三巨頭會談の概要について

付記一 昭和十四年九月二十一日付

「三巨頭會議決定事項」

二 昭和十四年九月二十四日、太田(二郎)書記官

口述

「三巨頭會談ニ關スル備忘録」

三 昭和十四年九月二十六日、太田書記官作成

三巨頭會談の空氣を踏まえた華北の特殊化問題等に対する意見

南京 9月21日後発
本省 9月21日夜着

第二〇七號(極祕、館長符號扱)

竹内⁽¹⁾ハ十八日夕當地着翌十九日ヨリ今廿一日午前二至ル迄連日王克敏、梁鴻志ト會談ヲ遂ケタルカ其ノ要旨左ノ通り、會談ノ中心題目トナリシハ中央政治委員會ノ組織問題ニシテ先ツ竹内ヨリ國民黨ニ於テ起案セシ同委員會組織條例ヲ示シ右條例ニ基キ臨時、維新兩政府ヨリ各三名宛ノ代表ノ派遣ヲ求メ右委員會ヲ組織シタク旨要請シタルニ對シ王、梁兩名ヨリ恆久的的政治指導機關トシテノ中央政府委員會ノ組織ハ之ヲ政府設立後ニ譲リ新中央政府ノ組織ヲ準備スル機關トシテハ右條例ト別個ニ臨時的ノ中央政治會議ヲ開クコトトシ汪派ノ國民黨及臨時、維新兩政府ノ代表者等聯合シテ之ヲ組織スルヲ可トスル旨提案シ種々論議ヲ闘カハシタルカ二十一日朝ニ至リ之カ組織辦法ハ改メテ竹内ニ於テ起案スルコトニ打合セタリ

三、次ニ中央政府會議^{會議}ノ人員割當ハ最モ議論トナリタル問題ニシテ初メ竹内ノ意見ニテハ總人員ノ三分ノ一ヲ國民黨ニ、三分ノ一ヲ既成政權ニ、残り三分ノ一ヲ各黨、各派、無黨、無派ニ割當テントスルモノナリシニ對シ王、梁兩名ハ三分ノ一ヲ國民黨ニ、三分ノ一ヲ臨時政府ニ、三分ノ一ヲ維新政府ニ割當ツヘシト主張シ兩者容易ニ相讓ラ

サリシカ今朝最後ノ會談ニ於テ折衷案トシテ三分ノ一ヲ國民黨ニ、三分ノ一ヲ臨時、維新兩政府ニ、他ノ三分ノ一ヲ其ノ他ノ既成政權及各黨、各派、無黨、無派ニ割當ツルコトニ落着キタルカ其ノ代リ王克敏ハ中央政治會議ノ議事ハ四分ノ三ノ表決ヲ以テ可決トスヘキコトヲ要求シ結局重要議案ニ關シテハ右王ノ希望ヲ容レ竹内ニ於テ議事細則ヲ起案シ改メテ三者協議ノ上之ヲ決定スルコトニ打合セタリ

三、其ノ他三者ノ會談中竹内ヨリ將來中央政府組織ノ場合兩政府ヨリ各四名位宛院長又ハ部長トシテ參加セラレタキ旨人名等ヲ舉ケ試案トシテ申出テタルカ王、梁兩人トモ考慮ヲ約シテ確答ヲ留保セリ其ノ際王克敏ハ北支ニ於テハ臨時政府解消後特殊ノ機關ヲ設クル必要アルニ鑑ミ其ノ方面ニ於ケル人員ノ配置ト照ラシ合セ考慮スル必要アリト述ヘタル趣ナリ

四、以上ノ如ク三者ノ會談ハ未タ最後の決定ヲ見ルニ至ラサリシモ原則的ニハ略々意見ノ一致ヲ見今後ハ之ニ關スル細目ノ打合ヲ爲スコトトナリタルヲ以テ竹内ハ二十一日午後上海ニ歸還セリ依テ竹内ノ兩政府ニ對スル聲明ハ二

十一日午後上海ニ於テ之ヲ發表シ臨時、維新兩政府ハ二十三日夫々之ニ對應スル聲明ヲ發表スルコトニ打合せタリ

五、三者ノ會談ハ終始他人ヲ交ヘスシテ行ハレタルカ二十日晚ニ至ルモ中央政治會議ノ問題容易ニ結着セサリシヲ以テ二十一日午前ハ特ニ影佐、鈴木、喜多、原田四名立會ノ上會談ヲ試ミ影佐ニ於テ議事ノ進行ヲ計リタル結果前記ノ如キ決定ニ漕付ケタル次第ナリ
在支各總領事、香港ヘ轉電セリ

(付記一)

三巨頭會議決定事項

九月二十一日 於聚星俱樂部

一、先ツ中央政治會議ヲ開催シ政府樹立ノ籌備ニ當ル

中央政治會議ノ要項ハ汪精衛提出ノ四ヶ條ヲ基礎トシテ修文ス

二、政府樹立後ハ中央政治委員會ヲ設ケ議政ニ當ル

中央政治委員會ハ汪精衛ノ準備セル條例ヲ原案トシ王克敏、梁鴻志ハ中央政治會議ニ於テ其ノ無修正通過ニ努ム

三、中央政治會議員配當ハ其ノ^一ヲ國民黨ニ^一ヲ臨時及維新政府ニ殘餘ノ^一ヲ蒙疆政府其他ノ各黨各派無黨無派ニ分ツ

四、中央政治會議ニ於ケル議決法ハ事ノ重要ナルモノハ全員一致又ハ^二/_三以上ノ可決ヲ以テ、事ノ輕キモノハ^一/_二以上ノ可決ヲ以テ決定ス其ノ細部ハ議事規則ニ於テ之ヲ定ム

五、中央政治會議ニ於テ議セラルヘキ事項ハ政府ノ名稱、首都ノ位置、國旗問題等極メテ重要事項ナルヲ以テ豫メ事前二十分ナル協定ヲ爲シ會議ニ於テハ全員一致通過シ得ル如ク努ム

六、以上ノ外猶談スヘキ事項アルモ後日再ヒ三巨頭相會シテ議スヘキ機會及場所ヲ求ムルモノトス

七、本日ノ會議ニ於テ盡ク圓滿ニ一致點ニ達シ得サリシモ相當ノ收獲アリシヲ以テ汪精衛側及兩政府ニ於ケル聲明ハ之ヲ行フ

八、右聲明ノ豫定日時左ノ如シ

汪精衛聲明 九月二十一日午後四時 於上海

聯合委員會決議文 九月二十二日式典前 於南京

臨時、維新兩政府聲明 九月二十四日中 於北京及南京

(付記二)

三巨頭會談ニ關スル備忘録

(九月二十四日太田書記官口述)

第一、

北支方面軍ニ於テハ汪兆銘工作ニ關スル從來ノ經緯ニ介意スルコトナク殆ト獨立政權トモ云フヘキ北支自治政權案ヲ中央ニ具申シ又小生ニ對シ出來得レハ南京ニ於ケル汪王會談ニ際シ王ヨリ北支特殊化ノ問題ヲ持出サシムル様指導アリ度旨希望アリタルカ右ニ對シテハ南京へ出發前、九月十五日軍務局長ヨリ參謀副長宛ニ「日支新關係調整方針竝ニ六月十六日附中國ノ提出セル時局收拾ニ關スル具體的辦法及日本側意見ニ基キ目下具體的事項ヲ研究中ニ就キ汪、王會談ニ於テハ既定方針ノ範圍内ニ於テ話合フコトトシ具體的事項ニハ餘リ深入リセサル様指導アリ度」旨電報アリ、軍ニ於テモ納得セルカ一方臨時政府ノ對應聲明案ニ關シテハ方面軍ヨリ北支ノ特殊化ヲ唱ヘヌ位ナラ臨時政府名義トセス聯合委員會ノ名ニ於テ極クアツサリシタモノヲ出ス方可ナル旨ノ意見ヲ申越セリ。

第二、

十七日午前十時特別飛行機ニテ、西郊飛行場發南京ニ出發ス。同行者、支那側王克敏、王揖唐、朱深、張祕書、財政局長李桓(從來ヨリ國民黨ト密接ナル關係アリ先般ノ第六次國民黨全國代表大會ニモ出席セリ)日本側太田書記官。午后一時南京飛行場ニ到着、支那側ハ直ニ頤和路ノ維新政府招待處ニ入ル、小生ハ同日午后三時先發トシテ上海ヨリ南京ニ到着セル桑原調査官ト聯合委員會ノ議題ニ關シタ刻迄打合ヲナス

第三、

十八日ハ午前中、汪兆銘、王克敏會見、午后ハ汪兆銘、王克敏、梁鴻志、三者會談ノ豫定ナリシモ、天候ノ都合ニテ汪ノ飛行機來タラス、汪ハ漸ク午后八時半ニ至リ、汽車ニテ南京ニ到着セリ、之カ爲汪兆銘トノ會談ハ行ハレス、王克敏ハ行政院ニ梁鴻志ヲ訪問シ挨拶ヲ爲セリ

十八日午前高橋大佐ヲ四課ニ訪問、十九日午前九時卅分王克敏ノ軍司令官訪問、同十時聚星俱樂部ニ於テ汪兆銘ト會談、午后一時東亞俱樂部ニ於ケル梁鴻志ノ招宴ニ出席、會食後午後六時頃迄三巨頭會談、午后七時軍司令官三巨頭ヲ招待等ノ事ニ就キ打合ヲ爲ス。尙其際高橋大佐ノ内話要旨

左ノ通り

「支那派遣軍總司令部ハ現在ノ中支軍司令部事務所ニ移リ來ル事トナリ居リ、自分ト谷萩大佐ハ上海ノ第十三軍參謀トシテ、近ク赴任ノ豫定ナリ。兩人ノ仕事ハ新任今井大佐ニ於テ擔當スル筈、總司令部ハ西尾總司令官、板垣總參謀長以下何レモ熱心ナル汪工作支持者ナルヲ以テ、今後ハ汪工作ノ進展ハ都合良ク行クモノト思ハル、總司令部ノ下ニハ(一)北支方面軍(二)上海軍(三)漢口軍(四)南支派遣軍ノ四本ノ足ヲ出シ、北支方面軍ノ下ニハ更ニ駐蒙軍、山東軍、山西軍ノ三本ノ足ヲ出ス事トナリ、總司令部ハ北支方面軍ヲ又同方面軍ヲ通シテ間接ニハ駐蒙軍ヲ指揮シ得ルヲ以テ汪中心ノ中央政府樹立工作ハ甘ク行クモノト思ハル」

第四、

十九日ノ行事

(一)十九日午前中聯合委員會事務所ニ於テ、顧問室岡田大佐、興亞院仰附事務官田中中佐、桑原調查官等ト聯合委員會ノ議題、決議、二十二日祝典ノ次第(祝辭讀上ケノ順序等ニ就キ種々機微ナル問題發生スルノ虞アリタル爲、祝辭ハ華中及ヒ華北連絡部長官ノミ讀上ケ、軍司令官、第

三艦隊長官、加藤公使等ノ分ハ別ニ讀上ケス、只書物ヲ提出スルノミトセリ)、新聞記者ニ對スル發表振等ニ就キ打合ヲ爲ス、

(二)午后四時卅分郊外ノ軍用飛行場ニ喜多長官、樋口第二部長、影佐少將(晴氣、岡田兩少佐隨行)等ヲ出迎フ。其ノ際喜多長官ノ談話要領

「豫テ意見具申ノ張群呼寄問題ニ就テハ柳川長官、鈴木部長、影佐等ト隔意ナキ意見ヲ交換シタリ、本院トシテモ別ニ蔣介石カ日本ト共ニ反共ノ共同戰線ニ立テハ、之ト手ヲ握ルト言フ趣旨テハナク、專ラ重慶切崩工作ニ重キヲ置クモノナル事判明シ、影佐機關及ヒ汪兆銘ノ心配モ薄ラキタルヲ以テ、此問題ニ關シテハ汪兆銘ト王克敏トノ間ニ充分打合ヲ爲サシメタル後、彼等兩名ノ意見ニ依ツテ、招致ノ可否ヲ決定スル事トセリ。

尙中央政府權樹立問題ト最モ密切ノ關係アル中央ト地方トノ權限ノ問題、殊ニ北支特殊化ノ問題ニ關シテハ、目下中央ニ於テ研究中ナルカ十月ノ十五日迄ニハ大体ノ方針ヲ決定ノ上、連絡部長官ヲ東京ニ招致シテ之ヲ指示シタル後、十月中ニハ右ニ基キ、三巨頭ノ間ニ意見ノ一致ヲ

見得ル様指導スル手筈トナリ居レリ」

(三)飛行場ヨリ直ニ山田軍司令官々邸ニ赴キ、司令官ニ敬意ヲ表ス十九日朝來實行中ノ三巨頭會談ノ模様及ヒ右ニ對スル對策ニ就キ同處ニテ打合ヲ爲ス。(出席者山田軍司令官、鈴木參謀副長、樋口第二部長、喜多中將、影佐少將、高橋、谷萩、兩大佐、太田書記官)

影佐少將「張群ノ問題ニ關シ、汪兆銘側ニ疑惑アリ、打合ノ爲上京シタルカ喜多閣下ノ御話ニヨリ華北側ノ意見モ判明セルヲ以テ、此問題ハ汪、王兩氏ヲシテ決定セシムル事トセリ、上京中各方面ノ意見ヲ質シ又阿部總理トモ會見セルカ中央トシテハ飽迄汪工作ヲ支持スルノ方針ニシテ、現ニ阿部總理ハ必要ノ場合自ラ上海ニ赴キ日本側ノ意ノ存スル所ヲ傳ヘテ汪ヲ激勵スルモ可ナリト言ハレタリ」

樋口第二部長「自分ハ今影佐ノ報告セル所ヲ裏書スル爲、中央ノ使者トシテ來寧セル譯ニテ「スチュウワート」ノ如キハ嘘付ノ常習犯ナリ、今ニ至リテ汪ヲ無視スルカ如キ事アリテハ日本ノ武士道カスタル。此ノ日本ノ氣持ヲ善ク知ツテ居ル筈ノ汪兆銘カ今頃ニナリテ、日本カ蔣介

石ト手ヲ握ルヤモ知レストノ疑惑ヲ懷クカ如キハ寧口心外ノ至ト自分ハ考ヘ居レリ。今ヨリ三ヶ月位前迄ハ參謀本部第一部ニハ蔣介石ト直接手ヲ握ル事カ時局收拾ノ妙案ナリトノ意見ヲ有スル者モアリタルカ今日ハ左様ナ不开心得ノ者ナシ、蔣介石ト手ヲ握ルカ如キ事アリテハ輿論カ承知セス」

續イテ鈴木參謀副長ノ命ニ依リ谷萩大佐ハ大要左ノ如キ報告ヲ爲ス

「梁鴻志ノ報告ニ依レハ昨日王梁會見ノ際王克敏ハ今同ノ三巨頭會談ニ際シテハ北支ノ權限等ニ關シ、何モ言フナト言フ事ヲ喜多長官ヨリ命セラレ居レリトテ、態度極メテ消極のナルノミナラス梁鴻志ノ得タル印象ニ依レハ、王克敏ハ蔣介石ニ相當重キヲ置キ居ルモノノ如ク、現ニ汪兆銘ニ使者ヲ派シ蔣介石ハ歐洲ノ情勢ニ鑑ミ、日本トノ提携ヲ希望シ居レリ、日本側モ亦國際情勢ノ變化ニ依リ從來ノ對支方針ニ多少ノ變更ヲ加ヘントノ考ヲ有スル旨傳ヘタル趣ナリ、王克敏ノ態度右ノ如ク消極のニシテ本日午前中汪兆銘トノ會談ニ際シテモ何等積極の意見ヲ述ヘサル爲、折角ノ三巨頭會談モ充分意志ノ疎通ヲ見ル

ヲ得サル狀態ナリトノ事ナリ」

鈴木參謀副長「情勢右ノ通りナル處三巨頭ハ目下東亞俱樂部ニ於テ會談中ニテ、午后六時ニ終了ノ豫定ナルヲ以テ、暫ク三人ヲ俱樂部ニ留置キ、樋口第二部長ヨリ汪支持ニ關スル中央ノ方針ヲ三巨頭ニ傳フルト共ニ喜多中將及ヒ原田最高顧問ヨリ王克敏梁鴻志ニ對シ此際汪兆銘ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ爲スヤウ話サレテハ如何」

右ニ對シ喜多長官ハ「自分ハ別ニ王克敏ニ緘口令ヲ布イテ居ル譯ニ非ス、三巨頭ヲ集メ樋口部長ヨリ申渡ヲ爲サルル事ハ梁鴻志等ノ報告ヲ其儘事實ト假定シタル議論ニテ、王克敏カ果シテ今迄ニ如何ナル話ヲ汪兆銘ト爲シタルカハ自分ニ於テ直接王克敏ニ確メミルヘシ。其ノ結果ニ依リ適當ノ處置ヲ取ルモ遲カラス」トノ意見ヲ述ヘタルカ結局、喜多、原田、影佐ニ於テ六時頃ヨリ夫々王、梁、汪ニ會見ノ上情報ヲ持寄り、七時半軍司令官ノ招宴前三巨頭ヲ別室ニ集メ、影佐ヨリ喜多、樋口、原田立會ノ上、中央ノ意向ヲ三人ニ傳ヘ折角ノ機會ナレハ此ノ際三巨頭ニ於テ充分意見ヲ交換シ、成果ヲ得ル様取計ハレ度旨勧告スル事ニ打合セタリ、

(四) 右ニ基キ喜多長官ニ隨行、六時過、王克敏ヲ訪問ス

王克敏ノ談話要領

「本日午前ノ會談ニ於テ汪兆銘氏ハ先ツ先般上京ノ際平沼總理以下五相及ヒ近衛總理ト會談セル結果竝ニ汪ヲ中心トスル中央政權樹立工作ニ對スル日本側ノ方針、意見等ヲ詳細書キ物ニシタルモノヲ取出シ其ノ内容ニ關シ正式ニ説明セラレタルガ汪兆銘氏ハ如何ニモ萬事日本政府ヨリ委サレテ居ルモノノ如ク非常ニ自信アル風ナリキ、續イテ重慶政權內部ノ模様ニ就テ話ヲ切出シ來タレルカ自分ノ得タル印象ニ依レハ汪兆銘ト蔣介石ハ絶体ニ合作出來ス、張群ノ呼出シ問題モ望ミナシト思ハレタリ、尙汪兆銘氏ヨリ中央政治委員會組織條令草案ナルモノ、内示ヲ受ケ(別紙甲號參照)其ノ第三條ニ規定シアル委員ノ事ニ關シ、臨時政府ヨリモ委員ヲ出サレタキ旨依頼アリ、又汪兆銘側ニ於テ作成ノ華北政務委員會暫行組織條令大綱草案(別紙乙號)ヲモ示サレタルカ自分ハ別ニ意見ヲ述べズ。晝食後梁鴻志モ加ハリ三人ニテ會談セルカ、汪兆銘ヨリ中央政治委員會委員トシテ、臨時維新兩政府ヨリ各々三名、即チ現在聯合委員會ノ委員タルモノ六名ヲ標

準トシテ委員ヲ派遣セシメラレ度旨希望アリ右ニ對シ梁鴻志ハ中央政治委員會組織條令ニ依レハ中央委員會ノ委員ハ二十四名乃至卅名トナリ居ルニ既成政權側ヨリタツタ六名ヲ出ス事ハ四分ノ一ノ議決權ヲ有スルノミナリトノ意見ヲ述ヘタルニ對シ汪兆銘ハ、然ラハ各々一名宛増シ八名ニスルモ可ナリト答ヘタリ、尙梁鴻志ヨリ右條令第三條ノ二ニアル合法ノ政黨幹部人員トハ如何ナル政黨ナリヤト質問セルニ、汪兆銘ハ、夫レハ今ノ所國家社會黨、國家青年黨ノ二ツナリト答ヘ、梁ヨリ然ラハ第三條ノ一ニアル國民黨ヨリハ何人入レル豫定ナリヤト執拗ニ質問セルニ對シ、汪兆銘ハ言ヲ濁シテ答ヘズ。自分(王)ハ別ニ意見ヲ述ヘサリシカ梁鴻志ハ第三條ノ規定ニハ臨時、維新兩政府ハ一ツノ單位トナリ居ラス單ニ社會上重望ノ人士トシテ出席スル事ニ對シ不滿ヲ有スルカ如キ口吻ナリキ、尙梁鴻志ハ自分ニ對シ右條令ノ第七條ニ關シテモ異存アル旨ヲ漏シ居タルカ、汪兆銘ニ對シテハ此ノ點別ニ申出ズ」

(五)午後七時ヨリ開催ノ豫定ナリシ軍司令官ノ招宴ハ前記ノ通り三巨頭ノ別室ニ於ケル會談ノ爲、結局八時過ニ至リ

開宴セラレタリ。三巨頭及ヒ其隨行者、日本側指導關係者等約四十名出席セルカ「デザートコース」ニ於ケル山田軍司令官ノ挨拶ハ汪先生汪先生ト汪ヲ持上ケタルモノニテ、小生ノ如ク北支ヨリ出席セルモノハ王克敏等ノ心中ヲ察シ感慨ナキ能ハス、

(六)食後原田、影佐兩少將ニ對シ汪殊ニ其ノ部下ノ若僧共ノ王、梁兩名ニ對スル遣方ハ余リニ押付カマシク感心出來ス殊ニ中央政治委員會條例、華北委員會組織大綱等ハ北支ニアル極ク少數ノ汪支持者中ノ一人タル小生テサヘ頗負セル位ナリトテ注意ヲ喚起ス。原田少將曰ク「汪ニ萬幅ノ支援ヲ與フル様今日迄折角維新政府ヲ指導シ梁等モ其ノ氣ニナリツツアルニ、アンナ遣口テハ自分ノ立場モ愈々苦シクナレリ、國民黨作成ノ政治委員會案ハ自分モ不贊成ナリ」影佐曰ク「ソレタカラ三巨頭ノ會議ヲスルノダ、汪指導者タル俺ハ飽迄國民黨本意テ行クヨリ仕方カナイ北支ノ者ハ北支ノコトヲ主張スレハヨイ。喜多中將カ王ニ何モ言ハセヌノハ宜敷クナイ」云々

第五、

二十日ノ行事

(一) 東亞俱樂部ニ於ケル午餐後、喜多、原田、影佐氏等ト別室ニ於テ會談ス。小生ヨリ影佐少將ニ對シ「昨十九日汪兆銘カ王克敏ニ交附セル中央政治委員會組織條令第三條ノ如キハ從來ノ經緯ヲ無視セルモノニテ之テハ全ク國民黨丈テ中央政府ヲ樹立セントスルモノナリ、又華北政務委員會組織大綱ノ如キモ北支方面軍ノ考ヘトハ全ク相違シテ居ル萬一斯如キ國民黨ノ言分カ北支方面軍ニ漏レルカ如キ事アリテハ汪工作反對ノ空氣ヲ一層増大セシムヘシ」ト言ヘルニ影佐ハ「アレハ國民黨限ノ案テアル。臨時、維新兩政府ニ於テ國民黨ノ案ニ異存カアレハドシトシ言ツテ貰ヒタイ夫レカ爲ニ三巨頭ノ會談ヲ爲シ居ルナリ、聞ク所ニ依ルト北支テハ王克敏ニ何モ言フナト言ツテ居ルソウタカ夫レハ特殊化ノ問題丈テ中央政治會議ノ構成ニ付テハ遠慮ナク言ヘハ良イテハナイカ」ト答ヘタルヲ以テ小生ハ「アンナ減茶ナ案ヲ汪兆銘ヨリ出サシテ置イテ夫レニ對シテ王克敏ヨリ勝手ナ事ヲ言ハセヤウト言ツテモ日本側ノ肚力決ツテ居ナイ以上甚タ無理テアル北支ノ特殊性ニ關スル日本側ノ意見カ具體的ニ決ツテ居ラス然モ北支ニ相當強イ自治政權ヲ樹立セントスル空氣

ノアルコトヲ吹込マレテ居ル王克敏トシテハ汪兆銘ノ案ニ對シ何モ言ハレナイノハ當然テアル、次ニ中央政治會議ヲ拔ニシ、イキナリ中央政治委員會ノ案ヲ出セルハ甚タ不都合テアル、先ツ國民黨、既成政權、各黨、各派カ平等ノ立場ニ立ツテ中央政府樹立ノコトヲ討議スル政府樹立發起人會トモ言フヘキ中央政治會議ノ事ヲ相談スルノカ順序テアル」ト言ヘルニ影佐少將ハ「實ハ汪兆銘ノ提出セル中央政治委員會組織條令ハ自分モ余リヒドイト思ツタノテ右ニ關スル臨時辦法(別紙丙號參照)ヲ作成セシメ書面ヲ以テ之ヲ王、梁二見セル様指導シテ置イタノカ十九日ノ會談テハ手違カラ書物ヲ見セナカツタ(口頭テハ話シタ筈)次第テアルカラ本日ノ會議ニハハツキリト紙ニ書イタ臨時辦法ヲ出サセル事ニシタ」ト答ヘタリ(影佐ノ小生ニ對スル苦情ハ實ハ喜多長官ニ言ツテ居ルモノナルコト小生ニハヨク分レリ)

(二) 午后三時長官ト共ニ招待處ニ王克敏ヲ訪問ス本日ノ汪、王會談ニ對シ王克敏ノ語レル要旨左ノ通り
先ツ昨日ノ御話モアリ誤解ヲ一掃スル爲、十九日ノ夜遅ク潘郵政局長ヲ招致シ國際情勢ニ伴フ日本政府ノ態度變

更等余計ナ事ヲ言ツタカドウカ確メタル處潘ノ語ル所ニ依レハ汪兆銘ト潘トノ會見ハ僅カ十數分ニシテ其間潘ハ、自分(王)ヨリ汪兆銘ニ傳達方ヲ命シタル二點、即チ(1)蒋介石ハ汪兆銘トハ絶体ニ合作出來ヌ事(2)日本側トハ妥協ノ用意アルニ付キ王克敏ニ於テ斡旋セラレタキ事、竝ニ日支合作ニ付キ王克敏ノ意見ヲ求メ來タレル事ノ二點タケヲ話シ夫レ以外ノ事ハ一切言ハス、右ニ對シ汪兆銘ハ重慶脱出ノ苦心會仲鳴遭難ノ模様等ヲ話シ、翌朝再ヒ汪兆銘ニ呼ハレタルモ右以外ノ事ハ何等言及セサリシトノ事ナリキ。本日自分(王)ハ汪兆銘ニ會フヤ「潘局長ハ貴下ニドンナ話ヲセリヤ」ト質問シタルニ汪兆銘ハ前記二項ノ點タケヲ話シタリト答ヘタルヲ以テ更ニ自分ヨリ歐洲ノ形勢竝ニ右ニ伴フ日本政府ノ態度變更等ニ關シ潘カ何等カ話シタリヤト聞キタルニ、汪兆銘ハ潘ハ何モ言ハサリキト答ヘタリ。仍ツテ自分ハ潘カ余計ナ事ヲ言ハス又汪兆銘自身ニ於テモ別ニ自分ト蒋介石トノ關係ヲ疑ツテ居ラナイト言フ事ヲ影佐少將ニ序ノ時ニ話シテ置イテ吳レト依頼セルニ汪兆銘ハ之ハ承諾セリ

中央政治委員會ノ組織ニ關シ本日ハ汪兆銘氏ヨリ「部下

ト相談ノ結果第一回ハ國民黨許リテナク既成政權、各黨、各派ノモノト一緒ニナツテ相談スル事、竝ニ中央政治委員會ノ目的トシテ和平ヲ恢復シ憲政ノ準備ヲスルト言フ意味ヲ入レタイ」ト言フ事ヲ自發的ニ申出タリ。尙既成政權ヨリ入レルヘキ人選ニ關シテハ既成政權ノ主腦者カ夫レ夫レ之ヲ決定スル事ト致シタイト話サレタルカ自分ハ右ニ對シ何等意見ヲ述ヘナカツタ、右會談ノ最中梁鴻志カ入ツテ來テ原田少將ト相談ノ結果ナリトテ中央政治委員會ノ組織改正ニ關シ書物ニ認メタルモノヲ披露セリ、之ニ對シ汪兆銘ハ自分ノ方ニモ書物ニシタモノアリトテ、梁鴻志ニ夫レヲ見セタルニ梁鴻志ハ之ナラ異存ナカルヘシトテ汪兆銘提出ノ臨時辦法案ヲ持チ歸リ今夜九時半ヨリ更ニ右構成ノ問題ニ付キ三巨頭ノ會談ヲ爲ス事ニ打合セタリ

午餐ノ爲梁鴻志ト同道、行政院ニ赴ク途中梁鴻志ハ「汪兆銘ハ中央政府ヲ組織スル爲國民黨、既成政權、各黨、各派カ集ツテ首都、政府ノ名稱、國旗等ヲ討議スルコトトナツテ居ル中央政治會議ノ問題ト中央政府ノ設立後、中國政治ノ最高機關ニシテ且ツ永久的ナル組織ヲ有スル

中央政治委員會ノ問題トヲ混同シテ居レルニ付キ自分(梁)ヨリ此點ニ關シ意見ヲ申述ヘル積リナリ」ト語レリ次ニ中央政府ノ人事問題ニ關シ汪兆銘ハ聯合委員會ノ委員タル王揖唐、及ヒ朱深ヲ希望セルヲ以テ自分ハ何レ兩人ノ意向ヲ確カメタル上、回答スヘキ旨答ヘ置ケリ、尙汪兆銘ヨリ後ノ一人ハ湯爾和カ王蔭泰ニ御願ヒシタイトノ話アリタルヲ以テ之亦本人ニ聞イテカラト答ヘ置ケリ、梁鴻志ヨリ閣員ノ顏觸ニ付テハ既存兩政府ニ提供セラルヘキ地位ヲ書上ケ其地位ヲ充當スヘキ人名丈ヲ空白ニシテ名簿トシテ提出セラレレハ臨時維新兩政府間ニ於テ相談ノ上意見ヲ申上クル事トスヘシト言ヘルニ汪兆銘ハ夫レハ困ルオ互ニ相談シテ決メヤウト答ヘタリ。

人事問題ニ付テ汪兆銘ヨリ自分ノ意見ヲ求メタルヲ以テ北支ノ特殊化ノ程度即チ北支ニ設ケラルヘキ委員會ノ組織カ決定シ現在ノ臨時政府ノ誰カ残り誰カ出ルカノ見込カ付カナケレハ申上ケ惡イ又北支特殊化ノ内容カ決定セサル以上中央ニ出ル人モ出惡イ事ト思ハル尙又他ノ閣員トノ振合及ヒ自分ノ部下トナルヘキ人ハ誰々ト言フ事ニ關シテモ大体ノ見透カ付カナクテハ中央ニ乗出スヘキ本

人トシテモ誠ニ來惡クカルヘシト言ヘルニ汪兆銘ハ早速五院及十部ヲ系統表ニシテ示サレタリ

行政院長ニ關シテハ言フ迄モナキ事ニ付キ誰モ發言セス汪兆銘ヨリ五院長ノ中、二院長ハ缺員トシテ置キタシト言ヘルニ對シ梁鴻志ハ夫レハ可怪シイト質問セルニ、汪ハ戴天仇及居正ノ兩名ヲ豫想シ居ル旨答ヘタリ、梁鴻志ヨリ右兩名ノ名前ヲ發表スルヤト言ヘルニ、汪兆銘ハ發表スル積リナリト言ヘリ、自分(王)ハ夫レハ却テ迷惑タラウト言ヘルニ汪ハ差支ナシ尙院長ノ下ニ副院長ヲ置キ代理セシムヘキヲ以テ事實上ニ於テモ困ラヌト言ハレタリ

右ニ對シ梁鴻志ハ戴天仇、居正ハ重慶テモ重要ノ地位ニアル人ナレハ若シ兩名ノ氏名ヲ發表シ之ニ對シ兩名カ左様ノ職ニハ就カヌト反對ノ聲明ヲ出シタ場合ニハ貴下ノ立場ハ困ルヘシト反問セルニ汪兆銘ハ答ヘス

話ハ何時ノ間ニカ司法院長ノ地位ニ移リ汪兆銘ヨリ梁鴻志ニ就任方申出タルヲ以テ梁ハ私ハ構ハヌ溫宗堯氏ヲ頼ムト言ヘルニ對シ汪兆銘ハ然ラハ重慶ヨリ豫想シ居ルニツノ院長ノ内監察院ヲ溫サンニ依頼致シマセウ、尤モ監

察院長ハ人ヲ彈劾スル職務ニテ、人ノ惡口ヲ言フハお互ニ都合ノ惡キ物ナレハ副院長ノ人選ハ自分ニ於テナスヘシト言ヒ、暫ク考ヘテカラ王揖唐氏ニオ願セント言ヘルニ就キ自分ハ王揖唐サンハ議長ニモナリ又總長モ何遍モヤツタ人ニテ、過去ノ政治的經歷カラ見テ、溫宗堯氏ノ下ニ副院長トナル事ハ面白カラスト言ヘルニ汪兆銘ハ然ラハ王揖唐サンハ進士ノ出身デモアリ、考試院長ニシヤウト答ヘタリ。其處テ殘リノ椅子ハ立法院長ノミトナレルカ此問題ニ付テハ汪兆銘氏ハ何等觸レス

次ニ部長ノ地位ニ付テ梁鴻志ヨリ外交部長ハ誰ニスル積リナリヤト質問セル處汪兆銘ハ陳公博ハ日本語モ出來、英語モ出來、伊太利ノ事情ニモ通シテ居ルノミナラス郭泰祺、胡適、顧維鈞等共昵懇ノ間柄ナルニ付最モ適任ト思フト答ヘタルヲ以テ我々兩名ハ默ツテ居タリ

梁氏ヨリ内政部長ハ重要ナル地位ナリト言ヘルニ汪兆銘ハ然リト言フノミニテ人名ヲ言ハス、梁鴻志ヨリ財政部長モ重要ナル役ナリト言ヘルニ汪兆銘ハ周佛海ヲ豫定シ居レリト言ヘルヲ以テ我等兩名ハ結構テスト答ヘタリ軍政部長ニ關シ汪兆銘ハ當分發表セス、但次長トシテ南

カラ楊揆一（何成濬ノ子分）、北方ヨリハ劉郁芬、鮑文樾、楊棋山（河北省長ニ擬セラレタルコトアリ）ノ三人中ヨリ一人ヲ拔擢シ政務次長ヲシテ部長ヲ代理セシムル積ナリト言ヘルカ二人ノ次長中何人ヲ政務次長ニスルカニ付テハ言及セス、右ニ對シ自分ハ現在軍隊ヲ引卒シテ居ル人ハ異動セス方カ可ナリ、段々代ヘル方カ得策ナリト言ヘルニ汪兆銘ハ成程尤モノ意見ナリト言ヒ居タリ

汪兆銘ハ實業部ハ大事ナ仕事ナレハ今後ハ農礦部ト商工部ノ二部ニ分ケテ陳群及ヒ王蔭泰ヲシテ何レカニ振當テル事トシ度シ又鐵道、交通ハ從來ニ部ニ分カレ居タルカ別ニ重要ナル仕事モナケレハ交通部トシテ一部ニ取纏メタシト述ヘタルモ部長ノ名前ニ付テハ言ハス

司法行政部ハ司法院ニ屬シタルモ今後行政院ニ屬スル事トシ朱深氏ニオ願ヒシタイト言ハレタレハ本人ニ聞イテ見ルヘシト答ヘ置キタリ

次ニ湯爾和ノ地位ニ關シ汪兆銘ヨリ湯サンハ現在議政委員會ノ委員長ナレハ院長ニナツテ貫ヒ度キモ、元來議政委員長タルモノカ教育部長ヲ兼任スルハ法理上如何カト存ス、夫レ故若シ湯爾和氏カ教育部長タケテ我慢シテ吳

レルナラハ中央政府ノ教育部長ヲ與フル事トセント言ヘリ(從來ノ國民政府ニハ海軍部アリシモ今回ノ政府ニハ差當リ之ヲ設ケサル由)

軍事參議院長ハ湯薌銘、又別ニ憲政籌備會ヲ設ケ、部長ノ人選ニ漏レタル有力ナル人士ヲ招聘シ度尙又軍事委員會ハ今後ノ狀況ニ應シ決定スル事ニ致シタシト言ヒ、更ニ任援道氏ニ軍區司令官ニナツテ貰フ積リナリ、但シ軍區ノ構成及範圍等ニ付テハ未タ決定シ居ラスト言ハレタリ、其際齊燮元ノ地位ニ付テモ話出テタルカ決定ヲ見ス尙汪兆銘氏ハ蒙自治政府ハ之ヲ撤廢シ、西藏ハ中央ノ把握ヲ強化シ、何レモ內政部ニ於テ之ヲ管轄スル積リナリト言ヘリ

汪兆銘氏ノ聲明案ニ對スル既成政權ノ對應聲明案ヲ示シタルニ二、三字句ノ修正ヲ除キ(中華民國臨時政府ノ中華民國ナル四字ヲ削除方申出タリ)汪兆銘氏ハ異存ナキ旨答ヘタリ

北支ノ問題、特ニ北支特殊化ノ内容、北支ニ設置セラルヘキ委員會ノ權限問題ニ付テハ自分(王)ニ於テモ充分研究スヘキモ貴下(汪)ノ方ヨリモ連絡者ヲ派遣シ良ク關係

當局ノ意向ヲ確カメラルル事カ賢明ナラント言ヘルニ汪兆銘ハ自分モソウ思ツテ居ルト言ハレタリ

(三)右王ノ報告終ツテ喜多長官トノ間ニ意見ノ交換ヲ爲ス、大要左ノ通り

長官 中央政治委員會組織臨時辦法ニ關シテハ汪兆銘案ニテ異存ナキヤ

王 別ニ異存ナシ、梁鴻志ハ中央政治委員會組織條令第七條ニ關シ異議アル旨昨日述ヘ居タルカ直接汪兆銘ニ對シテハ何モ意見ヲ述ヘサリキ、朱深氏モ第七條ニ關シ主席ノ權限カ強過キルトノ意見ナリシカ自分ヨリハ汪兆銘ニ對シ何モ意見ヲ述ヘサリキ、委員長トシテ自分從來ノ經驗ニ依レハ緊急ノ事項モアリ得ル事ナレハ本條項ヲ惡用シサヘシナケレハ良イト思フ主席ノ權限ヲ制限スル様ナ趣旨ヲ成文化スル事ハ仲々困難ナリ

長官 汪兆銘ハ國民黨ノ主席トシテノ立場ノミヨリ色々ノ事ヲ言ツテ居ルノテアルカラ既成政權トシテモ異論ノアル點ハドシドシ言ツテ戴キタシ

王 昨日汪ト會見ノ際ニハ中央政權樹立後辭職シタキ旨ヲ申入レ置キタルカ閣下ノ御注意モアリ今日ハ何モ言ハサ

リキ。罷メル等ト言ヘハ如何ニモ汪兆銘ニ反對スルカ如ク解セラレルノ虞アレハナリ

長官 北支ハ何ト言ツテモ中央ノ麾下ニ屬スル形トナリ、日本トシテハ飽ク迄一黨專制ヲ排シ、各黨各派ヲ打ツテ一丸トナス中央政府ヲ樹立シタキ考ヘナレハ何卒北支ヨリハ貴下始メ有力ナ人々カ個人ヲ犠牲ニシテ中央ニ入ルヤウセラレタシ

王 王揖唐、王蔭泰、朱深ノ三人ノ内一、兩名ハ入ルヘシ、斯如キ有力ナル人物カ中央ニ來テ何モ出來ヌト言フナラ自分カ行ツテモ駄目ナリ

長官 貴下カ中心トナリ有力ナル閣僚ヲ卒ヒテ一致協力シテ中央政府ニ入り、シツカリヤツテ貰ヒタシ、北支ノ特殊性ニ關シテハ貴委員長ハ二年間モ現地ニ居ラレタルヲ以テ一番良ク知ツテ居ラレル譯ナリ。中央政府ニ入りテ國民黨ヲ押ヘ、各黨、各派ノ政治ヲヤル爲ニハ是非委員長ノ如キ内外ニ信望アル人ノ出馬カ肝要ナリ。中央政府樹立ノ此ノ際カ一番大切ノ時ナレハ、例ヘ半年後罷メルニシテモ此際ハ是非中央ニ入ラレタシ、中央及ヒ地方ノ權限ニ付テハ、日本側ニ於テモ充分研究ノ上十月中旬ニ

ハ決定スル事ト存スルモ日本側ト關係ナク中國側丈テ北支ノ權限ヲ話サレテハ如何

王 極ク卒直ニ申上ケレハ自分ハ支那人ナレハ支那人トシテ、中央政府ノ權限カ強クナリ、北支ニモ及フ事ハ支那人トシテ當然希望スル所テアル、汪兆銘ノ報告ニ依レハ此問題ニ關シテハ東京テ充分話サレ、日本トノ間ニ諒解カアリ、已ニ汪氏ニ於テ一案カアルト言フ事ナレハ、自分カ、ハ、何モ意見ヲ言フヲ得ス、

長官 北支ハ國防上、經濟上強度ノ結合地帶タルヲ必要トス。殊ニ作戰行動繼續中ハ何ト言ツテモ讓レヌ點カアル、黃郛及冀察政權ノ當時北支ニ關シ日本側カ如何ナル要求ヲ持ツテ居ツタカハ貴委員長カ一番良ク知ツテ居ラルル筈ナリ、汪兆銘氏ニハ北支ノ機微ナル點カ良ク分ラヌト思ハレル

王 華北政務委員會暫行組織條令草案ハ汪兆銘氏ノ案ニテ右ニ對シテハ日本側カラモ案ヲ出シテ戴キタイ、サスレハ自分ハ其間ニ入ツテ斡旋盡力致スヘシ、自分ニ案ヲ出セト言ハレテモ夫レハ無理ナリ、自分ハ北支ノ事ハ良ク知ツテ居ルカラ日本側ニ案カアルナラ二度ト不幸ナ事件

ノ起ラサル様又中央ト北支ノ巧ク行クヤウ盡力シテ見ルヘシ。之カ爲ニハ先ツ日本側内部ニ於テ中央ト地方トノ權限ニ關シ肚ヲハツキリサレル事カ肝要ナリ

(四)二十日午后七時卅分東亞俱樂部ニ於ケル津田長官ノ招宴席上、喜多長官ハ影佐少將ニ對シ「本日三巨頭會談ノ模様ハ王克敏ヨリ詳細聽取セルカ自分ハ豫ネテ王克敏ニ對シ中央政府ノ財政部長ニハ貴下ヲ措キテ他ニ適任者ナキニ付キ是非共中央ニ入ラレタキ旨懇請シ來レルカ今日汪兆銘ノ申出ニ依レハ財政部長ハ國民黨ヨリ採ル事トナレル趣ニテ、今日迄王克敏ニ說得シ來タレル所ト齟齬ヲ來タセリ」ト言ヘルニ、

影佐少將ハ「汪兆銘ハ王克敏ヲ華北政務委員會ノ委員長ニスル積テアリ又本日ノ會談ニ於テ汪兆銘ヨリ華北政務委員會委員長ノ地位ハ五院ノ院長ト同格ナリトノ趣旨ヲ説明シタル筈ナリ」ト言ヘルヲ以テ後刻長官ヨリ此點ニ關シ更ニ王克敏ニ確カメタルニ、王克敏ハ「左様ナ話モアリタリ」ト言ヘリ。仍ツテ長官ハ王克敏ニ對シ「華北政務委員長ノ地位カ五院ノ院長ト同格トスルナラハ貴下ハ是非トモ委員長トシテ北支ニ殘リ其下ニ貴下ノ働キ良

イヤウナ機構及ヒ人物ヲ配置シ、從來兎角ノ噂カアル異分子ハ此際部長トシテ南京ニ出シ北支ヲシツカリ固メテハ如何」ト言ヘルニ王克敏ハ「現在ノ臨時政府ニハ別ニ異分子ナシ」トテ委員長留任ニ對シハツキリシタル態度ヲ示サズ

(五)二十日午后十時過ヨリ中央政治委員會ノ問題ヲ切離シ中央政治會議ノ構成ニ關シ三巨頭間ニ意見ヲ鬭カハセタルカ既成政權ヨリ選出スヘキ振當ニ關シ、結局意見ノ一致ヲ見ズ、汪兆銘ハ出發ヲ延ハシ明二十一日更ニ會談ヲ續ケル事トナレリ

第六、

二十一日ノ行事

(一)三巨頭ノミニテハ埒アカサルヲ以テ午前九時三十分聚星俱樂部ニ於テ三巨頭ノ他ニ更ニ喜多、原田、楠本ノ三名ヲ加ハハ政治會議及政治委員會ノ問題ニ關シ討議ヲ重ネタリ、右會議ノ模様ニ關シ後刻長官ノ語レル所大要次ノ如シ

先ツ中央政治會議ヲ開催シ政府樹立後ニ中央政治委員會ヲ設クルコトトシ政治會議ノ構成ニ關シ梁鴻志ヨリ委員

ハ(イ)國民黨(ロ)臨時政府(ハ)維新政府ヲ各々一單位トナスヘシトノ案ヲ提出シタルニ對シ汪兆銘ハ(イ)國民黨(ロ)蒙疆政府及各黨各派(ハ)既成政權ヲ各一單位トセン事ヲ主張シ意見一致セス。仍ツテ王克敏ハ單位ハ(イ)國民黨(ロ)既成政權(ハ)其他トスルモ議決方法ニ關シテハ過半数ニ依ラス四分ノ三乃至全會一致ニ依ルヘシトノ折衷案ヲ提議シタルニ汪兆銘ハ此種會議ノ議決方法ハ何レノ國ニ於テモ過半数ヲ以テ決定スルカ定則ナリトテ折衷案ニ反對セルカ結局影佐ノ斡旋ニ依リ重要ナル議事ニ關シテハ出來得ル限り四分ノ三乃至全會一致ヲ見ル様主席ニ於テ豫メ手ヲ盡スヘク、議決方法ニ關シテハ別ニ汪側ニ於テ一案ヲ作成スル事トシ落着セルカ結局如何ナル問題ヲ以テ重要ナル事項ト看做スヘキカニ關シテハ矢張り問題ヲ將來ニ殘ス事トナレル譯ナリ(別紙丁號參照)。尙汪及其一黨ハ右會議後午後一時前上海ニ引上タリ

(二)陳群ノ談話トシテ楠本少將ノ語レル要旨左ノ通り

中央政府樹立ニ關スル日本政府ノ意向トシテ汪兆銘カ維新政府側ニ言ヒ觸ラシ居ル處ハ、豫ネテ既成政權カ日本側ト提携シテ今日迄ヤツテ來タ所ト全ク相反シ汪兆銘及

ヒ其一黨ハ完全ニ國民黨本位ノ中央政府ヲ樹立セント企圖シ居レリ、斯クテハ今日迄日本側ト提携シ來レル既成政府ハ何ノ爲ニ努力シ來タレルカ譯分ラス、汪兆銘ハ日本側トノ間ニ顧問ヲ入レヌ約束ヲシタト言ヒ居レルモ任援道ノ話ニ依レハ現在通り少クトモ十名位ノ顧問ヲ存置セサレハ綏靖部隊ハ動カストノ事ナリ、尙周佛海ハ自分ニ對シ暫ク内政部長ニ就職シ、已ニ汪兆銘側ト日本側トノ間ニ諒解成立シ居ル貳千萬圓ノ建設借款ヲ纏メテ吳レト言ヘルカ果シテ斯如キ借款カ成立スルヤ否ヤ疑ヒナキ能ハス、例ヘ成立スルトモ此金ハ國民黨ノ喰物トナルヘシ

(三)二十一日正午南京市長ノ招宴後、午後三時ヨリ維新政府ノ招待處ニ於テ第六次聯合委員會本會議ヲ開催セルカ議案及ヒ決議事項等ニ關シテハ既ニ日支双方事務當局ニ於テ充分打合セ済ミナルノミナラス各委員共中央政府樹立問題ニ没頭シ來レル爲殆ト熱意ナク會議ハ僅カ一時間ニシテ一瀉千里原案通り可決決定ヲ見タリ(汪側聲明ニ關シ中央政府委員會ノ構成功希望通り行カヌ位ナラ發表セスト汪ハ駄々ヲコネタルモ結局新聞ニ出タル通ノ形式ニ

テ三者ノ發表ヲナセリ)

(四)二十一日夕鮑觀澄長官ヲ來訪シ左ノ通り語レル趣ナリ。

曩ニ長官ト連絡ノ上重慶ニ赴ケル樊光ハ孔祥熙ノ家ニ一週間滞在シ、最近上海ニ歸リ來タレルカ樊ノ話ニ依レハ孔ハ喜多長官ニ對シ(1)支那ハ日本ト經濟合作ヲ爲ス事(2)抗日ヲ取消ス事(3)蔣介石ニ於テ責任ヲ以テ停戰ヲ命スヘキ事(4)政治上ノ問題ニ關シテハ別ニ相談スヘキ事(5)蔣介石下野ニ關スル問題ニ付テハ孔ヨリ直接話スヘキ事ノ五ヶ條ヲ重慶側ノ意向トシテ傳ヘラレ度尙孔ニ於テ是非共直接喜多閣下ニ面會シ度ニ就キ長官ノ意向ヲ確メラレ度旨依頼セル由ナリ尙自分(鮑)カ得タル消息ニ依レハ張群ハ已ニ香港ニ在リ、松井大將ト會談中ナリトノコトナリ。云々

第七、

二十二日ノ行事

(一)梁鴻志來談ノ内容

中央政治會議ノ構成單位ニ關シ二十日ノ晚原田少將ヨリ臨時及維新政府ヲ夫々一單位トスル顧問部ノ案ヲ維新政府ノ意見トシテ強ク主張スヘキ旨命令セラレタルモ若シ

自分カ此ノ點ヲ余リ強ク主張シ汪兆銘氏カ之ニ不賛成ヲ唱ヘルコトトモナラハ自分ニ於テ汪、工、作、破、壞、ノ、責、任、ヲ、負、ハ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、日、本、政、府、ノ、方、針、カ、汪、兆、銘、ノ、言、フ、通、リ、汪、兆、銘、絶、對、支、持、ト、言、フ、ナ、ラ、ハ、自、分、ト、シ、テ、ハ、余、リ、強、ク、主、張、ス、ル、譯、ニ、ハ、行、カ、ス、尙、構、成、分、子、ト、シ、テ、汪、ハ、各、黨、各、派、及、無、黨、無、派、ト、言、ヒ、居、ル、處、無、黨、無、派、ト、ハ、如、何、ナ、ル、モ、ノ、ナ、リ、ヤ、ト、質、問、セ、ル、ニ、汪、ハ、傍、ノ、「ボ、ー、イ」ヲ、指、サ、シ、彼、モ、亦、無、黨、無、派、ナ、リ、ト、言、ヘ、リ。維新政府ト汪兆銘トノ意見ノ相違ノ根本ハ國民黨ノ態度ハ自分カ總經理ニナツテ會社ヲ作ルカラ維新政府ハ一株持ツテヤツテ來イトノ態度ナリ。陳群ハ實業部ヲ農礦、商工ノ二ツニ分ケルコトハ絶對反對ナルヲ以テ其ノ點汪兆銘ニ話シタルニ然ラハ實業部ハ元通り一部トシテ陳群ニ提供セント言ヘルカ右ニ對シテモ陳ハ國民黨カ勝手ニ地位ヲ指定シテ椅子ニ付ケルハ不滿ナリト言ヒ居タリ。小サイナカラモ維新政府ハ一ツノ會社ナレハ其ノ會社ノ社長タル自分トシテハ單ニ自分ノ身ノ上ノコトノミナラス部下ノ身ノコトモ考ヘテヤラネハナラヌ譯ニテ自分ノ立場ハ非常ニ困難ナリ

(二)王克敏來談ノ要旨左ノ通り

二十一日ノ中華日報ニ於テ汪兆銘派ハ蒋介石ニ對シ暴露戰術ヲナシ居ルカ其ノ結果初メテ曩ニ「スチユワート」氏ノ紹介テ自分ヲ極祕裡ニ訪問シ蒋介石ノ意嚮ヲ傳ヘタル鄭悌ノ身分カ判明セリ、中華日報ニ依レハ鄭ハ實ハ曩ニ長沙ヲ燒却セル罪ニ依リ蒋介石ニ銃殺セラレタルコトトナリ居ル長沙ノ警備司令ナリ。之ニ依ツテ見ルモ若シ自分ヲ來訪セル鄭カ本物ナリトセハ蒋介石ハ無辜ノ人民ヲ替ヘ玉トシテ殺シテ居ルモノト思ハレル、鄭カ自分ヲ訪問シタルコトヲ何故ニ汪兆銘カ知ツテ居ルカト言フニ夫レハ先般汪兆銘カ北京ニ來レル時絕對他言無用ト言フ約束ノ下ニ自分カラ話シタモノテアルカ此ノ様ナ二人限リノ話ヲ暴露シテ重慶攻撃ノ材料ニスル汪兆銘最近ノ態度ハ全ク焦リ過キテ居ル。斯様ニ約束違反スル汪兆銘ニ對シテハ甚タ信用カ出來ヌ、之レカラハ祕密ノコトハ一切汪ニ話サレヌ汪兆銘ハ蒋介石ニ對シテハ作用サヘアレハ何事ニ付テモ手段ヲ選ハヌ人トナリ下ツテ居ル。此ノ點ハオ序テノ節ニ影佐少將ノ耳ニ入レテ置イテ戴キタシ。

尙此ノ問題カ汪兆銘ニ依リ暴露セラレタル爲重慶ニ對ス

ル切崩シ工作ニ關シ豫ネテ長官ニ御話シセルコトハ全部無駄トナレルヲ以テ張群問題ニ關シ先日長官ヨリ汪兆銘ト相談スル様オ話アリタルモ最近ノ汪兆銘ノ態度ニ鑑ミ實現絶望ナルノミナラス斯様ナ話ヲスルコトハ却テ汪兆銘派ノ誤解ヲ招キ、自分ノ心事ヲ疑ハレルノミナレハ張群ノコトハ一言モ言ハヌコトトセリ。中華日報ニ出タ爲鄭ヲ紹介シテ寄越シタ、「スチユワート」氏ニ對シテハ洵ニ相濟マヌ氣カスル。

次ニ中央政治委員會及中央政治會議ノ組織其他ニ關シ既成政權ヨリモ忌憚ナキ意見ヲ陳ヘヨトノコトナルカ梁鴻志ハ飽迄中央工作ニ對スル反對ノ責任ヲ臨時政府ニ轉嫁セムトノ作戦ヲトリ居リ、其ノ態度余リニ見エ過キ居ルニ付、自分ハ今回ノ三巨頭會談ニ於テ殆ント意見ヲ陳ヘサリキ。

長官ヨリ中央ニ入ルヘキ臨時政府側人物ノ諸否ノ見込ニ付王ノ忌憚ナキ意見ヲ求メタル處王揖唐及朱深兩氏ハ自分ヨリ確カメタルニ對シ中央ニハラスト申シ居ルカ王揖唐氏ハ嘗テ臨時政府ノ出來ル際ニモ北京ニ赴ク前夜曹汝霖氏ヲ訪問シ自分ハ絕對ニ臨時政府ニハラスト斷言セ

ルニモ拘ラス翌早朝ノ汽車ニテ北京ニ赴キ臨時政府ニ入りタルコトアリ此ノ人ノ眞意カ果シテ何處ニアルカハ自分ニモ判ラヌ朱深ハ極ク簡單ニ自分ハ入ラスト言ヘリ、王蔭泰ハ永ク上海ニ居住シ偶々上海ヨリ北京ニ遊ヒ來タレル際懇請シテ實業部長ニ就任シテ貰ヒタルモノナルカ或ハ汪兆銘ノ希望通りニ中央ニ入ルコトナルヤモ知リス、

先日高宗武來訪シ自分(高)ハ國民黨員ニアラサル爲汪兆銘ノ部下カラハ種々疑惑ヲカケラレ主要ナ問題ニ付テハ六分位シカ相談ニ預リ居ラス、上海ニ居レハ舊國民政府ノ者カ屢々自分ヲ來訪シ種々質問ヲナシ煩クテ困リ居ルヲ以テ是非北京ニ行キ度キニ付二十日間程經過シタル後自分ヲ電報ニテ北京ニ招聘シテ戴キタシト申出タルカ高宗武ハ直接テハナイカ蔣介石ト間接ニ關係カアルトノ評ナレハ歸京ノ上良ク考慮スル積ナリ尙吳震修氏ハ其ノ父及子供ヲ失ヘル爲一時殆ント氣狂ニナツテ居タカ最近ハ病氣モ癒リ目下上海ニ來テ居レリ。中央政府ニ入ラヌカト汪兆銘氏ヨリ話カアリタルモ斷リタル由ナレハ臨時政府ニ招寄セルコトハ恐ラク實現セサルヘシ」。云々

(三)臨時政府側聲明發表ノ都合モアリ午后四時海軍機ニテ南京ヲ出發セルモ逆風ノ爲北京着遅ルルノ惧アリタルヲ以テ青島ニ不時着、翌二十三日午后一時北京ニ歸還セリ、臨時政府ニ於テハ直ニ行政會議ヲ召集、十五名ノ委員聯名ニテ對應聲明ヲ發表セリ。

編 注 本備忘録の別紙は見当らない。

(付記三)

東京發電第一七〇六號^(見当ラス)ニ對スル私見

(九、三、太田書記官記)

一、南京ニ於ケル三巨頭會談ノ空氣ハ南京發次長宛電報ニ依リテモ大體御想像相成ル通り汪兆銘及其ノ一黨ノ既成政權ニ對スル態度ハ全ク國民黨本位ノモノニシテ十九日王克敏トノ第一回會談ニ當リテモ汪兆銘ハ先般上京ノ際日本側ヨリ取付ケタル所ナリトシテ日支新關係調整方針竝ニ六月十六日附「中國ノ提出セル時局收拾ニ關スル具體的辦法及日本側意見」等ニ記載セラレ居ル要領ヲ二十數ヶ條ノ書物ニ認メ之ヲ正式ニ王ニ説明シ汪ヲ中心トスル

中央政府樹立ニ關シ如何ニモ日本側ト諒解アリ、前途ノ工作ニ二分ノ自信ヲ有スルカ如キ態度ヲ示シタル由ニテ王克敏ノ内話ニ依レハ右書物ノ中ニハ政府ノ名稱、首都、國旗、顧問等ノ諸項(從來ノ王、梁指導要領ニ依レハ此等ノ點ハ餘リ説明セサルコト、成リ居レリ)ニ關シ正式ニハ王ニ於テサヘ知ラサル事項アリタル趣ニテ王ノ口吻ヨリ察スルニ王ハ日本側ハ王、梁ニハ知ラサ、ルコトヲモ汪ニハ約束シ居ルニ非サト疑ヒ居ルモノノ如シ(今後ハ汪ノ有スル丈ノ智識ハ既成政權當事者ニモ率直ニ話シ、ヨク諒解セシムルコト必要ナラン)

二、前記六月十六日附「日本側意見」ニ依レハ中央政府ノ名稱、首都等ハ既成政府及各黨各派ヲ網羅スル中央政治會議ニ於テ汪側ノ希望通り「決定ヲ見ルニ於テハ日本側トシテモ敢テ異議ナシ」ト云フコトニナリ居リ、各黨各派カ平等ノ地位ニ立チテ中央政府ノ樹立ヲ討議スヘキ中央政治會議ノ召集ハ中央政府ノ設立ト不可分ノ關係ニアルモノナルニ拘ラス、汪ハ十九日ノ會談ニ於テイキナリ中央政治委員會組織條例草案ヲ提示シ來レリ、右草案ニ依レハ中央政治委員會ハ全國政治ノ最高指導機關ニシテ

(第一條)其ノ主席ハ國民黨中央執行委員會主席ヲ以テ之ニ充ツルコト、ナリ居ルノミナラス(第二條)委員ノ構成ニ關シ既成政府ハ單ニ社會上重望ノ人士トシテ六名(梁鴻志ノ主張ニ依リ汪モ八名ニ増員方納得ス)即チ全員ノ五分ノ一乃至四分ノ一ヲ占ムルニ過キス、次ニ委員ハ主席ニ於テ「指定」シ得ルコト、ナリ居ル處構成三單位ノ中ニ單位全部ヲ汪カ勝手ニ指定スレハ之丈ニテモ三分ノ二ノ議決權ヲ國民黨ニ於テ獲得シ得ルコト、ナルヘシ(第三條)尙又第七條ニ關シテハ右ハ主席ノ權限ヲ餘リニ擴大スルモノナリトテ梁鴻志ハ干満^不意ヲ王克敏ニ洩シタル由ナルカ(汪ニハ結局言ハス)王ハ本規定ハ事實、緊急ノ問題起ル場合モアリ得ヘキヲ以テ主席カ本條項ヲ惡用サヘシナケレハ可ナルヘク、本規定ヲ制限スルカ如キ成文ヲ設クルコトハ事實上困難ナリトノ意見ヲ述ヘ居レリ

三、前記中央政治委員會組織條例草案ハ中央政治會議ヲ抜キニシ一足飛ニ中央政府樹立後ノ最高指導機關タル常設的機關ノ問題ニ移リタルモノニシテ右ニ關シテハ主トシテ維新政府側ヨリ強キ反對アリ之カ爲メ二十日汪兆銘ハ

「第一回中央政治委員會構成ノ實際の辦法」ナル對案ヲ出シ來レルモ右ハ依然トシテ常設の機關タル中央政治委員會ニ執着シ居ルモノト認メラル

四、影佐少將ハ汪兆銘ハ國民黨主席ナレハ國民黨本位ノ案ヲ出スハ當然ニテ、既成政權ハ勝手ニ既成政權本位ノ案ヲ出シ三者ヲシテ自由ナル討議ヲ爲サシメハ可ナリト言ハレタルカ汪ノ態度前述ノ通りナルニ加ヘ王梁ノ兩名ハ何レモ汪ト日本側トノ間ニ十分ノ諒解アリ從ツテ汪ヲ中心トスル中央政權樹立工作ヲ破壞セリトノ責任ヲ問ハレンコトヲ惧レ居ル爲假令心中平カナラサルモノアリトスルモ敢テ異論ヲ扶マサルノ態度ナルヤニ見受ケラレタリ之ヲ要スルニ中央政府樹立ノ際ノ根本問題タル北支ノ特殊化ヲ何ノ程度トスヘキヤノ問題ニ關シ日本側ノ肚ノ決マラサル限り三巨頭ヲシテ何度會談ヲ續ケシムルモ確タル成果ヲ得ルコト困難ナリトノ印象ヲ強ク受ケタリ

五、二十一日正午迄討論ノ結果、中央政治會議ノ構成單位及議決方法ニ關シ一應三者間ニ意見一致ヲ見タルカ如キモ「重要ナル事項」トハ如何ナル事項ナリヤ。(別紙參照)
問題ハ結局次回會議迄持越サレタルモノト言ハサルヘカ

ラス。

六、華北政務委員會暫行組織大綱草案ニ關シテハ先ツ何ヨリモ日本側ノ要望スル「國防上及經濟上日支間ノ緊密ナル結合地帶」ナル字句ノ意味ヲ一々具體の事項ニ就キ決定スルヲ要ス。

若シ日本側ノ最後的要求カ北支方面軍ノ中央宛具申ノ如キモノトセハ本草案ハ殆ト問題ニナラス假ニ一步ヲ讓リ日本側ノ最後ノ肚カ小生起草ノ「華北特政委員會」ノ程度ニ於テ我慢スルモノト假定スルモ本草案ハ(1)管轄區域(2)權限(3)財政收入(4)現狀維持(5)委員ノ人選等ニ關シ格段ノ相違アリ

汪ノ提出セル本草案ハ曩ニ汪カ行政院長兼外交部長タリシ當時何應欽ニ賦與セントスル六項目ノ權限ヨリモ更ニ縮小セラレタルモノト言ハサルヲ得ス

七、何レニセヨ右草案ニテハ北支ノ特殊化ニ關スル現地ノ希望ハ到底達成セラレス、又若シ右草案カ汪ノ諒解シ居ル日本政府側特殊化ノ内容ナクトセハ北支ノ出先機關力之以上強度ノ特殊化ヲ主張スルコトハ汪工作ノ防害トナルヘシ此ノ意味ニ於テモ北支ノ特殊化ノ具體の内容ヲ先ツ

日本側ニ於テシツカリ決定スルコト肝要ナリ王克敏ヲシテ先ツ北支ノ特殊化ヲ主張シ汪ニ當ラシメ見ルヘシトノ論ヲナスモノアル處二十日王克敏力長官ニ對シ「卒直ニ支那人トシテノ意見ヲ申上クルナラハ強力ナル中央政府カ出現シ北支及其ノ他ヲモシツカリト中央ノ把握下ニ收メ支那全體ヲ統一シ得ル様ニナルハ支那ニトリ誠ニ喜ハシキコトナリ」トノ趣旨ヲ述ヘタルハ此ノ間ノ真相ヲ肚露セルモノト云フヘシ(王ヲシテ華北政務委員會ノ權限擴大方ニ關シ汪ト積極的ナル交渉ヲナサシムル爲ニハ先ツ日本側ニ於テ最小限度ノ腹案ヲ定メ、右ノ範圍内ニ於テハ飽迄王ヲ支持シ汪兆銘ノ主張ヲ壓ヘルトノ肚ヲ決メサル限り王トシテモ面子上折衝ニハ乗出シ得ザルヘシ)其ノ他中央政治會議及中央政治委員會ニ於ケル決議事項及北支ヨリ派遣スヘキ中央政府幹部ノ顔觸乃至人數ノ如キモ北支ノ特殊化ノ實質的内容ニ關スル日本側ノ肚カ決マラサル限り支那人丈ニテ如何程會合スルモ效果少シト存ス結局突キツメテ言ヘハ問題ハ(1)汪ヲ中心トシテ支那ヲ薄ク廣ク取ルカ或ハ(2)王ヲ中心トシテ北支ヲ深く狭ク取ルカノ何レカ「事變ノ收拾」ニ有利ナリヤ、換言スレ

ハ汪兆銘及其ノ部下ノ對日認識^(識カ)、現在ノ如キ狀態ニアリテハ問題ノ解決ハ一ニ「汪ヲ中心トスル中央政府」ト「北支ノ特殊化」ノ兩者何レニ主點ヲ置クヘキカノ點ニ懸リ居ルモノト見ルヘキナリ。

~~~~~

491

昭和14年9月25日

在北京堀内大使館參事官より  
野村外務大臣宛(電報)

汪兆銘との合作に同意するも南京還都には反  
対との吳佩孚意向について

付記

昭和十四年十月七日付在上海三浦総領事より

土田東亞局第一課長宛書簡

汪兆銘・陳中孚會談要旨の送付

北京 9月25日後発

本省 9月25日夜着

第一〇七二號(極秘)

吳佩孚ハ其ノ出馬問題ニ關シ從來兎角明確ナル意思表示ヲ避ケツツアリタル處最近汪精衛トノ合作ニハ同意スルニ至リ又中央政府カ國民政府ノ名ヲ用ヒ主席ヲ選舉ニ依リ定ムルコトニモ敢テ反對シ居ラス唯南京ヲ首都トスルコトニ付

テハ未タ充分ノ贊意ヲ表セサル模様ナルカ右ニ關シ吳ノ側近者カ吳ノ眞意ヲ探リタル所ニ依レハ結局南京行ヲ不安ガリ北京ヲ離ルルコトヲ欲セサル結果ナルカ如ク之ヲ要スルニ吳ノ狙フ所ハ中央政府カ汪ヲ行政委員長トシ吳ニ軍事長官ノ椅子ヲ與ヘ實際ハ北京ニ常駐シ北支政權ノ首腦者（現在ノ王克敏ノ地位）タラシムルコトニ在ルモノノ如シ上海、天津、南京、香港ヘ轉電セリ

（付記）

（10月13日接受）

拜啓陳者竹内ト吳佩孚トノ合作ニ關シテハ其後陳中孚等ノ斡旋ニテ日接受之力實現ニ努力シツツアル次第ナル處吳佩孚方面ニ於テモ最近竹内ノ中央政權樹立工作漸ク具体化スルニ伴レ暫時從來ノ大總統又ハ政府主席ニナラントスルカ如キ要求ヲ引込メ新政權ニ對シテ協力セントスルノ傾向ニ變リツツアル模様ニテ八月末竹内ヨリ親書ヲ陳ニ託シ吳ニ手交セシメタル處其ノ結果陳ハ其ノ返書ヲ携ヘテ九月末歸滬シ北京ニ於ケル吳トノ會談ノ模様ヲ竹内ニ報告スル所アリタルカ其際ノ陳ト竹内ノ會談要旨別添送付スルニ付御査

收相成度此段申進候

昭和十四年十月七日

敬具

在上海

三浦總領事

東亞局第一課長殿

本信寫送付先 在北京參事官 南京 漢口 廣東

（別添）

陳中孚、汪精衛會談要旨

昭和十四年十月二日午前

（陳中孚報告ニ據ル）梅機關

吳佩孚ヨリ汪精衛宛ノ親書ヲ讀ミタル後

汪、今回ノ手紙ハ前回ノモノヨリモ懇切ナル所アリ貴下ハ

北京滞在月余ニ及ヒタルカ吳佩孚ノ氣持ハ如何ニナリ

シヤ

陳、自分ハ二週間ニテ歸ル豫定ナリシモ其ノ間各種ノ問題

アリテ遅延セリ

其ノ第一ハ國民政府ノ名稱ノ問題ニシテ吳ノ立場ヨリ

セハ武漢ニ敗レシ以來國民政府ニ入り居ラサル次第モ  
アリ(雜色)アリシ所ナルモ自分ヨリ汪派ノ國民政府名稱  
ニ固執スル所以ハ戰ニ敗レタルモ國未タ亡ヒサル現狀  
ニ於テ對內的考慮ニ基キ時局收拾上已ムヲ得ストスル  
點ヲ説明シ納得セシメタリ

汪、吳トシテハ寔ニ然ラン

陳、第二ノ問題ハ首都ノ位置ナルカ吳自身ハ北方人ニシテ  
南京、上海等ニ行キタルコトナシ從テ南方ヨリモ北方  
ノ方カ萬般ニ亘リ好都合ナリトシ首都ヲ北京ニ主張セ  
シモノナルカ之モ自分ヨリ吳自身南方ニ行カストモ敢  
テ支障ナカルヘキ事情ヲ説明シ諒解セシメタリ

第三ノ政府主席ノ問題ニ關シテハ吳トシテハ主席タラ  
ントスル主張ハ現在之ヲ取止メタルモ吳カ主席ヨリ任  
命セラルルコトハ困ルトノ意見ナルヲ以テ自分ヨリ汪  
ハ行政院長トナルヘキヲ以テ吳ハ軍事ニ關スル主席ト  
シテ立テハ可ナラスヤト説キタリ

汪、政府主席ハ林森ニ内定シアリ自分トシテハ林森來ラサ  
ル場合ハ其ノ代理トシテ古來ヨリノ代折代行ノ慣習  
(留守中其ノ下僚カ代印ヲ以テ職務ヲ執行スルモノニ

シテ副官程度ノ者主トシテ之ニ當リ職掌トシテハ輕キ  
モノナリ)ヲ適用シ一般政務ニ關シテハ行政院長、軍  
事ニ關シテハ軍事長官(吳)夫々之ニ當ルコトトセハ特  
ニ主席代行者ヲ設定セストモ可ナリト考ヘ居レリ

(陳追加ニヨル)

首都問題ニ關シテハ首都ヲ南京トシ陪都ヲ北京トセバ  
吳氏ノ意嚮ヲモ加味セル事トナリ好都合ナルヘシト考  
フ

曩ノ南京政府ハ西安ヲ以テ陪都トシ現在首都ヲ重慶ニ  
移シタル後モ陪都ハ西安ト爲シアリ 嘗テ清朝ノ北京  
政府ハ奉天ヲ陪都トセシ如ク陪都ノ制定ハ昔ヨリ行ハ  
レ居ルモノナリ

陳、吳ハ軍事ヲ管掌シ度キ意嚮ナルモ又一方ニ於テハ北支  
行政ヲモ擔當シ度キ希望ヲ有ス

然レドモ本問題ハ今日貴下(汪)ニ對シ要求スルモノニ  
ハ非ス

現在王克敏ガ其ノ位置ニアルヲ以テ之ヲ排除シテ代ラ  
ントスルモノニハ非ズ 唯吳ハ内心其ノ希望ヲ有スル  
ニ付愈軍事最高長官ノミニ就任ノコトニ決セバ自分ト



汪、  
シテハ北京ニ歸還ノ上説得スルノ要アリト考フルノミ  
克ク諒解セリ

吳ガ北方ニテ行政ヲ行フトセバ如何ナル抱負ニテ行ハ  
ントスルモノナリヤ

陳、  
吳ハ中央政府ノ下ニ政務委員會程度ノ氣持ヲ以テ當ラ  
ントスルモノニシテ中央政府トノ對立乃至ハ獨立等ノ  
事ハ考ヘ居ラズ

唯彼ノ希望ハ北ニ居リテ行ヒ易キ行政ノ局ニ當ラント  
スルニ在ルノミ 彼ハ嘗テ四川、湖北、湖南等ヲ統治  
スルニ當リ省外ノ人士ヲ充當シタルコトナク之ガ爲該  
方面ノ人心今ニ至ルモ吳ヲ離レズ 屬其ノ蹶起ヲ懲漚  
シ來レル事例モアリ

吳自信(考)ハ同方面ニ對スル人心ノ把握收攬ニハ自信ヲ有  
シアリ

要スルニ吳ハ合作ニ對シテハ何等異議ナシ 唯現在ト  
シテハ其ノ方法如何ガ殘レルノミ 而シテ其ノ一ハ國  
民黨黨統ノ問題ニシテ他ハ吳及其ノ周圍ノ人ノ地位ノ  
問題ノミ

彼ハ「國民政府」ノ名稱踏襲ニ對シテハ自ラ降レルカ

如キ感ヲ抱カシムルモノアリトシテ之ヲ忌ムモノナル  
モ之ハ納得セシムルニ難カラス唯國民黨ノ問題ハ汪カ  
過度ニ國民黨專政ニ偏スルカ如キコトアリテハ納得セ  
シメ得ス要ハ政府ト黨トヲ別個ニ考フレハ可ナリ

汪、  
諒解セリ 余モ年長ナル吳ニ對シ任命シ若ハ自分ノ下  
ニ置クカ如キコトハ行ハス 薦任官トスヘシ

(陳註) 吳ノ地位ノ問題ハ後日ニ讓ルコト、シ之以上深  
入りセサリシモ汪ヨリ吳ヲ任命スルノ形式ヲ執ラス推  
薦ノ形式ヲ執ルノ要アルヘシ

汪、  
溫宗堯ハ吳トノ關係良好ナリ 然ルニ吳ノ手紙ニハ貴  
下ニ對シテノミ接衝スル様認メアリ 溫宗堯ヲ呼フ必  
要ハナキヤ

陳、  
吳ノ代表ト自稱スル者ハ北京ハ勿論重慶ニモ劉某アリ  
之等ハ何等眞個ノ代表ニハ非ス(在重慶吳代表ノ僞ナ  
ルコトニ對シテハ汪モ吃驚ス)依テ吳ハ今回ノ親書ニ  
使用セル印判ヲ押捺セル手紙ヲ而モ自分(陳)ノミニ携  
行セシメ眞個ノ代表タルヲ明確ナラシメントスルモノ  
ナリ

汪、  
和平救國會ハ臨時的ノモノナリヤ 又ハ永久的ノモノ



陳、綏靖委員長推薦問題ニ絡マリ吳ハ未タ就任シ居ラス  
解散問題ハ聯合委員會側カ勝手ニ宣傳セシモノニ過キ  
ス 余自身ハ和平救國會ヲ現ニ指導シアリ 同會ハ政  
黨ラシキ形式及手續ヲ執リ將來ハ政黨ニ轉化スヘキ性  
質ヲ有ス

新同盟會ハ或時機ニ至ラハ國民黨トシテ存立シ得サル  
コトアルヘシ上海ニハ國民黨員多キモ北方ニハ少キヲ  
以テ現在同會ハ國民黨内外ノ人士ヲ併セ抱擁シアルニ  
付將來ハ整理ノコト、スヘシ

自分ハ汪ト吳トノ中間ニ在ルモ右ハ全ク汪吳合作ノ爲  
ニシテ余本來ノ立場ハ國民黨員ナリ 從テ將來ハ黨員  
トシテ汪ニ接近セントスルモノナリ 又余ハ立場上和  
平救國會ヲ棄ツルモノニ非ルモ同會ハ完全ニ國民黨ノ  
與黨トナルヘキモノナリ

余ハ汪先生尙河内ニ在リシ時褚民誼ト相談シ先生ヲ上  
海ニ呼出スコトヲ獎メ身邊ノ安全ヲ保證スルハ固ヨリ  
現在先生ノ居住セル家屋モ當時既ニ余ニ於テ指摘セル  
程ニシテ余トシテハ先生ノ立場ヲ充分考慮シアリ

汪、貴下ハ國民黨中央委員トナシアルモ貴下ノ現地位ニ鑑  
ミ取消スヲ可トセスヤ

陳、今後情況進展スルニ從ヒ更メテ相談ノコト、スヘシ

(陳註)要スルニ汪トシテハ吳カ黨統問題ヲ認ムルヤ否  
ヤト謂フニ對シテ吳トシテハ國民政府ノ法統ハ諒解シ  
得ルモ國民黨ノ黨統ハ諒解シ得スト謂フニ在ル點ヲ明  
確ナラシメタリ

~~~~~

492

昭和14年9月27日

在上海三浦總領事より
野村外務大臣宛(電報)

新中央政府に対する承認問題等につき汪兆銘
と独伊總領事会談について

上海 9月27日後発

本省 9月27日夜着

第二七七六號(極秘)

伊太利、獨逸兩總領事ハ二十五日各別ニ非公式ニ竹内ヲ訪
問シタルカ伊太利總領事ハ伊太利トシテハ竹内ノ中央政權
樹立工作力一日モ早ク成功スルコトヲ希望シ居リ而シテ新
中央政府出現ノ際ハ伊太利ハ日本ニ次テ直ニ之ヲ承認スル

ノ用意アリ且西班牙、葡萄牙モ伊太利ニ次テ承認スヘク獨逸モ承認ヲ與フヘキコト疑ナシト述ヘ獨逸總領事ハ竹内ノ和平運動ニ同情スルモ出來得レハ重慶政府ト協力シテ和平工作ニ當ラレンコトヲ希望スルモノナリト述ヘタル由而シテ右獨逸總領事ノ意見ニ對シ竹内ハ自分等ハ強テ重慶ト離レテ和平運動ヲ起シタルニアラス河内ニ赴キタル後モ約半年間重慶政府ニ對シ和平ヲ勸告シ其ノ反省ヲ求メタリ然ルニ重慶ハ吾人ノ意見ヲ採擇セサルノミナラス刺客ヲ送りテ同志ノ暗殺スラ行フニ至レルヲ以テ已ムヲ得ス挺身和平運動ニ乗出シタルモノナリトテ其ノ心境ノ公明正大ナルコトヲ縷説シタル趣ナリ伊太利總領事ハ二十七日汪精衛訪問ノ豫定ナリ(本電發表セサレサル様願度シ)^(ラカ)北京、天津、青島、濟南、南京、漢口、厦門、廣東、香港ヘ轉電セリ

493

昭和14年9月27日

在上海三浦總領事より
野村外務大臣宛(電報)

三巨頭会谈後も汪側と臨時・維新兩政府との

間には懷疑の念ありとの観測報告

上海 9月27日後発
本省 9月27日夜着
第二七七九號(部外極秘、館長符號扱)
南京發貴大臣宛電報第二〇七號二關シ

右會談ハ日本側ノ調停ニ依リ辛ウシテ大體ノ結論ニ到達セルモノニシテ支那側三巨頭ノ意見完全ニ融合セル結果ニハアラス蓋シ竹内側ト既成政權側トノ間ニハ今尙懷疑ノ念去ラス一方ハ國民黨ノ專斷ヲ牽制セントシ一方ハ既成政權側カ實權ヲ握リ國民黨側ニ對抗スル下心アルニアラスヤト懸念シ相互ニ駭引ヲ爲シ且既成政權側ニテハ事毎ニ日本側ノ顔色ヲ窺ヒ乍ラモ竹内ト日本側トノ間ニ如何ナル程度ノ了解アルヤ其ノ真相ヲ知悉シ居ラサル爲虛心坦懷ニ協議シ得サリシモノト觀測セラル依テ中央政治會議ノ開催、新中央政府ノ樹立ニハ充分ナル下準備ヲ爲シ事前ニ關係各方面ノ打合ヲ遂クル必要アリ之カ爲影佐、喜多、原田等打合ノ結果十月上旬頃先ツ日本側關係當局者ノ協議會ヲ開キ次テ竹内及既成政權側ヲ側面的ニ指導シ其ノ結果ヲ見極メテ同月下旬頃再ヒ三巨頭ノ會見ヲ行ハシムルコトニ豫定セリ
一方竹内側ニテモ今回ノ會談ノ經驗ヨリ見テ中央政治會議

開催迄ニハ日本側及既成政權側ト事前ニ充分ナル了解ヲ遂ケ會議開催ノ際ニハ何等ノ紛糾ナク中央政府樹立ニ關スル議案ヲ通過シ得ル様慎重ニ手配シ置ク必要アリト感シ居ル模様ナリ

在支各總領事及香港へ轉電セリ

~~~~~

494

昭和14年10月3日

在北京堀内大使館參事官より  
野村外務大臣宛(電報)

中央政府樹立に際しては華北特殊性の明確化が必要との見解を王克敏が喜多華北連絡部長官に対して表明について

付記一 昭和十四年九月二十八日

「九月二十八日長官、王克敏會談要領」

二 昭和十四年十月三十一日

「中央政府樹立問題ニ關スル喜多長官、王克敏會談要領」

北京 10月3日後発  
本省 10月3日夜着

第一〇九一號(館長符號扱)

當地聯絡部係官ノ内話ニ依レハ王克敏ハ喜多長官ヲ往訪シ、中央政府樹立ノ際之ト北支政權トノ關係即チ北支特殊性ヲ明確ニ定メ置ク要アリ事變前宋哲元政權カ何事モ爲シ得サリシハ此ノ關係カ不明確ナリシニ因ルモノナリ

二、自分ハ中央政治委員會ニ入りテ中央政府ノ爲ニ働クコト至當ナリト考ヘ居タルカ先般南京ニ於テ竹内ト會見シ示サレタル委員會組織辦法ヲ見ルニ及ンテ吾人ノ出馬ノ餘地ナキヤニ認メラレ委員會入りヲ豫定セラレ居ル王揖唐、朱深、湯爾和等モ之ヲ好マサルヘシト述ヘ長官ヨリ右兩問題ニ付テハ更ニ考究ヲ要スル旨竝ニ臨時政府當局ノ中央政權參加ハ新秩序ノ建設上肝要ナル旨ヲ説示セル趣ナリ

上海へ轉電セリ

(付記一)

九月二十八日長官、王克敏會談要領

長官

今回南京に於ける三巨頭の會談は準備が悪く又日本側の肚が十分決定し居らざりし爲、巧く行かざりしが各關係

者會合の上十月中旬までに日本側の腹案を決定し、十月下旬、北京に於て第七次聯合委員會開催の際、三巨頭とも相談し、十一月上旬には三巨頭相携へて日本に赴き總理とも會見の上、日本政府の意の存するところを徴したる後十一月下旬、中央政治會議を南京に於て開催し遅くも十二月中には中央政府の樹立を見得る様努力することとなり居れり

#### 王克敏

日本側の肚が決して初めて難問題も解決せらるべく、中央政府の樹立に關しては、北支の機構を如何にするかが最も重大問題なり、華北政務委員會の權限に關し原則だけでは駄目なり、政治、經濟、財政等の各個に付、具體的に如何なる權限を有せしむるかを十分決定した後にあるざれば、政治會議を召集するも無益なり

汪兆銘は北支の特殊性と言ふことを非常に簡單に考へてゐるが、先づこの思想を直すことが必要なり。汪兆銘の提出せる華北政務委員會組織大綱に付ては、先づ管轄區域の問題があるが、汪兆銘は北支の特殊性に對して十分の認識を有し居らず、又新中央政府の樹立を國民政府の

復活と考へてゐるが此の考へ方は我儘なり、支那の現状は國力も弱く、日本の援助がなければ何も出來ぬ實情なり、又軍隊も有せず治安の恢復せざる現状に於ては、日本友軍の駐屯は絶對必要と思はるゝが汪兆銘氏は先般南京に於ける會談の際、中央政府樹立後二年以内には日本兵の撤退を見る様既に日本政府と約束が出来てゐると言はれたが此の問題は非常に重要問題にて、友軍に對しては洵に御苦勞でしたと言ふ氣持でなければ駄目なり、此の問の事情を自分より汪兆銘氏に説明せむとしたるも、喧嘩になるので十分意見を交換せずして分れたが之を以て中央政府樹立に對する自分の態度が冷淡なりと言はるゝは當らず自分は長官も御承知の通り中央政府の樹立に關しては卒先贊意を表し居るものなり 云々

尙王克敏より焦榮（大學教授）なるもの南方より來り自分に會見を求め居るを以て、二十九日會見のことゝなし居るが焦の使命は恐らく國民黨の支部を北支に作るにありと認めらるゝが、北支に國民黨の支部を作るに關し長官の御意見を伺ひたしと言へるを以て長官より中央政府樹立に關聯し國民黨は合法政黨として正式に日本側からも承認される譯

### 3 新中央政府樹立に向けた動静

(欄外記入一)

(一)三巨頭ニ對スル工作要領  
三巨頭ニ對スル工作要領並ニ附屬書類ハ大體中央政府樹立ニ關スル案ニシテ、臨時政府ニ直接關係アルモノハ臨時政府ノ名義取消及ヒ取消後ノ組織構成、權限等ナルカ

#### (付記二)

中央政府樹立問題ニ關スル喜多長官、王克敏會談要領

(昭和十四年十月三十一日 於喜多公館)

太田書記官口授

#### (欄外記入)

王ニハ此時始メテ渡シタルモノト見ユ

(欄外記入)

置けり

であるが、北支に支部を設けることに就ては十分研究を要すと思はるゝ旨返事し置きたる由

追て本會談の際南京に於ける三巨頭會談の經緯にも鑑み長

官より王克敏に對し六月十五日附「中國主權尊重原則實行

ニ關シ日本ニ對スル要望」及六月十六日附「中國側ノ提出

セル時局收拾ニ關スル具體的辦法及日本側意見」を手交し

組織及權限等ノ問題ハ日支國交調整ト不可分ノ關係ニアリ、國交調整ノ如何ニ依ツテ決定セラルヘキ性質ノモノナリ

人事問題ニ關シテハ臨時政府ヨリ一部ヲ中央政府ニ入レルトカ一部ヲ殘ストカノ問題ナルカ、汪精衛氏希望ノ候補者カ行ク行カヌノ問題ハ別トシテ、中央政府樹立ノ時ハ現在ノ臨時政府ノモノヲモ加ヘテ之ヲ組織スル案トナリ居レリ。

中央政府樹立ト同時ニ臨時政府ノ名義ハ取消サレ又華北政務委員會ノ組織、構成、權限ハ國交調整ヲ俟ツテ確定スル次第ナレハ本案ハ直接ニハ臨時政府トハ關係ナキ問題ナル事ヲ先ツ聲明シテ置キタシ

本日此點ヲ特ニ申上クル所以ハ昨日ノ「トランスオーション」ニ「日本側ニ於テハ中央政府樹立ノ時期ハ年末ト稱シ居ルモ汪精衛側ニ於テハ、中央ト地方トノ權限其他ニ關シ、地方政權側ノ要求カ強過キル爲話合ニ長時間ヲ要シ從ツテ中央政府樹立ノ時期ハ遅レルモノト觀測シ居レリ」云々ノ通信アリタル處、我々ハ地方制度ニ關シ何モ權限トシテ之ヲ要求シ居ル譯ニ非ス。

即チ華北政務委員會ノ組織、構成、權限等ハ、日支新國交ノ調整如何ニ依ツテ決定スル問題ナレハ汪精衛氏カ此日支國交調整問題ヲ如何ニ考ヘ如何ニ處理セラレルカカ根本問題テアルト考フ

(二)「中央政府樹立工作要領」ノ取扱ニ關シテハ二十八日長官ヨリ御話ノ通り、充分ノ注意ヲ加フヘシ

(三)「三巨頭ニ對スル工作要領」ニ對シテモ別ニ異存ナキカ念ノ爲各條ニ付テ御話スルコトトスヘシ

(1)別紙第一ノ中央政治會議組織辦法ハ九月南京ニテ汪精衛氏ヨリ貫ヒタル案ノ通りナルニ付キ異存ナシ

(2)中央政治委員會組織條例草案ハ「訓政期間中ニ於テハ」ナル字句ヲ入レタ丈ニテ其ノ他ハ從來ノ案ト同樣ナルニ付キ別ニ異存ナシ

(3)別紙第三モ異存ナシ、只各條ニ付テ意見ヲ申上ケレハ第一項ハ中央政府樹立前ノ問題ニシテ、樹立後ハ問題トハナラス、第二項ノ「日本側ト連絡」云々ハ當然ノコトナリ

重慶政府ノ主要分子獲得ニ關シテハ汪精衛氏ノ意見ノ通りヤル事カ必要ニシテ、若シ汪精衛氏ヨリ對重慶工

作ニ關シ我々ノ協力ヲ必要トストノ申出アラハ我々ハ汪氏ニ滿腹ノ協力ヲ與フヘシ

第三項ノ日支新國交調整ニ關スル原則ハ汪精衛氏自身東京ニ於テ日本側ト相談シタル問題ナルヲ以テ、具體的事項ノ決定ニ關シテモ、汪精衛氏ニ一任スル方カ問題ヲ徹底セシムル所以ト存ス。第四項ハ問題ナシ

(四)中央政府組織ノ爲ノ人事ノ概定ニ關シテモ汪精衛氏ノ希望通りヤルヘキ問題ナルヲ以テ汪精衛氏ノ指定セラルル各候補者ニ對シテハ成ルヘク中央政府ニ入ルヤウ努力致シタシ。青島會議ニ出發前關係者ト打合ノ上、本人ニ意向ヲ確カメ置ク事トスヘシ

中央政府ノ教育部長タルヘキ湯爾和氏ニ關シテハ、二十八日長官ヨリ、別ニ棄權シタル趣旨ニハ非ストノ御説明アリタルカ教育部長トシテ湯爾和氏ニ持出シテ可ナリヤ、(右ニ對シテ長官ヨリ持出サレタキ旨ヲ述フ)

(五)中央政治會議ノ議題ニ關シテハ此通りニテ結構ト思ハル處

(1)右議題中對重慶工作ニ關シテハ汪精衛氏カ一番良ク知ツテ居ラレル譯テアルカラ先ツ汪精衛氏カトシナ考ヲ

持ツテ居ラレルカ御聽キ致シタシ(之ニ對シ長官ヨリ汪精衛氏ハ何應欽氏等ヲ引張り出シタキ考ヘナル旨述フ)

(2) 新中央政府樹立ニ關シ

(イ) 新中央政府樹立ノ時期、構成ニ關シテハ問題ナシ  
(ロ) 政府ノ名稱、首都ニ關シテハ已ニ東京ニ於テ方針カ決定シテ居ルカラ、別ニ中央政治會議ニ於テ協議ノ要ナシト認ラル

(ハ) 國旗ニ關シテハ、青天白日旗及ヒ反共和平等ノ旗ヲ使用スル事ハ問題ナシ、但シ五色旗ヲ新民會旗ニ變更スル事ニ關シテハ新民會ニハ已ニ新民會ノ會旗存スルヲ以テ其點ニ關シテハ新民會ト相談スル要アラン。五色旗ノ問題ニ關シ嘗テ臨時政府ノ兩委員ヨリ長官其ノ他ニ對シ私見ヲ發表シタル事アルモ之ハ大シタ問題トハナラス、實ハ五色旗ハ臨時政府成立前ヨリ北支ニ掲ケテアツタモノテ臨時政府ニ於テ政府ノ旗トシテ決メタモノニ非ス

(ニ) 政府ノ政綱及ヒ政策ニ關シテハ直接汪精衛氏ニ聽イテ見タイト考ヘテ居ルカ現在ハ訓政時期ナルヲ以テ、

大體ニ於テ國民黨ノ政綱、政策カ新中央政府ノ政綱、政策トナルノテハナイカト考ヘラル、(右ニ對シ、長官ヨリ、余リニ國民黨的ノモノトナツテハ困ル、日本ノ要望及ヒ既成事實等ト矛盾シナイモノト致シタイ考テアルカラ、會議ニ際シテハ、其積リテ汪精衛氏ト折涉サレン事ヲ希望スル旨述ヘタルニ王克敏ハ之ヲ諒承セリ)

(ホ) 臨時、維新兩政府ノ發布セル法令ノ取扱方ニ關シテハ問題ナシ、重慶政府ノ分ニ關シテハ、東京ニ於テ研究シテ居ラレル事ト思ハル

(ヘ) 軍隊及官吏ニ關スル措置ハ既成政權ノ事ヲ心配シテ下サル日本側ノ好意ニ基クモノト思ハレルカ臨時政府トシテハ大シテ問題ニナラヌト考ヘテ居ル

(ト) 臨時、維新兩政府ノ名稱廢止ハ已ニ決ツタ事テ當然ノ事テアル

(六) 地方制度ニ關スル件ハ新國交調整ノ話ト最モ密切ナ關係アル問題ナレハ新國交調整ノ問題カ汪精衛氏ノ努力ニ依ツテ、日本トノ間ニ話カ纏ツタ際、其話合ヲ善ク聞イタ上テ之ニ基キ曩ニ頂戴シタ華北政務委員會組織大綱案等



具體のノコトヲ汪精衛氏ト協議スル積ナリ

(七)日支新國交調整方針ノ決定ヲ汪精衛氏ニ一任スル事ニ關シ、自分ハ全然贊成テアルカ、此ノ問題ハ汪精衛氏ヨリ進ンテ話ヲ切り出ササル限り、自分ヨリ持出ス事ヲ得サル性質ノモノナリ

(八)國民會議ノ召集及ヒ憲政ノ實行ハ成ヘク速カナラン事ヲ希望スルモ現在ハ軍事進行中ナルヲ以テ、急速ノ實現ハ困難ト考フ

(九)青島ニ於ケル三巨頭會議ノ際、聯合委員會ヲ同時ニ開催ストセハ日取ハ成可ク早く決定シテ戴キタシ。聯合委員會事務當局ノ者ヲ先行セシムル必要アル處陸路旅行ノ證明書ヲ頂クニ三日間ヲ要スル現狀ナレハ早く決定シテ戴カナイト間ニ合ハス。(長官ヨリ、日取リハ八日ノ豫定ナリシモ一兩日、先ニナルカモ知レス、又成ヘク早く決定ノ上御通知スヘキ旨答フ)

(十)中央政治會議ヲ南京ニテ開催スルコト可能ナリヤ(長官ヨリ、南京カ第一案ナリト答フ)  
一週間乃至十日間ノ期間ハ長過キルト思フ、臨時政府ヨリ五名ノ代表カ出カケテ、長期留守ニナル事ハ政務ノ遂

行上困ル(長官ヨリ、中央政治會議ノ前ニ充分話ヲ付ケ置キ、開會ノ場合ハ急速ニ運ヘルヤウニ致度ク會期カ長期ニ亘ル爲、臨時政府ノ政務カ滯滞スルヤウテハ困ルト考ヘテ居ル旨述フ)

(十一)新中央政府構成分子ノ日本政府ニ對スル確約ノ件ハ、汪精衛氏限りノ問題ナルカ其内容ニ關シテハ自分モ良ク諒解シ居レリ。此問題ニ就テハ汪氏ノ意見ヲ充分聽ク迄私見ヲ申上ケル事ハ遠慮致シタシ(右ニ對シ長官ヨリ、汪精衛氏ニ於テ異存ナケレハ貴委員長モ異存ナシトノ意味ナリヤト借問セルニ、然リ、ト答ヘタリ、更ニ確約ノ條例ハ公正、妥當ノモノテナケレハナラヌカ若シ其内容ニ之ハ無理テアルト思ハレル點カアレハ友人トシテ參考迄ニ御洩ヲ願ヒ度キ旨ヲ述ヘタルニ、王克敏ハ多少ノ意見ハアルモ一兩日良ク考ヘタ上テ御答ヘスヘシト答フ)

國交調整ニ關スル問題ハ汪精衛氏渡日ノ際日本政府主腦部トノ間テ大體話合ツテ居ルトノ事ナルカ具體的ノ事ハ未タ決ツテ居ナイト承知ス。自分ハ汪精衛氏サヘ異存ナケレハ別ニ意見ハナイカ、中央政治會議ニ出席スル代表者ノ中カラ、汪精衛氏ニ一任スルト言ツテモ、其内容ハト



ウテアルカ承知致シタシト詳細ノ内容ヲ聽クモノカ現レテ來ルカモ知レス、又或ル者ハ内容ノ範圍ヲ限ツテ汪ニ一任セヨト主張スルモノカアルカモ知レス、六月十五日附汪精衛氏ノ希望ハ汪精衛氏ヨリ江亢虎等ニ見セタトノ事ナレハ、其内容ニ付テ承知シテ居ルモノモ相當アルヘキ處、之ニ對スル日本側ノ意見ハ少數ノ者シカ知ラヌ模様ナリ。自分ハ出來得ル限り汪精衛氏ニ一任ト云フ運ヒニナル様會議ノ席ニ於テ盡力スル積ナルカ心臓ノ強イ人間モ居ル事ナレハ此點ニ關シ色々質問スルカモ知レス。

此問題ニ付テハ國民黨ノ代表中カラサヘ汪精衛ニ質問スルモノカアルカモ知レス(右ニ對シ長官ヨリ、汪精衛氏ノ日本ニ對スル要望ニ對シテハ近ク詳イ返事ヲ出ス事ニナリ居レリ。若シ中央政治會議ニ於テ此問題ニ關シ議論カ沸騰シタ際ニハ、夫レハ大シタ問題テハナイカラ一任セヨト言ツテ會議ヲ圓滿ニ連フ様取計ハレタシト言ヘルニ、王委員長ハ私ハ其ノ積リナリト答ヘタリ)

- (三)別紙第五ノ中央ト地方トノ關係中、臨時政府トノ關係調整要領ニ付テハ先程申上ケタ通り別ニ意見ナシ、  
(イ)只第二項ノ軍事處理機關トハ如何ナルモノナリヤ、之

(欄外記入二)

ハ治安部ノ外ニ設置セラレルモノナリヤ、前ニ戴キタル華北政務委員會組織大綱案ニハ無カリシ機關ナルカ中央ト同様北支ニモ政務委員會ト併行シテ軍事機關ヲ設置スル意味ナリヤ(右ニ對シ長官ヨリ、我々ノ希望ハ政務委員會ノ中ニ入レル積リナリ。其積リテ第三項ニハ「華北政務委員會ト軍事處理機關トノ關係」ト特ニ書キ置ケルカ此點ニ關シテハ何レ中央ニ於テ何分ノ決定ヲナシ通報アル事ト思ハルル處責委員長ノ御意見如何ト質問セルニ、差當リ華北ニハ軍事ト言ツテモ治安部ニハケ團ヲ設クルニ止マリ黃郛政權時代、政務委員會ト何應欽ノ軍事委員會トヲ併置シタ時代トハ事情異ナレリ。當時ハ軍事多忙ナリシ爲、別ニ軍事委員會ヲ置ク必要アリタルナランモ委員長トシテハナク全然自分一個人ノ意見ヲ申上ケレハ政務委員會ト軍事處理機關ト二ツノ機關カ併置セラレル事ハ不當ト思ハル、此問題ハ中央政治會議開催前ニ決定シテ置カスト困ル問題ナリ。或ル人カ東京ヘ行ツテ此ノ軍事處理機關ヲ主張シタルニ非スヤ

- (ロ)現状ヨリ調整ニ移行行ク時期ハ慢々のニ移行スル意味

ニテ良ク諒解セリ

(ハ)蒙疆及維新政府ノ事ハ北支トハ直接ノ關係ナキヲ以テ  
別ニ申上ケス

(三)長官ヨリ中央政治會議ニ出席スヘキ北支ノ代表ハ聯合委員會ノ委員ノ他更ニ二名ヲ必要トスル處ニ之カ人選ニ關シ御考慮ヲ希望スト述ヘタルニ王克敏ハ「矢張り汪精衛氏ノ希望シテ居ラレル湯爾和及王揖唐ノ兩氏カ適當ナラン尙中央政府ニ入ルヘキ人事ニ付テモ汪精衛氏ヨリ正式ノ申出アレハ充分斡旋致シ度ク若シ本人カ嫌ト言フ場合ニハ他ノ人ヲ推薦致スヘシ、此問題ニ付テハ木曜日行政會議ノ際關係者ト篤ト相談シテ見ルヘシ」ト答ヘタリ

(四)吳佩孚ノ問題

之ハ別ノ話ナルカ熊財政部次長ノ報告ニ依レハ同次長ノ親類ニ當ル陶ト言フ人カ最近汪兆銘氏ノ手紙ヲ持參シテ吳ヲ訪問セル由ナルカ其ノ手紙ニハ「政府ノ名稱及國旗等ノ事ニ付誤解ナキ様ニ」トノ趣旨カ書カレアリタル外、別ニ吳ニ對シトウ言フ地位ヲ與ヘルカト言フカ如キ具體的ナコトハ全然記載セラレ居ラサリシニ拘ラス吳佩孚ハ「自分出馬ノ上ハ貴下ニ地位ヲ與ヘテ働イテ貰ハウ」ト

言フ意味ノ甚タ振ツタ返事ヲ出シタ由ナリ

尙最近ノ情報ニ依レハ吳佩孚ノ部下十數名ハ各省ヲ巡歷シ省長公共團體等ニ對シ吳ノ出馬ヲ懇願スル通電ヲ發スルヤウ遊說中トノコトナルカ一行ノ旅費ハ川本大佐力之ヲ出シ又一行ノ内地旅行ノ證明書ハ佐々木前憲兵隊司令官カ發給サレタモノナリトノ噂ナリ。山東省省長カラノ報告ニ依ルト一行ノ遊說ニ對シ唐省長ハ吳將軍ノ御出馬ハ結構ナルカ出馬ノ請願電ヲ出ス事ハ關係筋ト相談ノ上ニ致シ度シト回答セル由

(五)最后ニ中央政府樹立ノ機會ニ豫テノ希望通り是非トモ休養サセテ戴キタシト再三述ヘタルヲ以テ長官ヨリ、今回ノ案ハ現狀維持ヲ原則トスルモノニテ人カ變レハ人心モ動搖スルヲ以テ中央政府ニ協力ノ實ヲ示ス意味ニ於テ引續キ御努力アリタク進退ニ付テハ慎重ナル考慮ヲ希望スル旨述ヘタル處王委員長ハ現狀維持ニテ此ノ儘繼續スルカラコソ一層責任ノ重大ナルヲ自覺スル譯ニテ、休養スルト言フモ決シテ隱居スルト言フ趣旨ニハ非スシテ側面カラ微力ヲ盡ス積ナレハ是非トモ休マセテ頂キ度シト繰返シ申出タリ

(欄外記入二)

行文少々アイマイナルモ王ノ話ト思ハル

(欄外記入二)

吳佩孚ノ時代ナリ

~~~~~

495

昭和14年10月22日

在中國總領事會議出席者との会見における注

兆銘の發言概要

(昭和十四年十月二十八日 亞)

在支總領事會議出席官ト汪精衛トノ會見ニ關スル件

出席者 本省 土田東亞局第一課長

〃 奥村事務官

武藤天津總領事

花輪漢口總領事

堀南京總領事

有野濟南總領事

木村書記生

十月二十二日汪精衛ハ在支總領事會議出席者ヲ茶會ニ招待シタルカ其ノ際汪カ語りタル意見大要左ノ通り

一、日本側ニ對スル要望。

(中央政府樹立ニ邁進スルニ當リ日本側ノ出方ニ付汪精衛ニ於テ最モ不安ニ感スル點如何トノ問ニ對シ)

支那民衆ヲ自分ノ傘下ニ吸收スル爲ニ和平條件トシテ日本側ガ如何ナルモノヲ提出スルヤノ點ガ目下ノ處不正確ナルコトガ最モ不安ニ感スル所ナリ而シテ右和平條件ノ中最モ重要ナルハ撤兵ノ問題及日支經濟合作ノ實體ノ點ニアリ

右ノ中撤兵ニ關シテハ自分ハ常ニ支那識者ニ對シ新中央政府ニ敵對スル勢力カ殘存スル限り日本軍ノ援助ヲ求ムルコト已ムヲ得スト説明シ居リ大体之ヲ納得セシメ得ル自信アリ經濟合作ノ實體ニ關シテハ事變以來支那事業家ノ蒙リタル實害甚シカリシニ鑑ミ日本側ハ和平ノ後果シテ如何ナル具體的協力ノ形ヲ執ルヤニ付危惧ノ念甚シキモノアリ仍テ日本側ニ於テ諸般ノ事業ノ復興ニ當リ具體的ニ事實ニ依テ合作ノ實體ヲ表明セラルルヲ得ハ自分ニ於テ支那指導階級ヲ自分ノ下ニ引付クルヲ得ヘシト確信

シ居リ其ノ要點ハ日本軍ノ支配ト支那ノ主權トノ調合ヲ如何ニ作り上ケルヤノ點ニ存ス自分カ中央政府ノ首班トシテ將來活動スル爲ニハ此ノ點ニ關シ日本側ニ於テ支那人ニ相當自由ナル立場ヲ與ヘラルルコト最モ必要ト確信ス

二、歐洲大戰ニ對スル考慮

時局收拾ニ關シ支那有識者ノ中ニハ日本ニ攻略サレル位ナラハ寧ロ蘇聯ト握ルヘシトノ說甚タ有力ニシテ孫科アタリモ公然斯ル言辭ヲ弄シ居リ民衆ノ中ニモ斯ル空氣甚タ多シ孫科カ今般伊太利ヲ訪問セルコトハ事變以來初メテノコトナルニ付極メテ關心ヲ有スル處ナルカ未タ其ノ目的ヲ探知シ得ス要スルニ今次歐洲大戰ハ日支和平ニ利用スヘキモノト考ヘ居レリ

三、蔣介石ノ立場

蔣ハ曾テ共產軍ニ對スル政策ノ根本ヲ其ノ抑制利用ニ置キタルモノナルカ右政策ハ全然覆滅セリ即チ西安事變（蔣ト共產黨ノ間ニ世人ノ知ラサル條件アリ）以後ハ共產黨ノ爲手足ヲ縛ラレ自由全ク無シ但蔣ニ於テ翻然悔悟セハ日支和平ノ途ハ自分ノ工作ニ比シ極メテ容易ナリ然ルニモ拘ラス斯ル悔悟ヲ期待スルコトハ不可能ト信ス何ト

ナレハ蔣カ百八十度ノ轉回ヲ爲ス場合ハ共產軍ノ討滅ヲ必要トス而シテ之カ爲ニハ固ヨリ支那ノ内部ニ多大ノ犠牲ヲ伴ハサルヲ得サル次第ナルカ自分ノ信念ニ依レハ手足ヲ切斷セラルルモ全身ヲ救フコトニ根本ノ國家生存ノ道アリト思考スルモノナルモ蔣ニ於テハ斯ル犠牲ヲ拂フ勇氣ナシ

四、重慶側各要人ノ立場

重慶側要人中問題ニセラレタルハ何應欽、張群、孔祥熙ノ三名ナルカ自分ハ何應欽ニ最モ同情ヲ表シ居レリ其ノ對日政策モ自分ト同意見ナリ但蹶然起ツノ勇氣ニ乏シ張群ハ考ハ自分ト同シナルモ蔣介石ヲ棄ツル氣ハ毛頭ナシ孔祥熙モ考ハ略々同様ナルモ種々ノ方面ヨリ掣肘ヲ受ケ到底頼ムニ足ラサル如シ

五、重慶側軍事領袖ノ態度

顧祝同、劉峙ハ共ニ反共ニシテ共產軍ヲ壓迫セントシテ蔣介石ニ依リ實權ヲ奪ハレ部下ノ軍隊ヲ指揮ハ漸次青年士官ニ移サルルニ至レリ之等青年士官ノ中代表的ナルモノハ陳誠ナルカ彼モ共產軍ニ事實上抑ヘラレ結局蔣ノ直系軍ハ共產軍ノ事實上ノ指揮下ニ立ツニ至レリ